

第3章 彼ら・彼女らにとって学校とは何だったのか

1. はじめに

学校の教室を想像してみよう。自分が通った学校、子どもが通っている学校、教職関係者なら自分が勤めている学校、いずれでもよい。幼稚園、小学校、中学校、高校どれをイメージしてもよい。たとえば35人の子どもたち（園児・児童・生徒）がいる。その中に、かつての自分自身がいる。教室にいる子どもたちは、その時点で「教室にいる」という点では共通であり、ある意味で平等であるが、それぞれが背負っているもの（社会・経済・文化的背景）には驚くほどの差がある。そして、ほとんどの場合、それは子どもたち自身ではどうしようもないことが多い。一方、学校は児童・生徒を「社会化」する機関である。「あるべき姿」「望ましい態度」など社会のルールやマナーを、教科・科目等の学習、道徳、特別活動、等を通して児童・生徒に身につけさせることは、学校の社会的役割であるといつてよい。「あるべき」とか「望ましい」というのは、明らかに価値判断を含んだ表現である。実際の教室場面（教育現場）では、学校が教えようとする価値にある時には消極的に（非社会的な行動として）、ある時には積極的に（反社会的な行動として）、コミットしない・できない子どもたちが存在する。学校が教えようとする価値は、ある層の子どもたちにとっては「当たり前」でもなければ、場合によっては「正しい」ことできえないのである。この章は、現在正規雇用労働に従事していない（パート・アルバイトとして労働している、または何もしていない）若者に対するヒアリング調査から、彼ら・彼女らにとって「学校とは何だったのか」を明らかにしようとするものである。

2. 学校的価値の受容と学校からの離脱

ヒアリング調査のデータに関して、学校的価値をどのように受容し内在化しているか、あるいは受容を拒否し内在化していないか、学校や学校的価値からどのように離脱していったのかを主な視点として整理した。この章では、とくに相対的に学歴が低い者（原則として高等教育を受けていない者）に焦点を当てて考察している。また、ヒアリング・データはその内容はもちろん重要であるが、彼ら・彼女らの「語り」をできるだけ忠実に再現し、引用した。その「語り」のリズムやテンポなども内容と合わせて、経験と想像力を十分に働かせて読者自身の中で「再現」してみしてほしい。そのうえで、なぜ彼ら・彼女らが「正規雇用労働に従事していないのか」を考えてほしい。なお、今回のヒアリング調査データは大きく関西地区、首都圏、東北地区、の三つの地域に分けることができる。それぞれの地域の特徴としては、関西地区のヒアリング対象者は中学校卒業後、公立普通科の非進学校（進路多様校）に進み、卒業あるいは中退してそのまま現在の非正規雇用労働に従事あるいは就労していない状況になっている者が多く、首都圏は公立・私立普通科高校を経て高等教育機関に進学、卒業あるいは中退した後に現在の状況になっている者が多い。この二つの地域のヒアリング対

象者の差は、高卒後高等教育機関に進学した、あるいはできたかである。進学できたかどうかの背景には、学校に行くことによって得られるメリットを本人と保護者が認知できたかという文化的側面と進学させるだけの家計の余裕という経済的側面、この二つの要因があると思われる。また、関西地区の対象者と比較すると首都圏の対象者は、社会的環境よりも本人自身の要因が強く現在の状況に影響している者が多いという印象がある。東北地区は、高卒を含めた雇用環境の厳しい地域の私立高校専門学科卒業者が調査対象の大部分を占めている。印象としては首都圏に比べると経済的にはかなり厳しいが、学校には適応しており、現在の状況は本人の要因というよりは地域の環境的要因の方が大きいと思われる。

2.1 学校に行きたかったか？（中学校からの高校選択）

まず、今回の調査対象者は「学校に行きたかったのか」を考えてみる。場面としては、中学校卒業時における進路選択「どのようにして進路先（高校）を選んだのか」である。中学校から高校への進学率は最近は大体 97%前後で推移している。「高校へ行くのは当たり前」という意識を、多くの生徒、保護者が持っていると考えられている。実際の高校進学にあたっては、中学校までの学校への適応が規定要因になっている。入学試験で目に見える差となって表れる学力、学校生活への適応の指標、ひいては勤勉さの指標となる出席状況（欠席・遅刻・早退など）、集団生活への適応の一つの指標である特別活動歴（児童会・生徒会活動、クラブ、部活動など）が総合的に、どんな高校へ入学できるかの規定要因になっている。当然のことながら、学力不振、不登校などを含めた多くの欠席は直接的に、積極的に特別活動に参加しなかったことはどちらかといえば間接的に入学できる高校を規定する。18歳人口の減少に伴って、一般的には大学進学が容易になっており、いわゆる伝統的「進学校」以外にも大学進学は可能になってきている。その中であって、高校卒業後「進学しない」「進学できない」人、高校に「行かない・行けない」人、高校の途中で「学校を離れる（中退する）」人はどういう人なのかをヒアリング・データから見てみよう。ここでの視点は、彼ら・彼女らがどんな背景をもち、どんな生活をしてきたのか、そもそも「学校に行くことのメリットを認知できたのか」、すなわち学校に適応する価値を持ち得たのか、という点である。

（A）関西地区

関西地区に限ったことではないが、積極的に高校に進学するという気持ちはうかがえない。

中学校、行ってなかったんですよ、あんまり学校、全然。中学の時、学校行ってなかったというのは…特に、「めんどくさい」という理由で。中学面白くなかったですね。先生の授業も、やっぱり合わなかった。全然。いい先生おらへんかった。僕の中では。友達が多かったんですけど…。そうですね、中3入ってから「高校行きたいな」思って、ちょっとずつ学校行きだしたんですよ、中学校に。さすがに「中卒はいやや」と。〇〇高校選んだのは中学校の先生、「行けんのちゃうか」と、それでチャレンジした。中学校の時は自分がどうなるとか、あんまり考えてないですね。どういう風になりたいとか。全然

ない。

<37cm・19歳・高卒・男性>

高校は行ってないですね。受験もしてない。進学は全く考えてないですね。学校が、まだそのころはそのときで頭でっかちになって、学校というのが何やろう、何しに行つてねんやろうというわけのわからないことを思って、で、もう働こうという。「高校、どうするねん」とかいう話のときに、校長先生が僕んちに校長先生と担任の先生が来てもらうてたんですけど、反抗期で、寝起きも悪かった自分がいたんですよ。学校という何かに縛られたくないという自分が多分あったと思います。学校へ行くということに縛られたくないという…。何か変なこだわりがあってね、学校というところには行きたくなかったんですよ。別に先生がおる、嫌やとか、勉強が嫌やじゃなくて学校という何か大きい何かに自分がとらわれているというか、学校が嫌やという、名前が嫌やというわけのわからないことを言うていたんですけど、多分それは言いわけであって、こじつけであって、学校自体に何か行きたくないというのを感じていたと思うんですけど、でも、あのとき考えていたことは、学校が嫌やったというしか、いまだにちょっとわからないですね。

<1am・24歳・中卒・男性>

私立は絶対に行きたくなかったんですよ。公立に行きたくって。公立でも△△商業に行きたかったけど、中学さぼったから無理やわって言われて…。「今から頑張っても無理やから、ちゃうとこしい」って言われて。でも、女子校だけは絶対嫌やって思ってて。「どっかない？ どっかない？」って先生に言っとって、「ないわ」って。何せ商業科に行つてみたかったんですよ。商業科で何かやってみたいと思って。何か夢あったんかな。行ききたかったというか…。

<12df・20歳・専門中退・女性>

(高校でこんなことをしたいな、高校はどこに行きたいなという展望みたいなののは?) 全然なかったです。

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

あんまり考えてなかったんです。流れるまんまというか。この高校に行きたいなとか、あんまりなかった。高校に入ってもテニスをやりたいなというのはあったんですけど、一応は。この学校を受ける前に、私学1校受けているんですよ。ここ(公立高校)はどうせ落ちるわという感じやったんで、私立の学校でテニスができればいいかなという感じやったんですね。だれかと話したりとか、相談したりとかは、別になかったですね。

(1人で決めた?) そんな感じですよ。あんまり友達とかに流されたりとかしないほうがいいかなと思ったんです。担任の先生とかにも相談しなかったです。

<28cf・19歳・高卒・女性>

高校は〇〇高校。近場で、自転車で行ける距離なんで。それが一番のポイントやったから。中学校ではだれにも相談はたぶんしてないと思う。中学校の先生から別に特にアドバイスとかはなかった。塾の先生に相談したり、アドバイスしてもらったりというのはありました。(制服は結構大きな基準やったんですか?) そうです。制服はちょっと。

<29ef・24歳・短大卒・女性>

親にもね、「高校だけは出とけ」って言われてたし、自分的にも、まだ働くのは嫌やなというのがあったんで。僕、最初は、わかんないと思うんですけど、〇〇高校に行こうとしてたんですね。でも、すごい遠いんですよ。毎日行くのに、これはだるいなあって思いました。自分の成績から見て、ぎりぎりのところに行きたいじゃないですか。ちょっと背伸びしたかったんです。その頃、塾行ってたんですよ。「じゃ、やってやろう」と思いつつも「結構遠いな」というのもあって、「あ、やっぱ、いいかなあ」って思っちゃいました。僕んちから△△高が近いっていうのもあるし、成績で入れそうっていうのもあ

ってってという感じで、友達も結構多かったんで。

<23cm・21歳・高卒・男性>

(通学は)自転車ですよ。10分くらいで、家から学校まで。もう最終的に選んだのは、高校選んだのは、近いから、みたいな(笑)。高校に行こうっていうのは、もう普通に、自然と。当然行くもんやと。なんか最初はどこにしよう、とか思ってた。まず、あんなこと言っていていかわからんけど〇〇高と△△高はやめようと思ったんですよ。その2つはなんかアホって感じなんです(笑)。こことここはなしでって感じで(笑)で、あと、進研ゼミとかで、高校…どこの高校がいいとか書いて、テストで送ったら、何%とか。初めにやったとき、□□高書いたら結構よかったですよ、70から80くらいあって。ああ、いけるんちゃうんとか思って。その後書いたらだいぶ下がってたんですけど。大体そういうのからこの学校考えるようになって。で、もうひとつ最終的に悩んでたって言うか迷ってた高校があって、××商業かな。それが電車で行かなあかんとところで、結構遠かったから、迷っちゃって、無理やなって。私は早起きが苦手やし、とか思って。なんかいろいろ本とか買って、制服とかも見て、そこはネクタイやったんですよ。□□高はリボンで。あっそれもちょっと。結局ここ入ってから、制服はイマイチでしたけど。でも□□高は基本的に上は自由なんで、勝手にネクタイつけてもいいし、スカートはいて。後、式の日とか外部のなんかは制服は着なあかんとか。後は全然自由で。Tシャツ着ようが、よかったですね。(商業にするか迷ったのは)とにかく前から大学とか、進学することは考えてなかったから、とりあえずなんか就職系のってゆうか。で、高校に来て文書処理とかやってたし。ワープロとか簿記とかやってたし。別に、その、最初ほんとに選択あるんです、だから、これもアホかって言われそうですけど一番楽なやつを全部選んで、楽しようと思ってたんですよ。でも、なんか結局選ぶってなったら、なんかそれも、そんなに楽なやつなんてないし、ちょっとでも何か役に立ちそうなやつを取った方がいいなとか思って。で、その文章処理とか、仕事で活かそうなんって基準で選んだ。進路決める時ね、お母さんには相談しましたね。言ってくるんですよ、どこにすんのとか。迷ってるって言ったら、お母さんはどっちかという××商業の方がいいんちゃうって感じでしたね。まあ商業なら何っていうか商業ってわかってるじゃないですか。どういことをするとかも。□□高は総合学科で、たぶんなんもわからなかったから、なんか「う?ん?」って感じやったんかな。最終的には自分で決めた。お父さんには、受かってから、「どこにしたん?」って言われて。だからそんな感じですよ。全然何にも言ってけへんし。言わんし、みたいな。

<39cf・19歳・高卒・女性>

〇〇高校は女子が多くて、入りやすいっていうのを聞いて、いい学校って先生が言って、私は、〇〇高校あんまりいいと思ってなかったけど、なんかちょっと他の高校が難しかって、入りにくかったから〇〇高校を選びました。成績面で、厳しかったから。(行きたい高校は)あんまりなかったけど、△△高校行けたらいいなぐらいやったんけど、〇〇高校でもいっかなぐらいしか思ってなかった。△△高のことは、友達が来てパンフレットを見て、なんかよさそうやなーって思ってた。お母さんは、私立はお金かかるからやめとこみたいな、そんな感じ。

<38cf・18歳・高卒・女性>

高校進学するのに〇〇高校ってあるじゃないですか。中2ぐらいまでの成績やったら行けてたのに、中3になって成績がいきなり落ちて、こんな成績やったら行くところ自体がまずないよって。「でもあんたの夢は看護婦さんでしょ」、もう一回ちゃんとやる気があるんやったら、高校出てもう一回専門学校を勉強してやる道もあるから諦めんとやりなさいって、先生に言ってもらって。性格上、私、結構人とぶつかる性格やから、△△高校の先生はそうゆうのが全くなってオープンな先生やから、ランクは下げることになるんやけど△△高校受けてみたらどうやって。中学3年生の担任の先生が結構いろいろと相談にのってくれた。

<22cf・19歳・高卒・女性>

中学出て、高校にいこうと。(誰に相談?)先生。で、落ちたから、定時。行きたかったのは〇〇高校、落ちた。先生は△△高校(を勧めた)。で、遠いから嫌ってゆった。〇〇高校(を受けたのは)自分が一方的に。△△高校は遠いから嫌と、階段。聞いたというか知ってる。階段長い。(私立は?)受けてない。受けたくなかった。受けても、落ちるような気がした。高校には行こうと思ってたから、□□高校を受けて受かった。(□□高校に受かって期待するものとかありましたか?)…。でも、親がどっか行けど。高校には行きたかった。(□□高校は先生に教えてもらったのかな?)多分そう。(□□高校定時制進学は)いやいやではない。(受かったときはうれしかった?)うん。〇〇高校がよかったのは、近いから。一番近い高校は××高校。絶対無理。いけるかもしれないというので、一番近いのが〇〇高校。

<6bf・20歳・定時制高校中退・女性>

積極的な高校進学の原因を見いだせなかったばかりか、なかには自分の意志というより親の強い希望によって高校に行かせられたという感じの者もいる。

別に、行けるところに。(高校には)行きたいとは思わなかったけど。中学卒業するときに、ほんまは調理師学校に行きたかったけど、「行くんやったら見習いで行け。それじゃなかったら高校行け」って言われたから。お母さんに。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

公立に行きたくて、でも行かれへんかった。公立はめっちゃやばい、一番あほみたいな〇〇高校しか無理、そうでなければ専門学校って言われて、お父さんに「〇〇とかに行くんやったら私立に行っているほうがいい」と言われて、私立も△△と××女子しか、そういうところ言われてんけど、そこも「柄が悪いから、最低でも□□高校にし」と言われて、それで受けた。高校がとりあえず行けるところで、その□□高校も「多分行かれへん」って言われとって、「商業科のほうが入りやすい」と言われて、自分の意思ではなく入った。(入りやすいというアドバイスは?)中学校の担任の先生です。進路で、先生と親との面談のときに公立は無理と言われて、友達もみんな行くと言っていたから、◇◇高校に行きたくて。何でやろう。そこと□□高校は前から知っていて、その◇◇高校に知っている人も行っていたから。しかも、そんなに賢いところじゃなかった、行きたいと思っていた。高校を選んだのは将来の夢とかということではないですね。

<18cf・20歳・高卒・女性>

さらには、友人と一緒にならという動機さえ見受けられる。

(友人の)〇〇君が中学から一緒なんですけど仲よくて、△△高校へ行くと。それなら俺もそこでいいやという感じで。中学の先生に最もやったらあかんと言われていたやり方で高校を選びました。友達が行くからとか、そんな理由で選んだらあかんよとずっと言っていたんですけど、もうええやと。高校へ行くのもどうでもよかったんですよ。行かんでもいいかなと。何も考えていないですよ。中学生だったので何も思わずに。

<51em・22歳・専門学校卒・男性>

なかには、高校に行くのが当たり前という感じの動機をあげる者もあるが、中学校生活そのものが円滑に送れていたとは言い難く、実態との乖離は大きい。

高校に行くのが当たり前みたいな雰囲気がありましたので。高校には行きたいなということで、徐々に2限目ぐらいから行き始めて。授業にも出だして、テストもちゃんと受

けるようになって、成績が上がったというか、全体的に見たら。(高校は)総合学科というぐらいしか決めていなかったんですけども…最初から熱心やった友達が、総合学科というのはいろいろなものを選べるとか、いろいろなやつができるところやねんという話で、何か高校へ行ったらこんなことをやれるのかなとかいう楽しいところばかりちょっと考えてしまっていたので総合学科に。あと、その当時の生活からいくと、朝の電車で遅刻せず乗ってというんやったら無理やろうなと思ったので、自転車を通えるようなところのほうがいいかなと思いました。私立は全く。家庭の経済的なことでどうせ行けないので、受験料がむだなだけなので受けませんでした。お母さんには、進路のことに関しては相談しませんでした。して、大分失望したので。最後はあんたが決めることやになとか、そういうことばかり言われたので、そうじゃなくて聞いてほしいのに…。放任過ぎて、ちょっと寂しいなというのがありますけれども。

<20cf・18歳・高卒・女性>

上で見てきたように、関西地区では「とくに行きたい高校はない」状態で、成績によって進学する高校を決定している者がほとんどであることがわかる。その前提となっているのは、「高校卒業後、進学はしない」という進路展望(希望というよりは状況判断としての展望というのが近い印象がある)である。これは「学校に行くことが将来の達成に結びつく」という認識をもたない、あるいはそうした認識が希薄であることを意味している。

(B) 首都圏

首都圏では、先に述べたようにヒアリング対象者のなかで高等教育進学者が多いという特徴があるので、限られたデータからではあるが、やはり積極的な高校進学動機はうかがえない。

県立高校の普通科。あんまり学校に行っていない子が入っているところで昼間定時制だったかな。何かそういう感じのやつ。そういうところで、わりと行かない子とかもいて、僕なんか別に普通に話そうと思うと、全然話してくれないとか、おれどうするんだ、おれみたいな、話しかけなければ一言も返事しないやつ。すげえそういうのがあって、学校では先生に、とりあえずやらされちゃう感じで、それはちょっとしんどかったなど。

<5bm・20歳・高校中退・男性>

中学3年になって高校に行くときには、一応、第一志望が〇〇大学の附属だったので。入れたんですけど、あとはほんとに…。高校は思いどおりに入った。高校の進学については中学の先生とかには相談なしに、ここに行きますという感じで、おまえなら入れるだろうなど。

<7cm・24歳・中退後定時制高卒・男性>

中学のころ、もう、なんか…。まあ、今もなんでしょうけど、特に、先のことをやっぱり何も考えないで。中学のときの進学っていうのも、高校にみんな当たり前みたいに…。言っちゃえば、大半みんな高校行くっていう感じだから、周りが行くから自分も行くんだなみたいな感じでしたね、やっぱり。そんな感じでした。

<42cm・24歳・高卒・男性>

中学校は、とにかく詰め込み教育時代で、偏差値重視で、最悪の状態で、これも1人の先生のおかげで園芸という農業の道へ行くことになりまして、それから園芸になったんですね。これからの日本は農業だよって、その一言。へええみたいな。ああ、そうなん

だって、じゃ、園芸に。自分的にも興味は持って。もともと土いじりが好きだったから、どろんこ遊びも好きなんで。先生は担任の先生。給食中に言われまして、何にも進路に関係なく。雑談的な感じで。それで高校は園芸科に行こうと決めたんです。公立です。

<9dm・22歳・短大中退・男性>

最初、私は商業高校に行きたいって言ったんですけど、最初はそうだったんですけど、結局、最終的には、テストの点数とか偏差値とかで大体自分のランクに合った普通高校に進みました。何か小さいころ、うちの親は、「大学とかには行かせられないから」って言ってたので、だったら高校を卒業して働くのかなと思っていました。

<31ef・24歳・短大卒・女性>

(中学3年の時に)もう偏差値が下がっていったから、選べるところがなくなってきたから、成績で選んだ。県立の普通科。暴走族が入ってきたりとか、別に荒れてはいなかったけど、すごく頭の悪い人たちがいっぱい。

<13dm・28歳・大学中退・男性>

首都圏でも、高校進学状況は関西地区と同様に良くも悪くも成績に規定されている。しかし、「学校に行っても仕方がない」という感じは相対的に弱い。

(C) 東北地区

東北地区は、他の2つの地区に比べると、成績に規定されてはいるものの、また積極的にとはいえないまでもそれなりに将来のことを考えて進学先を選んでいる。

中学校3年になるとやっぱり進路のこととか高校からまた先のことを考えなくてはいけないのである程度は大学とかは行かなくていいかなと思ってたんで。専門学校とか大学は行かないで高卒で就職しようと思ってこのビジネス科に入ったから。(早く独立したいとか?)そういう意味じゃないんですけど、大学とか勉強するのが嫌だった。勉強は好きじゃなかったですね。先生はもっと別な…高い学校とか薦めてくれたんですけど。やっぱり…いろいろ交通の便とかその時点で考えちゃって…電車通学とかは嫌だなとか考えてたんで。(部活は、野球部を続けたいということは思ってなかったんですか?)あ…、それはなかったですね。やっぱり…私立に入るとお金がかかってしまうんで。親に迷惑かけちゃいけないという気持ちが強いたら強いんですけど、まあ、親は何もいわないんですけど、そうやりたいという事に関しては。それとやっぱり部活…高校では「部活はしたくないな」って思ってたんです。やっぱ…野球だとどこが強いとか弱いとかあるじゃないですか。やっぱり、強いとこいくと推薦とか頭よくないと入れないところなんで。しょうがないっていえばしょうがないという感じがあったんですけどね。あと、今の学力で確実に受かるところが良かった。一応普通科だとゼーんぶ普通って感じが嫌だったんで…。ビジネス科だといろいろ資格とか取れるんで、そっちの方面でちょっと「色々資格とってみたいな」と思ったんでビジネス科選んだんですけど。(資格が大事だということは誰かと話して考えた?)いや、自分で考えましたね。結局結論は自分で出したという感じ。親ともいろいろしゃべって、「もっと別なところがいいんじゃないか」とか、「でもここもいいな」ということで。親は薦めたりはあんまりしなかったですね。自分の主張を第一に考えてくれるんで。親とは結構、しょっちゅう喋ってましたね。はい。

<43cm・20歳・高卒・男性>

中学3年になるまでは、あんまり具体的には。どこの高校に進もうとかいうのも、あんま考えてなかったです。どこの高校って考え始めたのは、受験に入る頃。2年の夏

らいから、三者面談があってどうするっていうのがあって、「どうする、高校に進むかどうか」って言う話が一応あって、具体的に話をしたのは3年の夏頃ですかね。どういう方向に進みたいかというのは…。その時は看護師になりたかったんで、それで〇〇高校の方にちょっと「行きたいなー」っていう気持ちはあったんですよ。県内ではそこしかないんで結構…。やっぱ成績面からしても、ちょっと、もう少し頑張らなくてはダメなんじゃないかとか、通学の面からも、ちょっと厳しかったんですよ。電車、乗り継いでいけなくちゃ行けない場所だったんで。看護師って小学校のときも考えたことあります。憧れみたいなものもあったと思いますけど。やっぱこう実際に考えてみると、人が結構だめな方なんです。ただ「なればいいな」って、憧れみたいな感じだったんですけども。で、今度は「美容師もいいかな」って、それはその面談が終わってからですね。それで一応その経営するために、商業の方とかも「学んだ方がいいのかな」と思って。一応商業科のあるところ探して、あの△△高校が私の入る年から総合学科になったんで、そこでも結構学べたからそっちの方も受けたんですけど、ちょっと落ちてしまって。で、こっこの□□高校が受かったもんで、はい。高校決める時って、だいたい自分で決めたって感じですね。親には一応話しだけは聞いてもらって、「自分のことだからやっぱ自分で行きたい所に行って勉強する様に」っていわれて。

<26cf・20歳・高卒・女性>

商業科というのは、中学校の2年生くらいから。周りの友達も結構決まってきました。具体的な名前はまだ。(中学校の先生に相談したとか。その時先生は何かおっしゃってた?)自分の行きたい高校を…最終的に決めればいいみたいな。(高校を決める時誰かに相談したりとかした?)親に相談しました。自分の行きたい道だから何もいわない。〇〇高校は第一志望ではなかったんですけど。市立の商業が第一希望。で今の学校、学校生活楽しかったし、まあいいかなと。

<14cm・19歳・高卒・女性>

中学校の先生から就職がいいみたいなこと聞いて、それであーって入った。中学校の時に高校出たら就職しようと思ったのは、1~2年の時はそういうこと考えていなくて3年になってから。志望校決める基準が就職がいいということ。〇〇高校は第一希望で受けたのはここだけです。あんまり不安じゃなかったです。中学校の先生には「たぶん大丈夫だ」といわれていたし。

<24cf・19歳・高卒・女性>

〇〇高校に入りたいと思ったのは、女の子の制服がいいと思って。地元の高校には、ちょっと。中学校の時に電車通学に憧れていたの。学科はビジネス科です。普通科ではなくてビジネス科にしたのは…、ビジネス科でないと入れないと言われて。まあいいかというか…。

<14cm・19歳・高卒・男性>

最初は私、食物関係の方に行きたかったんですけど、でもなんか、就職のこととか考えたら情報処理とかやってたほうがいいのかと思って、そして、最終的に〇〇高校に。最初は、ほんとは公立に行きたかったんですけど。県立△△高校で、食物みたいのをやろうかなと。そういうコースがあって、そこに入りたかったんですけど、そうすると私立とかけもち、併願で受けるのが難しくて。最終的に商業っていうことで〇〇高校を選んだ。高校に入る時点では、雰囲気的には卒業したら、就職しようと思ってた。もともと〇〇高校って就職率がいいって言って、だからやっぱり就職目指してやってみましたね。

<27cf・18歳・高卒・女性>

とくにやりたいことはなかったんですよ。姉が〇〇高校の情報処理科に行ったんで、コンピューターを覚えておいたほうがいいのかと思って。ですね。得意科目とか、不得意科目とか、とくにない。まあ。苦手なのは多いですけど。勉強は嫌いです。県立も考え

たけど、やっぱり成績とかで〇〇高校という感じ。

<19cf・18歳・高卒・女性>

東北地区では、中学校から高校へ進学する際の成績の規定力が他の地域に比べて相対的に強い。それは根強い「公立志向」と個人成績のマッチングに拠るからである。さまざまな可能性の中から選択するというよりは、消極的にあるいは消去法で考えていくと「行ける高校が決まってくる」という感じである。

上に示したインタビュー・データは主として中等教育までの学歴の人たちのものである。一部を除き、とくに高校に進学してそのあとのキャリアを展望する姿勢は見えない。これに対して大卒者は、一般的に「高校に進学し、その後大学に進学するのが当たり前である」という意識がうかがえる。代表的な考えを次に示す。

高校に進学するときは、普通科以外に考えていなかったです。高校卒業後は進学しようと思っていました。中学ぐらいから何となく普通に高校に行って、大学に行ってという、一通りの一般的な考え方でした。

<34ef・24歳・大卒・女性>

[小括]

ヒアリングのデータからは、積極的に「高校で学びたい」という意思是ほとんど感じられない。そもそも「高校で学ぶこと」に積極的な意義を見いだしていない。ある者にとっては「高校進学は当たり前」であり、特に何かを考えるでもなく、合格できる高校に進学している。これは、高校卒業後無業者（非正規雇用労働に従事する者も含む）となった者は言うに及ばず、高等教育機関に進学した者でもほとんど同じである。多くの場合、欠席・遅刻をせずに学校に通い、たとえテスト前だけであってもそれなりに勉強し、学校でよい成績を修めることが、「良い学校」へ進学したり、「良い仕事」や「やりたい仕事」に就くことにつながるという「学校を通した成功」の認識をもっていない。学校に積極的な意味を見いだせないまま、「自宅に近いから」「自転車で通えるから」「公立で学費が安いから(私立高校に行くほどの経済的な余裕がないから)」等の理由で、「入学可能な」高校に進学した者が多い。こうした入学時の状況では、よほどのことがない限り積極的な高校生活を送ることは無理である。

都市部と地方では差があるが、都市部では小学校・中学校の義務教育の段階で不登校や学業不振など、何らかの適応上の問題を抱えていた者が多い。地方においても、学力不振の問題が多くの場合にみられる。こうした問題の背景には、親の社会・経済階層とその文化が色濃く反映されている。

結局、高校入学以前からの不適応は克服されることなく、進路選択時の不本意な学校選択、場合によっては進学できるかできないかの選択にさえ反映されている。義務教育段階の比較的早い時期から「学校を通した成功物語」にコミットしない・できない若者たちが、学校的

価値、社会が求めていると思われる価値を内在化することなく、学校を離れ、非正規雇用労働に従事したり、場合によっては労働そのものからも疎外された状況になったりしているのである。

2.2 学 業

ここでは、小学校から高校にまでの学校生活で「学業」にどのように取り組んでいたかを見ることにする。好きな科目・嫌いな科目、成績はどれくらいのものであったか、家庭学習を行っていたか、将来の職業や社会的成功などを考えていたかなどを中心に見てみる。

全般を通してうかがえるのは、基本的に「学校の勉強が好きではない」という意識と家庭で学習する習慣がないことである。ここで取り上げた高等教育機関に進学しなかった者でなくても、こういう意識はうかがえるだろう。しかし、ここに見られる彼ら・彼女らの学校での勉強に対する構えは、学業（学業成績）に代表される「学校的成功」から降りているといえるのではないだろうか。

学校は好きでしたけどね。受ける教科は受けて、寝る教科は寝るっていう。やっぱり先生で決まりますね。そうですね。先生嫌いやったら嫌い。「テストだけ頑張ったらええわ」って感じで。

<37cm・19歳・高卒・男性>

勉強は別に何にも思っていないと思うんです。勉強に対して、については嫌いとかとかいうか、ないんですね。成績は低かったと思いますよ。やったら、まあ、普通ぐらい。やらなかったですね。小学校からやってないですね、あんまり。中学1年生のときは意外と勉強とスポーツに取り組んでいましたね。そのままの普通に授業を受けて、普通にテストを受けてという形で。勉強は結構わかった。成績は意外と普通ぐらいですね。家では勉強やってないですね。

<1am・24歳・中卒・男性>

高校では頑張ろうと思って。1年のときは上がりたからクラスの中でも1位になって頑張ってきたし、テストだけじゃなくて、学科が上がる時は基礎的なテストみたいなものがいっぱいあるんですけど、それも頑張る。1年の終わりどころではなくて、もっと前から看護科に入り、看護の仕事につくというふうに夢が昔からあったんですよ。専門学校行ってたときに、勉強が不十分やったから、2年生に上がることができないんですよ。それやったら留年するかやめるか、どっちかみたいになって、絶対嫌やと思って、絶対留年はしたくない。友達が2年生に行って、私がまた1年生。年下の子と一緒にいるのが嫌なんです。絶対嫌や、それやったらやめると思って、どっちみちこんな学校も行きたくないし、もういいわと思って。

<12df・20歳・専門中退・女性>

(中学は)何か、学校、勉強は嫌いやったんです。一応、静かにはしてた。でも、勉強はほんまに全然しなかったです。何か、すごい反抗期で、何のためにしなあかんのという、そういう反抗がありました。…高校のときの授業とかは楽しくなかったです。(高校のときの授業とかで印象に残っている授業とかありますか。楽しくない中でも、特にこれは楽しくなかったとか、これはおもしろかったとか?)家庭科は楽しかったです。体

育も楽しかった。

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

授業はおもしろくない。勉強は嫌いやけど、ノートだけはちゃんととって。成績は悪いと思う。ノートは一応とつこうかなとか思って。授業中もおもしろかったけど、授業としておもしろくないやなくて、自分らで勝手に遊ぶからおもしろい。席移動して友達としゃべって、全然授業無視して。「静かにせい」そんなん、別に言われたってほっといて、しつこかったらキレて、反対に授業つぶして。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

勉強はあんまり得意じゃなかったですよ。やればできるんですよ、結構。でも、勉強自体、嫌いなんです、やろうとしないんですよ。テストの前にちょっとぐらいい。先生が、この辺、出るよと言ったところぐらいい、まあ、勉強しとつこうかなぐらいい。(高校でも)勉強はテスト前しかしなかったですね。基本的に、ほんまに勉強するの嫌なんです。授業中は、1年のときはちゃんと授業を受けていたんですけど、2年ぐらいから気が抜けて、寝たりとか。先生とかに悪いんですけど、寝たりとか。1年は欠席とか遅刻もせず、寝ずに頑張って授業を聞いて、ノート写すだけですけど、まあ、まじめにやっていたという感じですね、1年のときは。でも、2年生のときから、遅刻もぼちぼち、欠席もぼちぼちみたいな感じで。

<28cf・19歳・高卒・女性>

中学校時代はあんまり勉強面では…全然。やってもできへん子やったという感じ。勉強自体は好きじゃない。わからん子やった。なんか人一倍、あほやったような気がする。家でもやらされたりしてたけど、何かできなかつた。頭はよくなかつた。高校で、勉強は最下位ぐらいい。でも高いお金を出して行っているし。

<18cf・20歳・高卒・女性>

勉強はもう全然。ほんまやったらできないほうじゃなかつたと思いますけど。僕、勉強をしたことがないんですよ。中学のときも、高校へ入るときも、高校の勉強も。全く。宿題をこなすだけです。中学のときは、バレーボールのクラブをやっていたんです。それがしんどすぎて帰ったら寝るだけ。高校になってその流れで勉強を全くしなくなってしまう。高校へ入るのももう。

<51em・22歳・専門学校卒・男性>

総合学科、自分で(科目を)選べることは選べたんですけども、一応、高校には入っちゃったんやし、じゃあ、次、大学も行きたいかなとか思っていたんですね。進学系の授業も一応とっておけへんかったら、あとで自分で勉強というのでも無理やから、一応進学も視野に入れて、進学系の科目をとりつつ、少し余ったところで総合学科ならではのやつをとろうと思ったんですね。そうしたら、1科目か2科目かというぐらいいしか選べなかつたので、中学校のころ思っていたよりは、総合学科らしい科目をたくさんとれたというのはなかつたんですけども、勉強科目ばかりになってしまった。入れちゃったぞ、高校みたいな感じで、じゃあ、大学も。中学まで勉強せえへんかったから、高校は勉強しようかなと、初めは志高く出たんですけども。勉強してみて、あんまり力が入っているところは力が入っているけれども、抜けているところは抜けてんねんと思いました。で、結局そのまま自分の勉強ぐせもつかずに、じゃあ、このときこうやって簡単に乗り切ったらいけるわという感じで、綱渡りで来てしまいました。

<20cf・18歳・高卒・女性>

やっぱ大学行きたいっていうのがあったんで、結構スムーズにやりました。できてました。勉強するのって、別に嫌じゃなかつたです。総合学科なんで、自分の好きなものばっかじゃないですか。ほとんど数学と化学とかだったんですけど、楽しかったです。高2の公務員になろうかなあって思ってからっていうのは、結構一生懸命勉強したと自分

では思っています。

<23cm・21歳・高卒・男性>

数学は中学校上がって、わけわからなくなった。最初の頃ってちょっといけるやんって感じなんです。最初の、ほんのちょっとは、で、だんだん難しくなって、やっぱあかんわって。何かパッと出来たら、あっ楽しいとかって一瞬思うんですけど。もうなんか問題によるんですけどね。大体？やっぱ無理でしたね。簡単なやつとか、ルートの簡単なやつとかはいいんですけど、なんか変な文章の問題とか、食塩水とか、食塩水の何パー(%)とか、もうやめてくれ！…一応ノートは、普通に全部書いてました。テスト1週間くらい前になったら予定でやるんですけど。今日はいいかなあとかで5日前とかになって(苦笑)。でもその中学校ん時がたまに1週間前にとか、ちゃんとやりましたよ。高校は1日前でしたけどね。

(高校の)文書処理はよかったと思う。簿記は2年からですけど、だいぶ苦しみましたね。…他に資格みたいなやつはワープロ検定。漢字検定。あと、硬筆書写検定とか。あの、ペン字検定とか言われてますね。あと英検も一応あるんですけど、4級か5級かやったような…5級やったと思うんで、履歴書とかには書いてないんですけど。検定にむけての勉強みたいなんはやりましたね。ワープロ検定の前とかも。何回か落ちたりとかしてて、お金ももったいないしってことで、先生にちょっとパソコンの部屋お願いして開けてもらって、ガーってやったりしてました。漢字検定も、先生に漢字のテキストみたいなん貰ってやったりとか。家で、結構ガーって書いてやりましたね。結構目標があって努力するタイプかもしれないですね。

<39cf・19歳・高卒・女性>

小学校は、勉強はあまりできなかったような、偏ってました。国語が好きでした。苦手だったのは理科とか、数学とかそんな。中学校も、そうです。成績は、中学校はあんまり良くはなかったです。友達がいたんで、楽しかって、数学たまに分かったらおもしろいとかって結構ちょっとだけ一回だけいい点数取れたみたいな感じしか覚えていない。おうちで勉強はしてました。試験前とかには、絶対にしてました。普段は、あまりしないですね。高校の時に漢字検定と英検受けたんですけど、英検落ちました。漢字検定は6級しか取ってないです。始めは慣れていくために6級からって決まってるんですよ。で、6級取って、4級あとちょっとで落ちちゃって。3年生の時なんで、もう取られへんからもうそのままって感じです。英検は2回受けて落ちました。4級です。

<38cf・18歳・高卒・女性>

勉強はしてなかったです、高校入って1年、2年は。看護婦になるねん、というのは言ってたんですけど、行動が全然ついていってなかったん(笑)。専門学校に行くにも、そんなに難しいことではないって思ってたんですよ。高校もずっと入れてから、ずっと行けるかなっていう軽いのりでいてたんですよ。「勉強せなあかんよ」というのは常に言われてて、数学も大事やよ、化学も大事やよ。でも高校でやる勉強と、また看護学校入ってやる勉強は、全く違うから、高校でできひんかってもそんなに心配するなっていう一言があったんですよ。それを調子に乗って聞いてたら、まず入る時点で無理やったんですよ。(笑)甘く見すぎていました、世の中(笑)。高校の時の成績はむっちゃ悪かったですよ。欠点だらけでした。1年の1学期はなかったはず、2学期のごたごたあって、休んだりしてて、わからへん問題とか出てきて。2年が一番サボりがちやったんかな、学校。その別に何かあったというんじゃないくて、学校の友達と一緒に、朝、朝遅刻せえへん時間帯やのに、一緒にマクド行こやいうてマクド行ったりとか。

<22cf・19歳・高卒・女性>

好きな科目は体育。勉強は、ぜんぜんできへん。嫌い。好きじゃない。(我慢できる科目ありました?)ない。どれもあまり面白くなかった。小学校のときは、まだ成績は普通。中学になってからかなり悪くなった。中学校の成績はかなりやばい。(高校進学を念頭においてあせったりとか?)あせれへんかった。(全然わかれへん感じ?授業聞いていて。)

うん。塾とか行ったことない。勉強せえって、お父さんは言わない。勉強ってあんまり言われへんかった。テスト前とかは、妹は言われていたけど、自分は言われへんかった。

(高校のときの勉強とかも面白くない?) 面白くない。(成績は?) よかったと思う。先生はわかりやすくなかったけど、テストがわかりやすかった。(どうということなら続けられそうでした?) 面白い勉強。でも勉強嫌いやから。

<6bf・20歳・定時制高校中退・女性>

(中学校では) 成績は学年でトップのほうでしたね。それで第一志望の〇〇大学付属に入った。自分の中で、中学3年の12月か年を明ける前後から、集中力がなくなってきちゃって、勉強をずっとしてたんで、それがずっと尾を引いちゃってたんですけど、高校時代。何かやる気が出ない。何か糸が切れちゃったみたいで。何か疲れ切ってるような。ずっと勉強ばかりしてたんで、息切れするのは当然だと思うんですけど、それが、ああ、来たなど。そのころからすごく…。それ(出生に関わることを)を高校に入る前に母親から聞かされたのがすごいショックで。未来が見えなくなっちゃったというか。高校のやつらはみんなできるやつばっかだったので、何か今までの自分の世界と違うわけですね。だから、えっ、みんなできるんじゃない、おれやばいじゃないみたいな感じ、おれだめじゃないみたいな、それがずっと、今も続いていますね。

<7cm・24歳・中退後定時制高卒・男性>

学校の偏差値が低かったから、授業のレベルが低かったから、結構補習授業みたいなのを時々やって、補習授業も出たんだけど、あんまり効果がないっていうかね。だから、みんな予備校に行ったりとかしてそっちのほうで勉強してたっていう感じかな。

<13dm・28歳・大学中退・男性>

学校の中の成績はちょうど真中くらいでしたね。資格なんかもだいたい皆が取るところを取ってる感じ。学校はたまーに遅刻したり休んだりしたくらいですね。欠席は5日~10日前後くらい。高校時代特に夢みたいなのはなかったですね。ほんとうに平凡に。好きな授業は、やっぱ体育ですかね。体育好きだった、運動神経、んー、どうですかね、いいほうなんですかね。

<43cm・20歳・高卒・男性>

成績は、中学校では真中あたりですかね。小学校では結構上のほうだった。…だんだん勉強しなくなりましたね、中学になったら。好きな勉強は、やっぱ理科ですかね。先生も結構楽しい人でしたね。数学も結構。結構理科系、そうなんです。(高校の)ビジネス科の勉強は自分でも面白いと思った。やっぱパソコンとか結構使ってたんで。そういうの好きなんです。…真面目に勉強したほうでもないですね。高校の時はぜんぜん。もう予習・復習ぜんぜんしなかったですし、宿題ができれば学校で。授業終わったあとに休み時間の間に終わってしまったり。中学校はですね、宿題程度はやってたんですけど、そんなにガリガリ勉強する人でもなかったし、小学校の頃は、もう帰ってすぐ勉強して、終わったらゴロゴロ。あと友達と遊びにいったりとかしてたんですけども。中学校に入ったらしなかったんですけど。お母さんも働いてて、いなかったんですけど、おばあちゃんがずっとほとんどいたんで。でも「勉強しなさい」とかぜんぜんいわれたことはないですね。なんかこう宿題とかやっても、解いたりするの楽しかったんで、数学とか算数とか。国語とか、やっぱこう悩んだりして、なかなか解けなかったりとか、漢字とかドリルとか好きでしたし、やっぱ宿題は基本的にその時は好きでしたね。小学校のときが一番よく勉強していたかもしれない。

<26cf・20歳・高卒・女性>

成績はクラスで5番。

<14cm・19歳・高卒・女性>

高校は欠席は3年間で10日くらい。成績は情報科で1年の時は10番くらい、2年の時

15 番、3年の時は5番。頑張って勉強して、後半は勉強楽しいという程ではないけど、頑張った成果が出るから。得意な科目は商業法規とか。商業系の科目が得意。あと就職のことも考えて、「頑張らなきゃなー」って。〇〇高校は授業も多いし、自分がやる気だして頑張れば取れるのも多いし、よかったです。取った資格は6個、簿記・流通経済・情報処理・ワープロとあと情報処理でも協会が違うのとかそれで何個かダブってるのがある。個人的には、あんま勉強してないんだけど、授業とか検定に近づくとみんな真剣に勉強するから。先生も対策みたいなことしてくれて、時間測ってやったり、プリントもらったり。

<24cf・19歳・高卒・女性>

(中学では)成績は悪かったですね。(部活も学校も真面目に行っていて楽しかったですか?)普通でした。その頃に熱中していたものはないです。サッカーも、特には。

<14cm・19歳・高卒・男性>

中学のとき得意科目は、国語と英語だったんです。不得意は数学。国語と英語は高校に入っても割と得意なほうです。(商業科の科目は?)パソコンいじってるのは楽しいんですけど、ほかのみんなに比べたら、検定とかあるじゃないですか。あれもぜんぜんとれてないほうだったんで。ちょっと。勉強は嫌いじゃないんですけど、やっぱり数学って何やってもわかんなくて、だからだんだん楽しくなくなるとやらなくなっちゃう。体育は好きなんですけど、運動神経があんまりよくなくて、だから苦手といえば苦手。美術は、中学のときけっこうよかった。

<27cf・18歳・高卒・女性>

〇〇高校に入って、教科によりますけど、英語とかは楽しいなって思えるときもあります。情報処理は合わなかった。パソコンとか。検定やらなきゃいけないものは、やりました。みんなやるっていうか、やらなきゃいけないなかったんで、やっただけ。

<19cf・18歳・高卒・女性>

[小括]

「将来に希望をつなぐ」ためには、今の生活の中で相応の成績や実績が必要であるという認識が薄い。とくに都市部の者では「とくに受験勉強のようなことは何もせずに高校に入学した」ので、そもそも「教科・科目の勉強をする」習慣がないことがうかがえる。中学校で学習する知識や技能が身につけていない、場合によっては小学校のそれさえあやしいといった学力不振は高校生活で増幅されることはあっても、解消されることはない。さらに、学ぶ姿勢さえも身に付けることなく高校生活を送った彼ら・彼女らが学校を通して身に付けたものはいったい何だったのだろうか。すくなくとも、学校が教えようとする価値、生徒からすれば社会に出る際に身に付けておくべき「望ましい価値」を受け入れ、内在化していないことは確かなようである。なかには、ある時期一生懸命に学習に励み、よい成績を取り、希望の学校に入学した者もあるが、それはあとから振り返ってみればむしろ過剰適応ともいえる。こちらも、結局は学校的価値を内在し得なかったことに由来すると考えられる。

2.3 学校生活

中学校での生活、そのあとどちらかといえば「入ってしまった」という感じの高校であるが、彼ら・彼女らの学校での生徒としての生活はどんなものだったのだろうか。学校に行き、

勉強し、部活動等の特別活動に参加するという「学校的」生活習慣は内在化されていたのだろうか？

高校入ってからかなり先生とか重要視？そういう授業は、よう勉強してたんですね、ほんまに。まあノート書いてないですけど、聞いてて話。…学校時代、特に1年生の夏越した時、友達やめましたね、いっぱいやめましたね。「学校おもしろない、やめたい」いうようなことは、僕は全然なかったです。高校がもし中学みたいやったら、もうやめて、仕事していると思いますけど。典型的な高校生活の一日ゆうたら、学校来て寝てって感じですかね。学校で寝て。授業で寝て、バイト行って、晩から朝迄、ベース触ってて、いう感じですかね。ほんで、夏頃から「〇〇(祭り)」の準備ね、練習、あれ体力、ほんまに、いるもんね。…だからほんまに、祭りの日とかは全然休んだりするの普通でしたね。ほんまに、晩、走ってしんどいから学校休んだり、遅刻したりってのは普通でしたね。起きれないっすからね。朝。申し訳ないっす。高校入った時、一番「面白いな」と感じたのは友達と遊ぶということですね。校則とかは禁止ですけど。ぜんぜん3年間無しかったですからね。遅刻は多いんですけど、休みは3年間で2日くらい。遅刻は計画的にしましたけど。何時まで寝て何時限から行こうかなって。

<37cm・19歳・高卒・男性>

とりあえず朝、先生から電話がかかってきたりとか、友達が迎えに来たりとかで「行かない」というのを伝えて、そこからぶらぶらと違う学校の近くまで行って、で、その学校、違う学校にもそういうやつらがたくさんいて、「おうち、家へ行こうか、おれんちへ行こうか」みたいなので家へ行って漫画を読んだり、いろいろコンビニへ行ったりとか、そんなんですね。

<1am・24歳・中卒・男性>

高校が一番楽しかった。私友達つくるの下手やから、ほんまの友達じゃないと本音話せへんし、そこそこのつき合いしかせえへんから、楽しくないんですよ。中学もそうやってん。思い切りしゃべられへんし、楽しくないんです。だから、しゃべらんから孤立状態みたいで…。(高校で看護コースに進んで)2年で一緒に入った子とすごい気が合うたんですよ。その子とずっと一緒やったからすごい楽しかったんですよ。だから、高校はすごい思い出がいっぱいなんです。…そのクラスは1年から3年まで優勝して賞状もらおう言うてほとんどとってきて、そんなとかで、みんなで頑張った結晶みたいなものがいっぱいあるから、みんなの温かさとか先生の思いやりとかがすごくいっぱいある。とにかく(専門)学校では先生と顔合わせたくないし、もうすべてがむかついてくるんですよ、学校行くこと自体が。だから、しんどいから普通に理由つけて休んだりとかして、もう行きたないわ、もう顔見るだけでウザインです。もう初めから…、私も悪かったんですよ。入学してちょっとしてから、髪の毛ツイストとかバーツとやって、で、もう、反抗したれーと思って。

<12df・20歳・専門中退・女性>

学校はちゃんと、中学校はおもしろかったから行っていました。でも、遅刻はしてました(笑)。遅刻は多い。クラスの5割は遅刻していて僕が最後で一番遅い。(最後って何時ぐらい?)9時の…。10時ぐらい、昼とか。2日に1回ぐらい…。

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

高校は1年のときは普通に行っただけで、2年ぐらいから休みまくって、1学期はまじめで2学期から休むようになって、3学期もほとんど休んで。留年したから。留年したらやめるって決めただけから。(行かんようになってきたきっかけは?)だるかったから。行ったらおもしろいけど、朝起きるのがちょっとだるいし。中学が一緒のやつとかもおったし。小学校はちゃんと行っって、中学校1年はちゃんと行って、2年はそこそこ行って、3年は、行ったり行かんかったり。それもだるいから。学校行くために起きる

のは面倒くさい。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

小学校と中学校と違って、高校って家から遠いじゃないですか。電車に乗ったりとか、朝起きるのに大変やなというのが。朝は大体7時前ぐらいに起きて、朝御飯食べて、用意して、で、8時ぐらいには家を出ないと間に合わないので、8時前には家を出て、電車に乗って、学校まで行く。終わって、で、高1のときに喫茶店でバイトをしてたんで、学校終わったらすぐバイトという感じでしたね。…1年は欠席とか遅刻もせず、寝ずに頑張って授業を聞いて、ノート写すだけですけど、まあ、まじめにやっていたという感じですね、1年のときは。2年生のときから、遅刻もぼちぼち、欠席もぼちぼちみたいな感じで。3年は遅刻魔でしたね。よく昼休みに学校来て、先生とかに、「おまえら、またか」とか言われていましたね。友達と遅刻していたんですよ、一緒に。朝早く、早くといっても10時ぐらいなんですけど、それぐらいにぱっと起きて、携帯見たら、友達からメールとか入ってて、まだ学校に行っていない友達が「あんた、もう学校行ってる？私、まだなんやけど」って入ってたから、電話して、「ごめん、今起きた。今から行こうや」とか言って、その友達と行く途中にファミレスとかやっぱりあるじゃないですか。そこに寄って御飯食べて、学校来て。

<28cf・19歳・高卒・女性>

高校はちょっと楽しかったけれども、中学校はそんなに言うほど楽しいところとは思わなかった。印象に残ること、ないですね。商業の勉強は、おもしろくはなかった。普通科のほうがよかったなという感じやった。

<18cf・20歳・高卒・女性>

まじめに学校には行っていませんでしたけれども、あんまり。行ったときに頑張るみたいな感じで。小学校のころは行っていましたが、その反動のように中学になるとあんまり行かなくなりましたけれども。中学校生活は、昼夜逆転をしたのをはじめにあんまり学校に行かなくなったんですね。行けなくなったと言ったほうが正確です。起きたころにはちょっと学校の授業時間が6限が終わっていたりとか。きっかけは…家庭内のやつがそろそろ限界に達していたんですか、それかどうしても学校へ行かなあかんというものでもないかなと勝手なことを思い始めたせいかもしれません。行かなかつても、母親に別にほっぽり出されるようなこととかも特になかったんで、ああ、じゃあ、行かんかつてもいいんや、とりあえず母親が仕事に行くまでの時間をしのげばどうかなるみたいな感じでなってしまったものですから。(高校は)授業に出ていても、つまらんというわけでもなかったんですけども、楽しくもなくというところが多かったんで、結局、高校もあんまり出席日数は多くないと言われました。高校自体を振り返ると、めちゃめちゃ楽しかったという感じでもないかもしれませんね。やっぱり足がパンパンになって、すごいはれるぐらいとかになるんですね。バイト終わった後はどうしても。それで、朝起きるのがやっぱりつらくなって、中学校のころとは違って、肉体的な疲れでちょっと朝起きにくくなったりもしましたけれども。多分休みも多かったと。はずです。遅刻に比べるとましやったはずなんですけれども、やっぱり単位がありますので、高校は。その辺は計算して、全部上がりましたけれども。

<20cf・18歳・高卒・女性>

小学校は楽しかったですね。この頃はまだ、勉強は別に嫌いじゃなかったんで。このころ、自分で言うのも何なんですけど、リーダーシップとってるタイプやったんで、役員とかもやってましたし。中学校に入ったあたりから、(勉強は)うざいなあとは思わなかったんですけど、あんまし。でも、しなだめやなあってというのはありましたね。何か、高校に行くための内申とかあるじゃないですか。そういうなのが嫌やったんですよ。でも、なぜか知らないんですけど、数学だけはめっちゃ面白かったです。数学だけはすごい楽しかったです。英語はこのころから苦手ですね。高校生活はどうなんですかね。高1は楽しかったんですけど、高2、高3はそんなに。クラスに恵まれず。高3ね、知ってる子が

1人しかいなかったんですよ（笑）。遅刻はすごい多かったです。でも欠席は少ないほうだと思う。朝、めっちゃ弱いんですよ（笑）。しかも、微妙な遅刻が多かったですよ。2分おくれとか。（笑）微妙におくれて。朝のあれ、あるやないですか。朝礼っていうんですか。何か連絡事項とかいって。その途中でいつも来るんですよ。（笑）ほんと、ちよつとの差なんですけどね。だから1時間目は全然間に合うんですけどみたいな感じですね。

<23cm・21歳・高卒・男性>

勉強は嫌いでした。小学校2年生くらいから。小学校2年生の国語の漢字でつまずき始めて、覚えられへんようになってきて、数学じゃなくて、算数とかも、放課後とか残されたりして。宿題とかは、出されたら小学校ん時はやってた。小5の時の一時期が特別嫌やったけども。そういうのが嫌やから休む、とかってというのは全然なかったです。遅刻もなかったですね、小学校は。その、のちのちちょっと（笑）。中学校は毎日、だいたい休まずに…遅刻はたまに。1、2年はそんなに大して楽しくなかったかな。1年のときなんかすごい不良みたいな人1人いてて、すごい荒らしまくるんですよ。女の子なんですよ。最初普通やったのにあるときから、えらいすごい怖いキャラクターになってて、なんか授業も、先生になんか、ガガー！ってゆうし。そういう人がおったりして、なんか普通でもなかったですよ。

<39cf・19歳・高卒・女性>

〇〇高校はよかったです。先生もいい人でなんかちゃんとしてくれてて。初めはちょっと不安なっと思ったけど、まあまあなんかそれなりに楽しかった。本当に女子が多いです。それはなんでかわからないんだけど、〇〇高校は女子が多くて女子を取るから有利だよってというのは先生から聞いて。学校の生活は、まあまあ楽しかったです。（一番楽しかった時間は？）休み時間とか、昼休み、ご飯の時間。

<38cf・18歳・高卒・女性>

〇〇高校にきて先生は良かったんですけど、髪の毛とか入った頃はめちゃくちゃうるさかって、ちょっと茶色かっただけでももう黒染め、黒染めばかりで何でこんなに規則うるさいねんと。友達ともいろいろあって、もう朝起きられへんようになって行くのがいややと。友達に一方的に無視し始められたんです。…何やねんこれは、と思って。もういらん。じゃまくさい。しんどい。それでもう学校ほとんど休んだり遅刻していったりで。でも、高校行ってない友達とかにそんな話するじゃないですか。それでやめたらあんたの負けやでみたいな事言われて。あ、ほんまやな、負けやな、悔しいよな、そうゆうノリで。…3年間遅刻は多かったです。…学校行かんと、マクド行ったり、カラオケ行ったりとかして、こんな時間や、休もか今日、みたいな、そんなんがいっぱいありました（笑い）。友達は、ただ単に皆そんなんしてましたね。

<22cf・19歳・高卒・女性>

高校は定時制。2年でやめた。〇〇工業。（いつ頃辞めました？）覚えてない。けっこう行ってなかったから。2年生になる前…最初の方は行ってた。3学期はあまりいってない。（なにかあわなかった？）夜ってしんどかった。小学校は面白かった。友達がいっぱい。遅刻とか小学校の頃はない。休めへん。中学校のときは、遅刻ばかり。1年のときはあんまりなかった。2年、3年が遅刻多かった。（きっかけは？）ない。なんか行きたくなかった。面白くない。嫌だった。クラスが。気の合う人とかと一緒にならなかった。1年生のときはわりとクラスはよかった。2年も面白かった。3年であんまり仲いい子と一緒になれへんかって。遅刻はしてたけど、ほぼ毎日行ってた。2時間目には必ず出てた。（朝おきてご飯を食べていた？）食べるときもあったし、食べなかったときもある。（高校やめちゃったときはお母さんは残念がってた？）そんなに。

（もうちょっとおったほうがいいよとか誰もいわなかったわけですね。将来の相談とか主婦になりたい夢の話とか誰とも話ししないですか？）はい。

<6bf・20歳・定時制高中退・女性>

小学校のときはあんまり学校に行ってなくて、ほんとうに行ったり行かなかったりを中学校ぐらいは繰り返していたんです。何でなのかなって自分でも、いろんな理由があるんで、それはちょっと…。たとえば体罰がひどくてけがしたこととかあって。〇〇（地名）は全然ないのでびっくりしたというか。人と一緒に泣いて帰っちゃったりとか、怖くて。そういうのもあったりとか、ただ単に、やっぱりあんまり転勤してくる子が多い場所じゃないから、なじみにくいというか。もともと人見知りじゃなかったとかって、ほんとうに理由ってね、いっぱいつけられるんですけど。はい。

<5bm・20歳・定時制高中退・男性>

（高校では）学校そのものは楽しくなかったですね。結局、やめることになったんですね。1年から2年には進級したんだけど、実は2年の5月に母親と別居したというのがあるって、そこから余計にはまり込んでいって。その中でずっとやっぱり2年半ぐらいカウンセリングを受けて、安定剤とか睡眠剤とか飲んで。結局、2年から3年に進級できなくて、要するにもう一回2年をやるつもりはあったけれども、やっぱり全然だめでしたね。1年生の後半から思っていましたね。もうやっぱりその時点で燃えるものがないというか、やる気が出るものがない。何しても出てこない。そういう感覚は高校に入る前後ぐらいから持っていました。

<7cm・24歳・中退後定時制高卒・男性>

（高校に入って）やっぱり中学校が一緒だった人があんまり居なかったんですよ、仲がいい人とか、クラスにも1人くらい居たくらいで、で、あとは東北地区の人が殆どだったんでクラスが、知ってる人もいないし、「やっていけるかなー」ってそういう不安はありましたけど、最初はやっぱり。でもすぐ友達もできて、楽しくやってきたんですけど。

<26cf・20歳・高卒・女性>

結構楽しい高校生活でした。高校時代の一日は、朝6時くらいに起きて学校に来て、4時ごろから部活が始まって8時～9時ごろ家に帰りました。部活自体は6時で終わりだったんですけど、自主練習しないと結構きつい。宿題はあんまり出なかった。最初の頃は疲れて寝てしまったけど、だんだん慣れてきて遅くても。休みの日も部活です。休みの日も部活で、9時から3時くらいまで。

<25cf・18歳・高卒・女性>

中学校のときは結構休んだ。1年のときはちょっと休みが多かった。10日くらい。最初に普通にお腹が痛かったり、風邪ひいたりして1日休んじゃうと次の日も。やる気でないじゃないですか。学校自体は楽しくて「休みなんかいらぬ」って思ったこともあったんだけど、一回休んじゃうとズルズル。2年のときはもっと行かなかった、行かなかったというよりも、毎日遅刻。優しい先生でそれに甘えて行かなかったから。3年になったら担任が変わって厳しくなって「これは行かぬきゃダメだ」と思って。その時は2年に比べたら真面目に行った。中学校の成績は中の下くらい。〇〇高校受験のために個人的に頑張ったというよりも、学校全体がそういう風に組まれてて、夏休みも毎日学校に行かなくてはならなくて、こなさなくてはならないテキストなんかあったりして、しょうがなくではないけどやってた。怖い先生で。先生に〇〇高校を薦められて、パソコンで資格とれるのは〇〇高校だって。（高校の時の生活は）朝は7時ごろに起きて8時ごろ学校に行く。学校終わるのは3時半。まっすぐ家に帰る時もあったし、友達と遊んで。友達と遊ぶというと△△町あたり。買い物とか、何するでもなくウロウロ、ぶらぶらする。休みの日とかは友達と遊ぶ。殆どが△△町で、友達の家近くとか。

<24cf・19歳・高卒・女性>

（学校には毎日来ていましたか？）全然もう。1年生の時はちょっとサボるくらいで、2年生からは来ないほうが多かった。遅刻して、昼からとか。3年生では最初は同じ感じで3学期だけ真面目に休まずに、卒業できないかも知れなかったから。遅刻したとか、休んだとか結構あったから、あまり覚えていません。遅刻は200回くらいいくと思いま

す。来ても早く帰るとか。(早く帰るとか遅刻をするのは眠かったとか疲れたとかいう理由ですか?) いても勉強しないから。苦手な授業があると帰った。その時の気分で来たり来なかったりで、3年生の最後はこのままでは卒業できないということで毎日来た。

<14cm・19歳・高卒・男性>

[小括]

多くの者が小学校が楽しかったと答えている。それは比較的自由に、教員によるコントロールが緩やかであったためと考えられる。それに対して、多くの者が中学校での生活を規則に縛られ、教員の指導も厳しいことから窮屈であったと感じている。高校は印象が分かれるが、概して「中学校よりはマシ」というところだろうか。中学校は義務教育ということもあり、どうしても「集団」に対する指導を中心にしがちである。学校の重要な機能である「社会化」(socialization)は、集団への適応という形で指導されるので、こうした指導、方向付けは当然といえば当然である。しかし、それは学校的価値が共有されているという前提があって初めて成り立つものであり、そうした価値(究極は学校的価値の受容と内在化が社会生活を円滑に営み、社会的に成功する大きな要素であるということ)を家庭的文化的背景から個人的にも認識せず、したがって内在化もできない彼ら・彼女らには「意味のない厳しさ」と映るのも無理はない。それでも、多くの場合なんとか「我慢」していたのが中学校時代の彼ら・彼女らの実態である。

それに比べると、高校の指導は一部の私立を除くと緩やかである。中学校時代から遅刻や欠席があり、学校生活の「基本的生活習慣」が身につけていない者にとっては、ある意味で厳しくないからこそ「学校に足が向いた」というのも実感であろう。今回のヒアリング対象者は、公立の「進路多様校」(非進学校)で学んだケースが多いと思われるが、そこでの生徒指導は緩やかであることが多い。理由の主なもの「中退を防ぐため」である。頭髪、服装、持ち物、喫煙など規則はあるのだが、それを厳格に適用して指導すれば生徒指導上の理由による中退は激増する。たとえば、度重なる喫煙行為で特別指導を受けていた生徒に対して、校長が説諭の際「タバコがやめられないなら、学校を辞めなさい」と言ったら、「じゃあ、学校を辞めます」という返事が返ってきて、「そういうことじゃなくて…」と喋ってその場を収めなければならなかったという、笑えない笑い話があるほどである。逸脱行為が学校に蔓延すると、逸脱行為が逸脱ではなく「あたりまえの行為」になりかねない。そういう状況においては、学校における「規範」が見えにくく規範としての効力を持たなくなる。逆に言えば、規範を無力化し、指導を緩やかにして指導の効力も弱め、「なんでもあり」の状況を作り出しているのが彼ら・彼女らであり、それだからこそ「つまらない」学校生活をなんとか生き延び、多くの場合卒業もできたのである。

しかし、当然のことながら社会全体にも「なんでもあり」の要素はあるものの、学校時代のように規範(社会では法に代表される体系)を無力化することなどできるはずもなく、結局は社会に適応する(労働で言えば正規雇用労働に継続して従事する)ことができず、相対

的に低い位置に（非正規雇用労働市場に）留まっていることになる。その意味では、社会に適応するための手段としての価値意識と行動規範を持つことができずに過ごした学校時代の生活が直接的に現在の生活状況につながっているといえるのではないだろうか。

2.4 先生

学校の先生は学校的価値の伝達者である。その職務に忠実であればあるほど、今回のヒアリング調査対象者からは「きびしい」「つまらない」「話がわからない」大人として見られることになる。彼ら・彼女らにとって、学校の先生はどんな存在であったのだろうか。また、先生たちとどのような関係をつくっていたのだろうか。

学校の先生でも結局一番親しくしてる先生は高校の先生。中学校の先生よりも。中学の3年生のときの担任の先生には良くしてもらったんで、それで学校行くようになったんで。

<37cm・19歳・高卒・男性>

学校の先生とかは心配してましたね。今思えば、ものすごい申しわけないという面もあるし、ありがたかったなという面もありますし、いろいろあのとき、ああしていたからこう思える自分もおるのかなみたいなのというふうにプラス思考に考えるしかないでしょう。先生の思い出は、うーん、いろいろですね。どこか喫茶店と一緒に連れていってもらったりとか、いろいろ話を聞いてもらいましたね。わかってくれないやつでもなかったですね。わかってくれない人にはもう話をしてませんから、先生。

<1am・24歳・中卒・男性>

すごいいい先生ばかりで、結構…。嫌な先生はいてなかったかな。そういうふう楽しい時期がずっと小学校…。高校が一番楽しかった。先生とも気軽にしゃべれるし…。

<12df・20歳・専門学校中退・女性>

話できる先生はおったんはおったけど、話したいとも思わへんかったから。好きな先生もおるけど、自分らの学年にはおらんかった。3年間一緒に担任か副担やったから。副担が担任になったり担任が副担になったりで3年間ずっと一緒やったから。普通の教師より、校長や教頭のほうが仲よかったから。話しするんだったら校長、教頭のところ行って。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

小学校はそれなりに楽しかった。あんまり楽しくなかったのは、5年6年ですかね。担任の先生がとにかく嫌いで。すごいえこひいきする先生やったんですよ。そんなんがあって、ものすごい嫌いでした。楽しくなかった。授業とかも全然おもしろくなかったです。その先生やから。その先生、気に入った生徒しか当てたりとかしないんですよ、質問とかでも。ああ、またかよ、みたいな。

<28cf・19歳・高卒・女性>

先生で印象に残っている人は、いっぱいおる。怖かったやつとかむかつくとか、そういう人は覚えている。(笑) いい印象の先生は別に。そんなにいい先生もいなかったから。

<18cf・20歳・高卒・女性>

高校の勉強で歴史とかはおもしろかったですね。社会科いうのは大好きでした。〇〇先生はクラブの関係もあって、先生もギターを弾くので一緒に遊んだり。やめかけていた

ときに担任の先生と〇〇先生が来て、また説得しに来たんだろうな、面倒くさいなと思っていたら、ギターを持ってきて、一緒にやらないかって。説得じゃなくて、ギターと一緒に遊びに来たというおもしろい思い出がありますね。部屋にたばこのにおいが充満して、吸い殻がたんまり。ええんちゃうか、別にといい感じ。いいんかなど。あと、この先生に今いてるかわからないですけど、△△先生という社会科の先生がいたんです。その人みたいなおっさんになりたいなど。何にもやる気のないところが。「おれは頑張るという言葉が嫌いなんだ。頑張らんでいいやないか、別に。だから、頑張れとはおれは言わない」という感じの先生だったんです。「おれもこの仕事を天職と思っていないし、やめるんだったらやめるしな」という感じの。その言葉が強烈に胸に刺さって。多分、個人的にやったと思うんですよ。授業中にはそんなこと言わないですよ。

<51em・22歳・専門学校卒・男性>

よかった先生は、名前は忘れたけど、社会の先生。逆に嫌な先生は、体育の先生。受けてなかった。出てるけど寝てたり。外だったら座って見てたり。(それで別に文句言わへんの?)言うけど、友達がやんちゃな子だから。その子と一緒にいたら、何も。もう言わなくなった。

<29ef・24歳・短大卒・女性>

先生とはわりと仲良かったですね。5年のときとか、漫画とか貸してました。年賀状に「サザエさんありがとう」って書いてたんですよ(笑)そんな感じ。でも、その小4、小5くらいからはちょっとしたイジメチックなんかありましたよ。みんなローテーションでやられてました。なんかこの子もうそろそろいいんじゃない?って戻って来たら、そういえばあの子あんまりなんか、なんもやられてないな…じゃああの子!みたいな、えらいことなって(笑)。先生はどやろ?知らなかったのかなあ?先生に相談とかはよくしてましたけどねえ。あたしの場合は友達と2人で被害にあってて、その友達と2人で、夕方に学校行って、もうなんか嫌やとか(苦笑)そんなことを。ただなんか話してるだけ。(高校で)高校卒業後の就職について、学校の先生とはあんまり相談してないかな。担任の先生とかも。大体自分で決めた。

<39cf・19歳・高卒・女性>

先生との関係は…中学校の先生?うーん、うーんと、あんまりしゃべらないですね。(親しい先生がいたということ)?中学校ではあんまり、この先生なんかしゃべりやすいな一とか思って、しゃべるぐらいで、めっちゃめっちゃ親しいことはない。印象に残っている先生、小学校のときはいた。担任の先生で、いい先生やなみたいな。しゃべったりは、休み時間に時々してるぐらいで、人気者だった。〇〇高校は、結構いい先生もいたりいなかったり、そんな感じ。卒業する時とか、進路についてなんか言っていましたね。自分が相談しに行ったらちゃんと言ってくれるけど、いろいろとしゃべりかけてきてくれたらいいな、と思うぐらいかな?親身になってかかわってきてくれた先生は、担任の先生。

<38cf・18歳・高卒・女性>

あんまり先生としゃべってない。仲のよかった先生も全然おれへん。むかつく先生とかはいっぱいおった。むかつく先生ばかりやったら学校嫌んなる。

<4bf・20歳・高校中退・女性>

(印象に残っている先生は?)小学校4年生の担任。行動も面白い。体育のときに、鉄棒で逆上がりを見本を見せるといってできなかった。それで、これが悪い見本やといった。(中学では?)先生?嫌いじゃなかった。普通。

<6bf・20歳・定時制高中退・女性>

中学のときにだんだん勉強のほうがおもしろくなって、学校の勉強よりは塾の勉強のほうが…。塾でいい先生に会いましたね。すごいと思いましたね。塾の先生の方が。学校

の先生は全然。中学のときは（…）しなかったな。反発はしてないですけどね、周りからしてみたらおもしろくない生徒だから。先生とかね。友達と昼休みに遊ぶぐらいで、あまり話さなかったし、勉強はしてたという感じですね。

<7cm・24歳・中退後定時制高卒・男性>

今まで学校の先生で一番話しがわかった先生は、中学3年の担任の先生で女の先生だったんですけど、始めて担任持つ先生で、合唱コンクールになるとその辺の公民館貸しきってみんなを集めてくれたり。今でも最初に出てくる先生って、その先生ですね。進路のときもその先生、結構一緒に考えてくれた。はい。

<43cm・20歳・高卒・男性>

学校の先生とかはやさしかった。

<25cf・18歳・高卒・女性>

[小括]

教員は彼ら・彼女らにとって基本的には学校的価値を伝達しようとする存在と映っている。従って集団に対して規則の遵守を呼びかけたり、実際に厳しく指導に当たる教員ほど彼ら・彼女らからは遠い存在ということになる。「話せる先生」「わかってくれる先生」「良い先生」という評価を得ている先生は、「大勢の生徒の中の一人」としてではなく「一人の生徒」（* *さん）として、個の存在として認めて向き合い、「先生らしくなく」接してくれた人物である。実際に教室場面では「うるさいから静かにして…」と生徒全体に呼びかけても静かにはならない。「* *さん、こっちを見て、おしゃべりをやめて…」というふうに名前を出さないと自分が注意されていると認めない（気づかないのではない）。名前を出せば出したで「どうしてオレだけ?」「なんでアタシだけなの?みんなにだって注意してよ!」という反応が返ってくることも珍しくない。たとえ逆ギレされてもちゃんと個として教員の側からアプローチすれば、摩擦はあるにしてもある一定の関係をつくることはできる。現在多くの高校で（小学校、中学校はもちろん）生徒指導の難しさが指摘されているが、個に持ち込んで指導すればするほど教員の負担は大きくなる。「みなさん」では済まないからであり、一人一人の生徒の「個」の部分に十分配慮して指導に当たることなどできるはずがないからである。ヒアリング・データからは、「教員らしくない」先生が支持されているのがよくわかるが、そうした教員が「社会化」の機能を十分に伝えているかどうかについては疑問が残る。ただ、彼ら・彼女らに認められ、受け入れられてはじめて「指導」の接点ができることも確かなので、そこから造り上げる生徒指導、ひいては社会化の機能もありうる。

2.5 部活動など

かつての「古き良き時代」において、典型的な高校生活は、試験前には勉強もするが、日常的には部活動や生徒会活動など「仲間」と過ごす活動にかなりの重みがあった。たとえば、1970年代から80年代初頭のテレビ番組では、高校の運動部を舞台にした青春学園ストーリーがそれなりの支持を得ていた。ところが、最近では高校ではとくに非進学校（普通科の進

路多様校)において、部活動の参加者は激減し、多数のメンバーを必要とする部活動は休部や廃部に追い込まれている状況さえある。現在、学校において特別活動の比重は相対的に低下し、学力偏重の傾向はますます強まっていると思われる。その中であって、今回のヒアリング調査対象者にとって、部活動はどんな意味を持っていたのだろうか。また、彼ら・彼女らは積極的に部活動に参加していたのだろうか。

クラブ活動はサッカー部を。とりあえず、バイトのない日だけ出るっていう。バイトが先、優先ですね。バイトはほんまに3~4回くらいですね。クラブ出来ひん。土・日バイト入れて、平日クラブって感じですね。クラブ入ったんは、まあ高2の祭りの時期からですけど。バイト辞めるじゃないですか。祭りのための体力づくりとしてサッカーをやる。1年の時は何もしてないです。で1年上の先輩がやめて友達1人になったんですよ、サッカー部が。「そな、みんな集めてしよか」いうて、友達ばかり入れて、サッカー部作って。サッカー部はあったんですよ。でも僕らの上の年で終わってしまって、僕ら同好会から始めましたね。この高校はクラブが、盛んではないですね。みんなバイトばかりですよ、多分。そっちが一番やと思いますよ。3年生もクラブ、そのままやりました。同好会から最終的にはクラブになったんですけど、もう試合できるくらいの人数はいてました。

<37cm・19歳・高卒・男性>

(中学校のとき)サッカー部はずっと行っていて、途中でラグビー部に、何を血迷ったか、ラグビー部。それは友達が「ラグビー部やったらけんかになるで」みたいな、「けんか、多いで」みたいな話になって、「じゃ、おれ、ラグビー部に入るわ」。何か月か入って、あっ、これはスポーツやなというのに気づいてサッカー部に戻ったんです。けんかというか、そういうもめ合いがなっていて、いろいろラグビー部のほうがもめ合いが多いという話を聞いたんです。あっ、そうなんみたいなので、サッカー部はそんなにもめ合いがないぞみたいな。ほな、ラグビー部へ行こうかみたいな、おもしろそうやなみたいなんで行ったら全然、これ全然ラグビーやん、これ普通にタックルやん。

<1am・24歳・中卒・男性>

クラブとかは入ってないですね。初めは体操部やって、先輩がごっつ嫌やったんですよ。先輩が何でも下の子にうれしいやって。自分らはだらけてんのに、うれしいやうれしいや言うて。そんなんとかで嫌やったし、やめたら、すごいメンチ切られるんですよ。(笑)やめたんは人間関係で、もうそんなん嫌やなと思って、体操部に入ってやめたというのも、中学校がおもしろくないと感じる面の1つ。

<12df・20歳・専門学校中退・女性>

中学の時はクラブはやってないです。一応、水泳部でしたけど、ぜんぜん。…高校生活は楽しかったです。部活(バレーボール)をしていましたから。

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

高校ではやってない。中学までは野球とサッカー。野球部とサッカー部に両方入って、半分ずつ。1年から2年の途中ぐらいまではサッカー部に入っと思って、2年の最後らへんに野球。サッカー部は途中でやめとったから。もともと野球やっと思ったから。小学校1年ぐらいのときに、地域のリトルリーグに入って、遊びとかでもよう野球とかやっと思ったから。サッカー部に入ったのは、サッカーもしと思ったから、小学校のときに。高校のときは、クラブはやろうとも思わなかった。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

中学校に入ったら絶対テニス部に入ろうと思って。私は、幼いころから結構、何歳年上

かな、3つ上ぐらいの仲いいお姉ちゃんがいてたんですよ。そのお姉ちゃんがテニスをやっていて、格好いいなと思って。それでテニス部に入った。中学校で楽しかったのは、クラブが一番楽しかったですね。自分が頑張れば試合に出してもらえるし、結構部員が多かったの、試合に出してもらえる人数って決まっていたんですよ。だから、メンバーに選ばれるためには必死に練習しないとイケないの。で、必死に頑張ったら、試合に出れるので、やっぱりうれしかったですね。(中学時代テニス部で)初めは我慢してたんですけど、最終的に、ぷちっと切れて、がーって先輩に対して文句言っちゃったんですけど。1年のときに。スカートの丈とかも決まっていたんですよ、クラブの決まりみたいなのがあって。1年生は絶対スカートはひざよりちょっと下みたいなの。決められて、で、ちゃんとそれを守っているのに、「ちょっとスカート短いんちゃう、あんた」とか言われて、しかも、足のふっとい先輩に言われて、「そんなふっとい足見せたってな」とか言って、文句言いましたね、先輩に向かって。

<28cf・19歳・高卒・女性>

クラブはバレーボールをやった。中学だけです。全然。ほどほどに。別にきっかけはないんですけども。何かのクラブに入らなあかんかったから。

<28cf・19歳・高卒・女性>

高校は一応バレーボールもやっていましたけど。僕が1年生の2学期に全く来なかった時期があったんです。そのときに僕の友達ばかり集めてバレーボールをやっていたんです。あと3年生の人とばかりと。それで僕がいなくなったら、周りみんなもう…。それで行かなくなって、人数がいなくなって、つぶれてしまった。(何かあったんですか?)何かあったんですかね。何もありません。(それで復活はしましたか?)そうですね。3学期から。中学校のときのバレーボールのクラブは関西地区府内では16ですけど。個人的には選抜の全国大会の最終選考まで行きました。一応、高校も推薦が2校きていたんですけど。高いからけりました。先生が初め1校しか教えてくれなかったんです。その理由もあるんですけど、その1校は先輩が言ってくれて推薦してくれたんですよ。そこはスポーツ科がないので勉強しないとイケないんです。テストを受けるのに、ほんまの合格点の何%かの点数を絶対にとらないとイケない。それで勉強していたんですけど、体もぼろぼろだったので、そこまで勉強して、それでけがしたらどうなるんだろうと。腰をやったり、足をやったり、何回もけがをしていたんですよ。動けなくなったりしていたんで。それで怖くなって、できなくなったら学校をやめなあかんのかな、高い授業料払わせて、やめられへんしな、もうええわ、友達と遊んでいるほうがおもしろいしという感じでやめました。3学期から復帰したけど、クラブには戻っていないですね。

<51em・22歳・専門学校卒・男性>

中学校では軟式テニス。そんなに熱心に取り組んではないです。でも毎日。1年からやっていた。3年の引退まで…。高校に入って、クラブは高2からバスケ。友達が入って「一緒にやれへん？」て。3年まで。朝練も行ってたし、毎日部活やったかな。でも、そんなに強くない。ほとんど遊びやから。バスケやるのが楽しかった。

<29ef・24歳・短大卒・女性>

(中学では)サッカーやってました。最初から終わりまで。楽しかったですね。充実してましたね。レギュラーでした。でも、最後のほう、めっちゃ人数少なかったですから。最初25人ぐらいおったんですけど、最後、もう15~16人まで減りました。最初すごかったです。だから、練習に耐えられないんですかね。走ってばっかなんで、1年間は。

(高校では?)クラブね、サッカー部入ろうと思ったんですけど、兄貴と同じ高校やったんで、兄貴がおったんです。中学のときも同じやったんですよ。で、兄弟やのに敬語じゃないですか。「先輩」とか言わないとだめなんですよ。それがちょっと、中学のときも耐えられなかったんですけど、高校入ってまでそれ言いたくないなあと思ってやめました。

<23cm・21歳・高卒・男性>

中学校の時は1年の初めにブラスバンド部。でも、すぐ辞めました、半年で。楽器はクラリネットです。ほんとはドラムとかやりたかったんですけど、もうすでに人が決まって、しょうがなく。もしパーカッションになってたら続いてたかしらんし。友達と一緒にいったのに、その友達はもう全然けーへんし。なんやねん、みたいな。それも全然面白くなかったですね。クラブはそっからは入ってないですね。

高校は最初は何にもやってなくて、1年の終わりらへんに科学部を作ろうってことになって科学部を作りましたね、みんなで。最初、ミョウバンの結晶作ったりとか、なんか銅のやつをバァーって。でも、途中から結構、なんかパンとか作ったり。牛乳パックとか使って、あのほんまにクッキング部みたいな感じじゃないんですよ。ちゃんと牛乳パックにあの、鉄の板みtainん入れて、電気つけて、それで、出来るとか、ちょっと科学部っぽい。…あんまり最後行ってなかったですけど、一応籍は入ってた、みtainな。あとなんか、手話部とか。手話部も2年の終わりか3年になってから、結構遅めに。みんな友達が入ってて、いっぱい入ってたから、入ろうってゆわれて、10人から20人くらいはいてたかも。チェルノブイリのなんとかコンサートとかに行っただすよ。2年の時かな。で、手話で“翼をください”とか歌でやったりして。

<39cf・19歳・高卒・女性>

中学校の時はブラスバンド部。1年くらいしかやってない。楽器はトロンボーン。なんかはじめはできて、なんかだんだん難しくなって、わーでけへんわみtainな。ほんとの楽しさが分かる前に行かなくなっちゃった。高校の時は、クラブは入ってなかったです。

<38cf・18歳・高卒・女性>

クラブは、中学校は全く何もやってなかった。

<22cf・19歳・高卒・女性>

中学校のときは卓球やってた。1年のときにやってて、でクビになった。行ってなかったから、やめさせられた。

<6bf・20歳・定時制高中退・女性>

中学校、行ったり行かなかったりだとか、友達とやっていたんですけど、部活に入ろうかなって、自分は通わないから、とりあえず社会人のサッカーに…。(学校に所属するという感覚がないんですね?) ないんです。やりたいなら外に。社宅だったんで、工場のサッカー部に、近くの公園などに行ってまざるんです。そこにまざって教えてもらったりしていました。

<5bm・20歳・高校中退・男性>

中学のときサッカーで。中学のときは、友達が進学塾に行ってたんで、僕もそこに入ってたんですけど、中学3年間は必死に勉強ばかりしてましたね。本格的に勉強したのは中2、中3ぐらいですけど、中学時代は部活も途中でやめたぐらいだから。高校では部活は、アメフトをちょっとやったりとかしてましたけどね。でも続かなかったですね。精神的にもう荒れてましたから。友達とは結構うまくいった。

<7cm・24歳・中退後定時制高卒・男性>

関西地区と首都圏では、中学校時代から積極的に部活動に参加して3年間継続するという経験を持った者は少ない。勉強に集中して取り組むわけでもなく、かといって部活動にも積極的に参加するわけでもない、いわば学校的価値にコミットしない生活をしてきたことが部活動への参加の状況からもうかがえる。

一応野球やってたんで小学校・中学校と部活動が一番おもしろかった。一応小学校で野球部があったんで。入って。高校はやってないです。中学まではやりました。中学ま

では部活中心の生活だったですね。楽しかった思い出というとならば部活動ですね。

<43cm・20歳・高卒・男性>

中学校は部活は吹奏楽部に入ってたんです。あのユーフォニュームって金管楽器の大きいので、チューバの小さいの。(吹奏楽部は結構厳しかったでしょ?) そうでもなかった。うちの学校結構甘かったっていうか、そんなに優秀なところでもなかったんで。先生は結構、厳しかったんですけど、やっぱみんな結構サボってたという人もいましたし。まあ厳しい先輩とかいましたけども、だいたいはみんなです。3年間一応入ってましたけど…。

(高校では)部活は1年の頃ちょこっとだけ入ってたんですけども、すぐやめてしまって、後はずっと入ってなかったんですけど。最初着付け部にはいったんです。すぐもうやめてしまって、次に新聞部に入ったんですけど、やっぱり1ヵ月くらいでやめてしまって。友達に誘われて入ったというのがあって、それでやっぱりこう、みんなあんまり乗り気じゃなかったというのがあって。で、新聞部はもう3年生が一人しかいなかったんですよ。あと顧問の先生と2人だけで。で1年生が13人位入ったんですけど、一気にみんなやめてしまって、それで先生すごく心臓悪くしてしまって1ヵ月くらい入院してしまっただけです。「あーまずいことしてしまったのかなー」って。「私もやめたい」「私もやめたい」って、ずっと座って並んで、みんな一気にやめてしまっただけで、ショックだったのかなって。その後ぜんぜん部活しないですね。

<26cf・20歳・高卒・女性>

中学校の時はバレー部です。3年間続けてました。身体動かすの好き。コーチが厳しくて。コーチって言うのは学校の先生ではなくて、すごい人に頼んでいたんですけど。東北地区県内では有名な人です。頑張ってるんで、生徒が1学年で17人しかなくて、なんか友達同士仲よかったです。高校では部活は弓道やってました。結構上下関係とか、結構厳しかったですね。

<25cf・18歳・高卒・女性>

中学校のときはバドミントン。きつかったけど、友達がいっぱいいたから…。結構先輩とか厳しかった。高校ではパソコン部に少しいたくらい。

<24cf・19歳・高卒・女性>

中学のときの部活はサッカー部で、3年間。高校では1年の最初だけサッカー部でした。中学校の時から元々サッカーをやっていたんですが、やめた理由は、ここからグラウンドが遠すぎて、時間がかかるという事で、はい。(ズーとサッカーをやっていたのに高校に入ってグラウンドが遠いという事でやめたのは残念ではなかったですか?) 全然。

<14cm・19歳・高卒・男性>

中学の時は卓球部。高校入ってからは1年生のときに茶道部に入ってたんですけど、やめて、それからは入ってないです。

<27cf・18歳・高卒・女性>

中学校のときはバスケ部です。〇〇高校は女子バスケがなかった。もしあったら、入ってたかもしれません。バスケットけっこう好きでしたね。体動かすのが好きですね。

<19cf・18歳・高卒・女性>

関西地区や首都圏と比べると、東北地区では少なくとも中学校まではまじめに部活動に参加していた者が多いといえる。そのなかで先輩や友人、先生ともそれなりに交流して楽しかった思い出ももっている。しかし、高校では積極的に部活動をしたとはいえない。同じ高校出身者で3年間運動部に所属して、部活動の顧問の推薦で技能職として地元で就職できた者もいることから、高卒労働市場が厳しい多くの地域では、3年間部活動を継続したことがあ

る意味では勤勉さの指標として人物保証につながり、それが正規雇用就職できるかどうかのひとつのポイントにもなっているといえるのかもしれない。

[小括]

中学校までは運動部を中心に、積極的に活動していた者も地方では多い。男性はサッカー、女性はテニス、共通のバレーボール経験者が多い。中には相当の成績を修めた者も見られた。その意味では中学校までは強制とも映るような厳しい指導の下で、本意であるか否かを問わず、それなりの学校生活を送っていたともいえる。彼ら・彼女らの中で学校的価値は内在化しているとはいえないが、少なくとも表面的にはそれがマイナスの形では現れない程度には適応しているように見えたというところであろうか。

ところが、高校にはいると積極的に部活動に入った者はごく少数である。その主な理由は「アルバイト」である。学校が終わるとすぐにアルバイトに行き、夜まで働く生活では熱心に部活動をするのは不可能である。とくに運動系の団体競技、ブラスバンド、演劇など、多くの人数を必要とする部活動（クラブ）は、入部するものが少ない→アルバイトに時間を取られ毎日部活動に参加しない→練習が成立しない→部全体に活気がなくなる→辞める者・籍だけある者が多くなる→休部・廃部、という悪いプロセスをたどっている学校も少なくない。筆者はかつて公立高校（進路多様校＝非進学校）でバスケットボール部の監督（顧問教員）をしていたが、バスケットボールの5人のメンバーを集めるのも大変だった。いまや都市部の公立高校では部員の数がそろい、それなりの練習ができるのは進学校だけといってもよい状況がある。当然、部活動においても、他の活動における指導と同じように「厳しい」指導はできない。厳しい指導をすれば、部活動だけでなく学校そのものを辞める者がでてくるからである。すくなくとも都市部の高校出身者には「好きなときに好きなことをするために部活動に参加する」意識が見られる。地方では、熱心に部活動をした者も見られた。高卒者に対する求人が比較的多い地域では、あるいは高卒就職者が現在ほど少なくなっていなかった時期には、「高校で3年間部活動に参加して、熱心に取り組み、リーダーもつとめた者」は、求人する企業等が最もほしがるといえる人材であった。おそらく、それは「勤勉で」「礼儀正しく協調性があり(＝人間関係づくりの基本ができてい)」「ひとつのことをやり遂げる根気がある」ことを評価していることの反映であると思われる。

いま、地方では高卒正規雇用の求人そのものが十分にはなく、「やりたいこと」にこだわれば「自分にあった求人はない」状況にある。一方では、高卒求職者・その保護者の「地元志向」も強い。自宅から通える範囲で仕事を探すことは、経済的コストを考えれば合理的な選択ともいえるが、仕事を選択する範囲を狭めていることも事実である。その結果、非正規雇用労働でも「自宅から」という選択になるのは、ある意味必然であろう。高卒者の「質の低下」が指摘されることも多いが、高校での学業・部活動など特別活動における達成が「将来の達成に結びつく」という認識を持てるように指導しない限り、またそういう状況になるモ

デルを示して指導しない限り、「質の低下」の問題はクリアされそうにない。「3年間部活動に参加して、熱心に取り組んだ」者は、地方では決して少なくないはずである。そういう者を評価して職業社会に移行させることは学校の、そして社会の使命である。「指示待ち人間などいない」などという組織の論理の代弁者になるのではなく、今も昔も変わらない「勤勉な労働者」として彼ら・彼女らを育て、移行させていく「あたりまえの」指導が今も求められていると思えてならない。基本は生活の安定のための「就職」指導である。

2.6 友だち

多くの子どもたちにとって、学校は友だちと交流する場でもある。地域の学校に通うことが多い、地方の小学校・中学校では学校の友だちイコール地域の友だちである。今回のヒアリング調査対象者が「今もつきあっている」友だちとしてあげるのは、地元の（地域の）友だちが多い。これは、ある意味では学校の友だちの重みのなさの反映である。学校に行く期間が長くなればなるほど、すなわち学歴が高くなればなるほど、学校での友人の重みが増すのとは対照的である。彼ら・彼女らは「友だち」をどのようにとらえているのだろうか。

友達はたくさん。小学校の時から。小学校からずっと、そっからずっと上がって行って、そやから学校行かんと、みんなで遊んでた。みんな学校、面白なかったと思いますけどね。一緒に遊んでた子らは、徐々に、高校でも、その頃の友達がいっぱい居てますね。
<37cm・19歳・高卒・男性>

遊ぶのもあんまり好きじゃないんですよ。別に友達やから言うて、そんな毎日遊ぶことでもないし、学校で会えるし、学校で話したいこと話したらいいしと思っと思った。長時間会ってもしんどいじゃないですか、友達言うても。あえてその場をつくるわけでも…、要らんかなと。あんまり遊びには行かないです。
<12df・20歳・専門中退・女性>

中学校の友達とかはほとんど関係が続いています。（その人たちは何をしているんですか？）やっぱりフリーターが多いと思います。普通の社員みたいな形で就職しているというのは少ないと思います。
<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

彼氏とかはいましたよ、一応。高校の友達で、彼氏になったとか、バイト先の人とか、ありましたよ。特に印象に残るエピソード、別にないですね。ごく普通に過ごしましたね。
<28cf・19歳・高卒・女性>

友達関係は、まあまあ楽しかったです、はい。

<38cf・18歳・高卒・女性>

中2まではそこそこの成績やった。真ん中ちょっと上ぐらい。それが3年になったら急に悪くなって。友だちが悪かったんやな（笑）。自分が流されやすかったんすね。クラス換えになって、ちょっと悪い子と仲良くなって。上の子とかともいろいろ繋がりができてきて遊び出した。塾もやめて。…遊び友達は、高校とかはほとんど行ってないです。その頃1日の時間の流れは…遅刻いっぱいしてました。3時間目ぐらいから行ってたから10

時ぐらいに起きるんですね。(笑) ほんでまあ学校は一応行って。で、3時半かぐらいに終わりますよね。そのまま家帰らんと、溜まり場みたいな誰かの家に行って。2日ぐらい帰らへんかったりしてた(笑)。もともとはその人らとも付き合いはあったんですけど、一線自分中でおいていた部分があったんです。中学1年とかからずっと知ってて、その周りの友達はみんなずるずるとそっちへもって行かれててんけど、なんかお母さんに怒られるっていうのが常にあって、お母さんがすごい恐かったんですよ、私。それが急にぷつって切れたんです。…11月の進路の話があって、私学は1月試験ですよ。そういう話をしゃはってからは勉強をしました。遅いけどしました。グループの子との今までの生活は変えるように。遊ぶことは遊んでたんですけど、そんな遅まで遊ばんと、まあ8時とかで、そんなら私帰るわーみたいな。遅刻とかもなくしましたね。学校行きたいんやったらちゃんとし、そこから見られるから。先生にも言われたし。自分でそう決めて自分で切り替えていきました。自分でもきっちりしようと思ったらできる。

<22cf・19歳・高卒・女性>

友達に関しては全然苦労したことがない。どこへ行ってもそれなりにできるというか。だから、全然友達に関して苦労したことはない。

<7cm・24歳・中退後定時制高卒・男性>

友達と会うっていうのは…、仕事している人は、だいたい土曜日とか日曜日とかが休みなんで。やっぱ日曜日とか遊んだり土曜とか休みの前の日なんか遊んだり。だいたい高校の友達ですね。職場はやっぱり。年齢違うのもあるんですけど、休みとかも全部バラバラなんで。会うっていう時間なかったですね。高校のときと遊びの内容も変わってないないです。車があるんでちょっと遠出するくらいで。女性との付き合いは、今はないですね。高校時代は付き合いましたね。結構。もうないですね。高校時代くらいですね。ナンパとかはしないですね。車乗ったりして…機会があれば。ないですね趣味とか。ずっとテレビみて一日終わるくらいですね。

<43cm・20歳・高卒・男性>

付き合いしている友達は中学校の友達が多いです。中学校の友達のほうが高校在学中も仲がよかった。休みの日に遊びに行くのも中学校時代の友達の方が多かった。やっぱり付き合い長いし、地元だし。遊ぶときは、川があるんですよ。川で遊んだり。あとは車で映画見に行ったりとかとか。男女関係無く仲いい。高校の頃の友達は部活の友達。高校の頃の部活の友達はみんな進学して、〇〇とか△△とかに。(進学したい気持ちは無かったの?)あります。外国語の専門学校。英語が好きだというほどでもなかったんですけど、やっぱり今から国際化とかって勉強してみたらいいかなって。

<25cf・18歳・高卒・女性>

〇〇だと遊ぶところないです。カラオケが多いみたいです。カラオケも沢山はないです。カラオケにずっと…いろいろと、EXILEとかCHEMISTRYとかいっぱいあります。ファミレスはあるけどファミレスにはあまり行かなくて、カラオケ。昨日は友達の家で酒を飲んでいました。東北地区の高校の同級生。仲のいい友達は高校の同級生ですね。ほかは中学校の時の友達がちょっといます。(自由に使えるお金は今はそんなに沢山はないですよ、カラオケに行くのは大変ですか?)友達がお金をもっているの。友達におごってもらっています。

<14cm・19歳・高卒・男性>

[小括]

友だちとは何か、という問題は残るが、友だちは学校の友人よりは「地元の」友人のほうが親しくつきあっているようである。学校の友達は特別に親しくなった人を除くと、学校だけの付き合いに留まることが多いように感じられた。これは、社会的アイデンティティとも

関係するが、高学歴になればなるほど、「地域の友人」よりは、同じような学校的価値・社会的価値を共有し、場合によっては社会階層的基盤を同じくする「学校での友人」の重みが増すのとは対照的であると感じられた。

2.7 校外での生活（友だちとのあそび）

都市部では、ある層の高校生たちがアルバイトすることが日常化している。親から小遣いももらいその中で生活するのではなく、自分で稼いだお金を自分の小遣いとして自由に使うのである。ある意味で、彼ら・彼女らは高校在学中から非正規雇用労働に従事する「労働者」だったのであり、それは取りも直さず一人前の「消費生活者」であったことをも意味する。この節では、彼ら・彼女らの校外での生活を見てみる。

バイト行ったんは、小遣い稼ぐためですね。金使う遊びしか、しなくなりますからね。この年なってきたら。高校生なってきたら。ま、カラオケいったり。この辺遊ぶところ、ないっすけどね、それくらいしか。まあ、〇〇も行ったりもしますよ。出ますね。高校生なったら、服とかも気つかってきますし、だいぶ金かかるんで。友達たくさんいて、高校の時、わりと多いほうやった思います。ワッと遊びに行く。3年になって△△（スーパー）は、行かへんかったんは、もう、最後くらいちゃんと、真剣に遊ぼうかなど。ちょっとづつ、コツコツお金も貯めてたんで、これ最後使ったろかなて。結局、遊びと服で終わりましたね。金一番注ぎこんだんは服、が第一番。友達も服とか、同じような趣味持って持ってましたね。

また、高校に入ってからバンド始めたんですよ。それで、楽器買うてみたりとかもありましたけどね。僕はベース弾いてましたけど。バンドは友達に「一緒にバンド組もかー」って誘われて。それまでやったこと全然ないです。いきなり。ほんまに、半日以上弾いてましたからね。ベース。それは高1ですね。

…夏頃から「◇◇（祭り）」の準備ね、練習、あれ体力、ほんまに、いるもんね。ほんまに、2日間、走りっぱなしですからね。「走りこみ」ゆうて、1ヵ月、毎日走るんです。町内会で子供会っていうか青年団みたいなもので、頭がおって、仕切ってて。「今日から練習や」いうて。厳しいですよ。でも辞められん。練習って8時～9時以降、仕事やってますから。バイト終わってから、寄り合い行って走って帰ってきて、ベースをみたいな。普通、青年団は高校1年からなんですよ。上は25くらいまでです。そこから、また若頭ってなるんですよ。青年団の上の位になるんですよ。若頭って一人ではなくて。若頭グループ。若頭の上は、普通は終わりますけど。

<37cm・19歳・高卒・男性>

友達とは家で遊ぶ。テレビ見たり、ゲームしたりとか、カラオケに行ったりとか。友達と遊んでいることが一番楽しかった。

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

ブラブラしたり、カラオケ行ったり、ゲーセン行ったり、あとは〇〇行ったり。最近のは同期のやつとめったに遊んでないけど、大体、先輩。地元で仲よくなった人。昼は遊んでないけど、大体、仕事終わってから夜遊んでる。昼は大体寝てるか、家おるか。たまにパチンコに行って、たまにというか、暇だったらパチンコに行くぐらい。負けるときもあるけど、大体負けても後々ちゃんときっちり。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

バイトしていて、お金ができて、それともバイトで友達ができた。ふだんは〇〇とか。買い物とか、カラオケとか。洋服買ったり、くだらんもん買ってみたり。アルバイト始

めて、大体 10 万ぐらい稼いで、やっぱり携帯代とか。携帯代は月 1 万円ぐらいですね。夏休みとかに入ったらもっと結構かかりますね。2 万ぐらい。携帯代と、やっぱり買い物とか、遊びに行くのとか。貯金は、全然そのころ考えてなかったですね。服とか、一番お金かかっているかな。お母さんにめちゃめちゃ怒られる。1 回しか着いひんもんばっかやんか、あんた。どれだけ服あると思ってるのって、しょっちゅう怒られていましたね。バーゲンとか行ったら、また欲しくなるんですよ。高校時代、そんな感じですね。

<28cf・19 歳・高卒・女性>

高校は友達がおったから楽しかっただけ。別にそれ以外は。友達は△△とか××の子とかが多くて、遠いからあんまり遊びに行くということはなかった。〇〇とかぐらいまで。〇〇に親しい友達がいました。遊びに行っていたのは、〇〇の駅の辺とか。遊ぶ場所は学校の帰りに、□□で降りるから●●(商業施設)とか。□□は高いというか、買う服のブランドが決まっていたから、どこに行っても…。☆☆は乗りかえせなあかんから、車がある友達としか行かんかった。□□か、◇◇。服を買うか、ヒサロへ行くか、カラオケへ行くか。(服を買いたいから、もっとバイトを増やしたいとか) そんなんはなかった。高校のときも家は厳しかったから。ご飯をつくって、家を出て、バイトといっても何時間かだし。だからそんなに。

<18cf・20 歳・高卒・女性>

高校 3 年のときにはバンドもほとんどやっていないですね。毎日のように遊んでいました。〇〇君と毎日のように家でゲームをしたり。2 人で楽器鳴らして遊んだり、何てこともない、しょうもないことばかりしていました。家の中ばかりですね。外はあんまりお金がないので。バイトもしていないので。ほんまに仲がいいんですね。中 3 ぐらいからですけど、ほぼ毎日のように顔を合わせて。家も初めは近くだったんですけど、引越してちょっと遠くなったんです。それでも 5 分ぐらい。(高校 3 年生のときに家で遊んでいたら、お母さんとかお父さんは当然気がつくでしょう。何も言われなかった?) 何も言われなくて。最近聞いた話だと、1 年のときにむちゃくちゃじゃないですか。だから、学校も行ってきていて、家で遊んでいるんやったらまあいいかと思っていたらしいです。

<51em・22 歳・専門学校卒・男性>

(アルバイトをしたので) 本がたくさん買えるようになったから、友達と遊びに行けるようになったかな、御飯食べに行けるようになったかなというのがよかったかな。それが楽しかった。本以外には、ビデオ、映画を見られる回数が増えたのでよかった。どこか遊びに行くのが、やっぱりちょっと遠出もできるようになって、どこでも自転車で行っていたのが電車を使えるようになった。友達は、バイトの子がほうが遊ぶのはちょっと多かったですけども。〇〇とか、△△とか、そのあたりぐらいまでですね。たまに遠出して□□へ行ったり。交通費はものすごい痛かったですけれども。でも、そのかわりすごい楽しかった。地元では、あんまりやっぱり携帯を持っていなかったのがすごい痛くて、連絡を全然とれなくて、気軽にやっぱりみんな携帯を持つようになったら、家電になってだれが出るかわからないのが嫌やと言われますので、うちは留守電によくしているんですね、いても。とっさにとれないことがあったりするので。それで留守電になったらみんなすぐ切って、どうしても用事があるときやったら、もう 1 回文句をちゃんと考えてからかけ直すというようなのがすごく抵抗があるみたいで、それであんまり。意外と、中学のころはあんなに会っていたのに、地元におっても会わないんですね。中学校とか、地元の友達に。今ごろ帰ってきているはずやのになと思いつつも、すれ違うぐらいとかね。

<20cf・18 歳・高卒・女性>

遊ぶ場所っていったら、よく行ったのは〇〇の方とか。△△市内でも結構、遊んだかな。うん、駅の方。なんか××とかあるんですよ。あのへんとか行ったりとか。大体なんか、プリクラとか撮ったりとかそんなんですよ。カラオケとかね。□□とかもたまに行き

ましたね。□□行っても結局プリクラとかとってたり (笑)。このへんにはないプリクラとかもやっぱりあったりとか。別になんも特にしてなかったような。服とかなんか買ったりすんのにお金とかは使ってないですね。

<39cf・19歳・高卒・女性>

映画を見に行ったりとか…近いところとか。場所は〇〇とか、よく行くところやし、知ってる範囲しかあんまり行かないです。

<38cf・18歳・高卒・女性>

アルバイトして、そのお金が一番は携帯、でも1万ぐらい。今、教習所のローンずっと払ってるんですけど。残った分は貯金に回している。遊びは、車の免許取ってからは範囲は広まって。車の免許取ったのは卒業と同時ぐらい。それ以前は遊びに行く範囲はだいたい自転車で動ける範囲。車は親の車で、あっちこちちょろちょろと。遠いとこやったら、遠くないけど、〇〇城行くかとか (笑)

<22cf・19歳・高卒・女性>

遊びに行くのは全部徒歩。徒歩か自転車。免許取ったのは18になってからやし。バイクの免許持ってなかったし。交通費と自分のご飯代くらいかなあ。たばこ。お酒は飲んでてもおごってもらったし。(服とかそういうのにお金かけかけるとかない?) 服こだわらんから。趣味…、ないかなあ。カラオケぐらいかなあ。カラオケ楽しいな。毎日行ける。同じ歌歌っててんのんでも楽しい。携帯代とか使うときは使う。一番高かったのが8万。平均4~5万。月12、3万でだから三分の一は携帯代。ほとんど家の光熱費とか家賃、おばあちゃんやってくれてるから。今でも。あんまし家でもご飯うち、作るんじゃないから。昼はコンビニ弁当とかそんなやけど晩はおばちゃん作ってくれてたり。(今は遊びに行ったりとかは?) してる。今は車とか持ってるから。そんなに遠出はせーへんけど。□□の友だちんとことか。友達の家じゃないんやし。だから、家の前でしゃべったりとか。そんな感じかな。

<4bf・20歳・高校中退・女性>

いつも一緒に遊ぶともだちとはカラオケとか。ボーリングも。年は、一緒。小中が一緒だった友達もいてるし、違う子もおる。知り合った子。紹介とか。(場所はどのあたりに?)。〇〇。みんなっていても、2、3人でしか遊ばないから。△△とかは、あまり。遠いから。(服どこで買ってる?) 服屋。□□市はいけへん。めっちゃたまにやったら行くけど。まえは、行ってたけど。自分の車だせへん。友達の家。運転は自分は絶対せえへん。運転嫌いやから。最初のときは楽しかったけど、しんどくなってきた。(今、バイトしてないけど、遊ぶお金はどうしてるのかな?) おごってもらってる。(今やってみたいバイトは?) 一番やってみたいのはカラオケ。カラオケって23時とか、深夜。あんまり遅いのは、お父さんとお母さんが怒る。

<6bf・20歳・定時制高中退・女性>

学校から家に帰るとずっと、もうテレビ見てるかな。あんま遊びに行くことも無かったですけど。〇〇で離れているからあんまり友達とも遊びに行かなかったですね。〇〇の中学校ときの友達とは、電車のなかでたまーに会うくらいで、そんなに頻繁に会うわけじゃない。高校の友達とも一緒に遊びにというのはあんまりなかったです。たまに土曜日とか早く終わった日とかは家に寄って遊んだり、どっか遊びにいったりとかはしましたけど。(すごく深く友達と付き合うほうでもない?) そうでもなかったですね。クラスと一緒にいて「トイレいかない」っていわれたら、一緒に行く感じだったら一緒に行くという感じでしたね。でも、大体やっぱ高校とか同じ仲いい友達とグループ作ってというのはありましたけども。そんなに外にしょっちゅう遊びに行くという感じではなかったです。今も付き合っている友達もいますけど、そんなにもう頻繁に連絡とったりはしないですね。みんな仕事している。あとはもう大学とかで東京の方に行ってしまうたり、遠くは沖縄にいつてしまったり。

<26cf・20歳・高卒・女性>

高校時代に熱中していたことは、遊ぶことです。パチンコ。たまに 20 万円くらい勝つこともあります。パチンコの元手は小遣いか、母ちゃんの財布からちょっと抜いたり。気づかれて怒られました。遊んでいたという時間は、友達とパチンコやカラオケ、買い物やゲームセンターはあまり行かない。

<14cm・19歳・高卒・男性>

[小括]

先行研究でも指摘されているように今回のヒアリング調査対象者は、都市部の者は高校入学直後からアルバイトをはじめ、月に4～5万円から10万円程度の収入を得ていたこともあり、高校在学中から消費者としては「一人前」であった。友人とターミナル駅などの繁華街に出かけ、とくに洋服などのショッピングを楽しみ、食事をして、カラオケを楽しむ…という一般の社会人と同じような消費生活をしていたことがうかがえる。地方でも同じような傾向はうかがえるものの、アルバイトがないに等しいため、あるいは学校で禁止されていたため、アルバイト収入がほとんどないか少額であるため、都市部の者ほどは消費生活をエンジョイしているとはいえない。また、男性では友人同士自宅に集まりゲームをしたり、楽器をいじったりという「趣味の生活」をしている者もあった。

2.8 アルバイト経験

前節でも触れたが、首都圏や大都市では、ある層の高校生が日常的にアルバイトをしている。彼ら・彼女らは、高校時代にいつ頃から、どんなアルバイトをしていたのであろうか。この節では、高校在学中を中心にアルバイト経験を見てみることにする。

高校の時からバイトをやりました。最初にバイトをしたのは高1の終わりくらいですね。紹介ですね。紹介されて、最初は飲食業になるのかな、〇〇（スーパー）なんですけど。〇〇の食品部です。食品を棚に並べたり。…僕「△△（祭り）」に出るんですよ、祭りのときにね。でそこでまた1回辞めたんですけど、でまた、社員さんに「戻ってきてくれ」言われてまた2回目〇〇でみたいな感じですね。「△△」のときは「△△」があるから「休ませてくれ」いうんですけどやっぱ「それ迷惑になるかな」考えて「もう辞めさせてくれ」いうんです。それで「△△」引いてまた2月くらいまでゆっくりしとったんですよ10月から。そしたら電話かかってきて「バイト、もう一回やってほしい」見たいな事いわれて。その後は1月に入って半年くらいやって、「△△」があつて辞めてまた2月からまた入って、また、祭りまでですけどね。2年生になってまた「△△」まで、「△△」は捨てられないですね。その時はそれで辞めて、そこからはもう何もしないですね、高3になってからは。

<37cm・19歳・高卒・男性>

高校時代からずっとアルバイトとかはしていました。高校に入ってからすぐです、4月から。駅の中で、喫茶店の募集みたいなのがあったじゃないですか。あれを見て電話して。お金欲しい（笑）。

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

高校に行ってたころは特にアルバイトをしてたということは…1回だけしたけど、すぐやめた。1年のときの夏ぐらい、ポスティング。〇〇（就職情報誌）か何か載って。金欲しいから。時給（700円）で2ヵ月ほど働いて、やめようと、おもろくないし、

だるいし。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

高校1年生のとき、喫茶店のバイトを、入学してちょっとしてからかな。友達の紹介で。朝7時前に早く起きて、3時、4時まで勉強して、その後喫茶店でアルバイトして。で、家帰って、まあ、何時ぐらいかな、10時、11時ぐらいに家に帰って。バイトは9時ぐらいまでなんです。それで、社員さんと御飯を食べに行ったりとか、しゃべったりとかして、帰るの遅くなってという感じですね。忙しかったけど、楽しかった。週に2回ぐらい、大体休みをもらって。2回休んで。でも、土日は絶対休みもらえないんです。忙しいから、土日は朝から晩までフルで働いてって感じ。…(給料は)普通に10万ぐらいはあったかな。夏休みはもうちょっとありました。…学校の友達の紹介で、高校2年生の10月ぐらいから。アルバイトが1年半ぐらい。回転寿司は。楽しかったですよ。常連さんとかやっぱりいらっしゃるんですよ。そのお客さんと仲よくとかなったりとかして。たまにそのお客さんから差し入れをもらったりするんですよ。何かおかしとか、ジュースとか、結構もらったりするので。2月から家の仕事をするためにやめたけれども、そういう状況がなかったら続けてました。バイトしていても、逆によかったん違うみたいなのはありますけどね。お客さんとか、年上の人とかと接することによって、言葉づかいとか、あるじゃないですか、あいさつとか、礼儀とかやっぱりちゃんとしないといかんじゃないですか。そういうのが身についていいん違うという感じでしたね。

<28cf・19歳・高卒・女性>

高校在学中は高2の夏ぐらいから日曜日だけ、友達の喫茶店を知り合いのおばちゃんと言ってくれて、休みの日だけバイトをしていたぐらい。お父さんも知っていて、店はすぐ近くだった。知り合いのおばちゃんが、友達というか知っている子の店を言ってくれて。喫茶店だったから、日曜日の朝8時からお昼過ぎぐらいまで。時給は750円ぐらいだったかな。月にしたらもう全然。携帯代が払えるぐらい。お金は服とかに、ずっと服がすきやから。月にしたら高校のときのほうが、卒業してからよりもお金を使っていたかなと思う。お父さんからもらったり。何10万とかは使っていないけれども、1つの服が高かったような気がするから、2万とか3万の服。

<18cf・20歳・高卒・女性>

学校に行かなかった高1の2学期の間に、バイトですね。知り合いのところでやらせてもらって。学校を休んで。もうそのときはやめる気だったんで。全然何も考えないで、働こうと思って。特殊なやつなんで説明しにくいんですけど、塗装みたいな。普通の塗装屋じゃないんですけど、室内で何か特殊な。お母さんの友達の親戚か何か。お母さんが紹介してくれた。(お母さんは)家でぼうっとしているんだったら働きに行けみたいな感じだったんですね。土日休みで、毎日。給料はよかったですよ。20万ぐらいくれました、高1で。時給でしたけど。

<51em・22歳・専門学校卒・男性>

バイトは最初は中学校を卒業してすぐ、高校に入る前、春休みの間だけ。単に遊ぶお金が欲しいから。最初に行ったところは工場とかそういう。袋詰。これはお姉ちゃんがバイトしとって、それで、お金が要るから。時給が覚えてなくて、でも1週間ぐらいだけバイトして、もろうた金額は。6万円か7万円。立ち仕事でしんどいのはしんどかったけど、それでこんだけもらえたら何か、まあええかなって。次のアルバイトは高1の夏休みにガソリンスタンド。これも友達が行って。夏休みに、ほとんど毎日。ほとんど毎日行って、朝から夕方働いて、そこそこもらってたと思う。夏やったからすごい暑くて嫌やった。毎日早く帰りたいかった。次は冬休みの前ぐらい、スーパーのレジかな。これも友達に。時間は夕方の5時から10時、ほとんど毎日です。学校行って、そのままの服で行って、制服は向こうで着がえて、上だけ、カッターとかで。月に10万は行ってたんちゃいますかね。休みの日は朝から終わりまで。とりあえずね、お金欲しかった。

<29ef・24歳・短大卒・女性>

アルバイトは接客業なんですけれども、ファミリーレストラン。高校1年の6月の終わりぐらいに採用が決まりまして、7月ぐらいから本格的に働くようになって、3年生の1月ぐらいまで同じところで続けました。中学校のころ友達やっただ子がそこで働いてまして、会ったときに「バイトしてる？」とかいう話になったんですね。「一応、探してるねんけど」とかいう話をしたら、「うち、今、やっているところ、人探しやっているので、じゃあ、受けに来たら」とか言われて、その場所も家から近くですので、通えないなこともないなと思って、その条件が2つ合いました、とりあえず面接を受けてみようかなと思って。受かりましたので、そこで続けることになりました。時給は最初は700円だったんですけれども、〇〇最低賃金が703円に変わって、5円ずつ昇給しまして。最終的には723円になりました。…夏休みとか、春休みとか、長い長期休暇のときは週6ぐらいとかで、ゴールデンウィークはびっちり全部とか、そういう感じになりましたけれども。バイトをはじめた理由は、大学にも行きたいかなという、先立つものがなければ無理や、急遽ためられるものではないし、奨学金を借りたとしても、やっぱり返さなアカンし、借りられる額にも限度があるしということ。自分のお小遣いにもなるしなという思いもありましたけれども。一応は貯金目的で始めて、月5万ぐらいだけ、きっちり貯金はしました。

<20cf・18歳・高卒・女性>

バイトは高1のときがスーパーに行ってたんですよ。家の近所です。食品っていったね、品出しとか、売変てわかりますよね。値段とかを、特価とかあるじゃないですか。ああいうのを変えたり。ポップづくりとかやってましたね。高1の5月か6月ぐらいからですね、たしか。で、そこから3ヵ月か4ヵ月しかやってないです。お金たまってきたんで、もういいかなと思って。このころって遊びたいじゃないですか。で、遊ぶお金が欲しかったんです。このバイトは、直接店に電話しましたね。時間としては、平日は何時からやったっけな。4時頃から9時ですね。で、日曜が8時から9時。時給は700円ぐらいやったと思うんですよ、たしか。棚卸しんとき、もっとひどいんですよ。朝の8時から10時半とか、余裕でやってました。初バイト経験は、めっちゃ楽しいってのはあったんですけど、やっぱり初めて働いたっていうので、しんどいっていうのもありましたね。…1ヵ月だけ友達5人ぐらいで一緒に行ったんですけど、工場内でね、何かポスターあるじゃないですか。普通のポスターを箱に詰めるっていう、内職みたいなバイトなんです。それを1ヵ月ぐらいずっと延々やってました。短期バイト第2弾は、友達のおやじの工場なんですけどね、豆腐屋なんです。そこでね、豆腐の賞味期限あるじゃないですか。あれを打っていくんですよ。何か、機械あるんですよ。通したらばたんっていう。それをやってましたね。それも友達4、5人でやってたんですよ（笑）。それも楽しかったですね。もう1個あるんですよ。短期じゃないんですけど。高2の何月だろ、10月頃かな。お菓子のトラックの積み込みみたいな感じです。…卒業して6月頃までは多分やってましたね。ボーナスがあったんですよ。6月と12月。2万円ずつ。

<23cm・21歳・高卒・男性>

高校の時のアルバイトは、たまに。最初にやったのは1年の冬休みの郵便局の年賀状の時期の、郵メイトってやつなんですけど。あれですね。仕分けとか。12月の20日ぐらいから1月の10日ごろまで。時給はいくらやったかな。なんかめっちゃ安かったような気がしますね。700円あったかな？9時から4時か5時くらい。友達も一緒に、楽しかったですね。年末年始やって6万くらいかな？何かに使ったっていうよりは、携帯のお金にしたとかそんなかな。…その後は2年の7月だけ、コンビニみたいなところでやったけど、3週間くらいでやめましたね。そこも、友達が行ってて、一緒にやっていうか、私があとで行って。まあ時間とかは全然ちゃうんかったんですけど。時給はたぶん700円くらい。…次は、また冬休みにあの郵便局ですね。…次は短期で、3月の春休みかな？工場で、イカの流れ作業みたいなんで、生のイカ。機械にガーってやって切ったりとか、タコみたいなやつを包丁でなんか切ったりとか。それは2日でやめました。その会社っていうか、そこは結構しんどいから辞める人が多いみたいで、その社長とかも、合わなかったら辞めていただいて結構ですのでみたいなことをあらかじめ言ってたから「ああ、辞めよう」って。それでも結構、2日だけで、1万4千円くらい

はあったんですね。1日の時間がすごい長かって、9時からなんか6時くらいまでやったかな。そこは求人広告。新聞に入ってるやつ。…学校の授業ある間はアルバイトはほとんどやってないですね。あれは無理でしたね。

<39cf・19歳・高卒・女性>

アルバイトは、したことあります。高校2年の夏休みに魚の加工。それは友達が見つけておもしろそうなのがあるから、行けへんって言われて。あんまり乗り気じゃなかったけど…。時給は700円ぐらい。3年生ときは、お団子屋さんでバイト。募集してた張り紙をお母さんが見つけて行ってきたらって言われて、もう1人の人が事情で行けなくなって期間だけ、1週間か2週間お願いしますって言われて。販売みたいな感じかな。作るのもやりました、お団子。作るのは楽しかったけど、販売とかレジとかは全然できなかった。一応続けたけど、続かなかった。

<38cf・18歳・高卒・女性>

バイトは高校1年、もう初めからやって。おすし屋さんで5時から10時まで。カウンターで。昔からよく食べに行ってたおすし屋さんやって、中学卒業するときに行って、バイト何かないかなってみたいな話したら、うちちょうど探してんねんけどけえへんみたいな。近所ですね。時給は平日が750円で、日曜祝日が800円。週6回で月曜日のみ休み。毎日行ってました。月にしたら7~8万ぐらい。それを高2まで。おすし屋さん、やっぱり全部入ってたらしんどいというので、テスト休みとかももらえなかったんですよ、バイトが私だけというので。やっぱり欠点とか出てきたらやばい。で、テストの日、丸々1週間休みほしいとは言わへんけど、休みもらえませんかと言うと、それはしんどいなて言われたんで。それやったら私も、こっからさき卒業していかな困るから、このバイトやめますって言って。で、しばらくバイトしてなかったんですよ。半年ぐらいしてなくて。せえへんかったら、遊びに行くお金もなければ携帯代も払っていかなあかんし。(笑) 駅の近くに、オープニングのチラシがバーンと張ってたんですよ。オープニングやったら人間関係も一番初めからやしやりやすかなーて。高2の時やったから、晩の部だけ10時まで。ほんで、高校卒業してから予備校行ったけども、朝も入ってきてバイトのほうが主になっていった。やっぱりお金だな、と。(笑) 高1の時からアルバイトして、高校生の時は全部自分のお小遣いになってました。でも卒業してからは家に入れてます。5万ぐらい。自分で判断したのもあるし、やっぱり家に居るんやったら、それなりの事してもらわな。ボランティアではいかへんよ、もう高校卒業させるまではあやし等の仕事やけど、高校卒業してから以降は知らないよってずっと言われてきてたから。

<22cf・19歳・高卒・女性>

バイトは、いろいろやった。高校行ってた時に、コンビニのバイトやった。高校入ってすぐぐらい。家の近くのコンビニの所に貼ってある張り紙で。高校入ったらバイトをしよう…遊びにお金がほしいから。親からは、小遣いっていうのは決まらんと、ほしい時にはほしいだけもらってたりしてた。高校入ったら自分で稼ごう、親にあげようと思っててん、お金を。お金を渡そうと思っててたんやけど、やっぱり給料こんだけやからあげたらもったいないと思った。(親にお金をわたそうと思ったのは)勝手に親の財布からとったことあったから。ばれるねんけど、いつもごめんなごめんなで許してもらってたから。時給は725円ぐらいかなあ。週何回やろ。2~3回ぐらいかな。夕方6時ぐらいから、10時ぐらいかなあ。続けたのは2週間ぐらいかなあ。やめるきっかけは…晩みんな遊んでるから。みんな遊んでるのに自分だけバイトいかなあかん。友達と遊びたいのに遊ばれへんてそんな感じ。(辞めるときは)なんも言わなかった。いかんくなった。給料振り込みやったから、別に会う必要もないし。…こんなやりたくてやったとかっていうバイトは別はない、全部お金目的やったから。探し方は、友達に聞いたり、新聞の折り込みとか、職安行ったり。タウンページで一件一件募集してますかって調べたり。タオル工場とかプリント会社とか。選ぶ時に自分が基準にしてたのはやっぱりお金。求人広告で自分で優先順位をつけるとしたら、工場とかだったら時給で、初めに見るっ

て行ったらスナック系かな。

<4bf・20歳・高校中退・女性>

アルバイトは工場。工場で包装とか、機内食。コンビニート。最初にアルバイトしたのは…ここ以外？覚えてない。(これまで経験したアルバイトを覚えている限りでいいですかから教えてもらえますか?) すし屋。それは高1。友達の紹介で1週間くらい。やりづらかった。(100円の回転寿司?) 中に入って洗い物。時給は覚えてない。多分750円くらい。朝から学校いくまで働いて、で学校に行ってた。朝10時から(午後)3時まで。人間関係がうるさかった。「もっと元気よく、声出していけ」と。で、やめてお母さんの職場で、それが機内食。朝8時から4時くらいまで。航空会社の名前のシールを袋にはってた。それは1ヵ月くらい。決まってた。契約で1ヵ月だけ。お母さんにバイトしいよといわれたから。時給は750円。(しんどいと思ったのは?) ずっと立たされた。次のアルバイトは半年以上たって、1年経ってたかも。覚えてない。(次やろうと思ったきっかけは何ですか?) お金がない。遊びにいかれへん。そのあとは…また、工場と思う。それも1週間くらいしかいっていない。時給は860円。何かつめていた、箱に。(時給よかったのに辞めてしまった理由は?) なかったんですけど、何かやめてしまった。ここから自転車で15分。工場の仕事は友達の紹介。

<6bf・20歳・定時制高校中退・女性>

(高校在学中のアルバイトは) お金が欲しかったから。小遣いが欲しくて。暇だった。最初は、友達の親がそば屋をやっている人で、そこでちょっとバイトをやって、あとスーパーマーケット〇〇社のスポーツ洋品店とか居酒屋とか。張り紙で。それは冬休みだけだった。〇〇社のほうは、9月から2月ですね(進級できるかわからなくなってきたとき)。

<7cm・24歳・中退後定時制高卒・男性>

アルバイトを一番始めにしたのは高校1年入ってからすぐ。学校には内緒で。ファミリールレストランで厨房やってました。高校入ったら、バイトしてお金ためて好きなもの買いたいなって。「高校入ったらバイトする」っていう感じは、普通ではないと思うんですけど、部活とかしていなかったんで、時間もったいなくなって。週3回くらい休みがあって4日くらい出てました。土・日も出てましたね。土・日は朝からの場合もありましたし、夕方からの場合もあります。普通学校がある日だと5時・6時くらいから9時・10時くらいまででした。3~4時間。土・日だともう少し入れるんで6時間とか倍になったり。月に5~6万円くらい。夏休みになるとやっぱり8万から9万円になりました。(それを何に使ってました?) んー。覚えてないですね。一応欲しいものとか、MDのコンポとか買ったりして、結局は何に使ったかはわからないうちになくなってますね。うちから小遣いは貰ってなかったですね。はい。「いらない」って。…その後は高2年のとき、スーパーマーケットでアルバイトして。それも1年くらい。高校3年ではやっていなかった。就職活動で忙しかったんで。…最初のファミレスは自転車で通ってました10分~15分。二回目のスーパーマーケットはすぐそこで自転車で5分くらい。(アルバイトを見つけたのは?) 中学校の時の友達がいたんです、一番最初のとき。…(世の中のそういう仕組み教えてくれた事なんてありました?) やっぱりありましたね。「就職厳しいんで頑張れ」ってそういうこといわれました。パートのおばちゃん達とかにですね。

<43cm・20歳・高卒・男性>

高校時代アルバイトしていた。夏休みだけ。飲食店で注文受けたり、ウエイトレスみたいな感じ。学校が平日あんまり忙しくないから、夏休みだけ、土日だけっていうのがあったんだけど、なんか先輩がやっててこの〇〇高校の。土日だけやって平日学校行くともったいなくて学校休むようになるって聞いたから夏休みだけ。これは高校2年生の夏休み。アルバイトしたのはこれだけ。

<24cf・19歳・高卒・女性>

高校の時はアルバイトはしていません。〇〇高校では許可をもらわないとできない。しない理由は…めんどくさかったので。

<14cm・19歳・高卒・男性>

アルバイトは、少し。〇〇高校は許可制。許可をもらって…。最初にやったアルバイトはファミレスの裏方の方で、サラダ作ったりとか、そういう仕事だったんですけど。食物関係が好きで、作るというのが割と好きですね。そっちを希望したんです。高校2年生のときですね。時給は650円くらい。(アルバイトを始めた理由は?) やっぱりお金がないからですね。収入的には月に3、4万とかそのくらいにはなった。(それを仕事にしようとかは思わなかった?) やっぱり人間関係とか耐えられなさそうというのもあるし、やっぱりやりがいていうか、楽しいという感じではなかったんで、あんまりやりたいとは思わなかったですね。このアルバイトは2ヵ月くらい。高校3年生のときに、友だちが△△町のほうにいますけど、そこで友だちがバイトしてて、ちょっと誘われてやってみたんですけど、そこはあんまり仕事が入らなくて、ちょっとしたらやめちゃいました。それも食物関係。

<27cf・18歳・高卒・女性>

無許可で。高校入ってすぐにやりました。いま働いてるお店のオーナーのちがうコンビニなんですけど、そこで。時給は650円です。バイトってすごい入ってたんで。月5、6万、高校1年のときももらってたんで、まあ遊ぶには十分。そのときには、今みたいに家にいれては、なかったですね。それを1年間やりまして、そのお店がちょっと経営者が変わるってことだったんで、私もやめて、で、半年は何もしてなかったんですけど、そろそろしょうかなってことで、ウエイトレスっていうんですか?ファミレス。またバイトしたんですけど、ちょっとそこは合わなかったんで、2ヵ月くらいでやめて、また、同じ、コンビニの方で。コンビニ、仕事自体は好きですけど、楽なんですよ。たぶん、ほかのコンビニよりはけっこう仕事がいっぱいあったと思うんですけど、まあ、仕事自体は掃除とかも好きなんで、全然。苦にはならない。…今の店って、今は時給650円。最初の1年生のときは高校生は650円からということだったんですよ。で、そこは一回やめて、今の店に入ったときは620円からということになったんですよ。で、620円から、卒業したんで650円に。レジとかも好きでしたし。コンビニの仕事はまだやりたいですね、はい。

<19cf・18歳・高卒・女性>

多くの場合、「遊ぶお金のために」アルバイトを始め、継続しているといえるが、東北地区では、家族から与えられた環境(祖母からの小遣いと携帯電話代・洋服代などは親が負担する)で我慢するケースも見られた。

高校時代アルバイトは、ぜんぜんやってなかったです。暇なんです。周りの友達もアルバイトしている人もありましたけど、していない人もいて、それぞれでしたけども。アルバイトしようと思ったことはあったんですよ。でも許可取ったりしなくてはいけなかったし、バイト先どうするのかというのもあって、探すのも探せなかった、というか、見つけられなかったっていうのもあって3年間ずっとしなかったですね。雑誌とかみてコンビニとかに置いてある求人誌とか見たりはしたんですけど。応募はしなかったですね。小遣いは、おばあちゃんから月3千円貰っている程度で、親からはもらっていませんでした。でもお金に困ってるって様なこともなかったです。携帯は親が払ってくれていて。服なんかも親に買ってもらってしまって。

<26cf・20歳・高卒・女性>

[小括]

都市部においては高校入学直後から、場合によっては高校入学前の春休みからアルバイトをはじめた者が多い。地方では、学校の規則が厳しく、許可を得た場合だけにアルバイトをしたケースが多い。アルバイトをはじめた理由は「お金がほしい」が大部分である。

アルバイト労働の内容は男性が現場作業、スーパーの品出しなど、女性は軽作業と接客サービスがその主なものである。多くの場合、アルバイト生活にはそれなりの適応を見せており、お金がもらえるからという真剣さと決められた時間に決められたことをするという労働の基本はアルバイトを通して身につけたと思われる。人間関係も必ずしも円滑にばかりいっているとは言い難いが、それでも学校とは違い、お金を得るためという利益に動機づけられているためか、それなりの関係はつくれているようである。これも、アルバイトの効用のひとつであろう。

もともと働くのがイヤなのではない。というより、働かなければ日常の生活が成り立たないことはイヤというほど身に染みて知っているのである。しかし、枠にはめられる「不自由さ」を嫌い、我慢できず、正規雇用労働という「枠」にはまらない生活をしているのである。彼ら・彼女らはアルバイトを通して、お金を得て、働く世界の基本を身につけ、その一方では使う側の身勝手さを知り、それとそれなりに折り合いを付ける「したたかさ」も身につけたのである。言ってみれば、学校では決して学べない「生活の知恵」（よい意味でも悪い意味でも）をアルバイト経験を通して、高校在学中に身につけたのである。学校的価値、社会に適應する価値意識を受け入れることなく、またそれを内在化していないからこそ、今の生活を不安定であるとは思ふものの、それなりに過ごせるのである。こうした傾向は「正規雇用を指向しながらも、労働市場があまりにも厳しく、非正規雇用労働を余儀なくされている」地方では希薄であるが、「選り好みさえしなければ、それなりの雇用はあり得る」首都圏・都市部ではかなり強く見られる。

2.9 進路選択（就職活動など）

多くの者が学校的な価値を受け入れず、勉学に励むわけでもなく、部活動に熱心に参加するわけでもなく、「なんとなく」「それなりに」、場合によっては「好きなように」学校生活を送ったようである。高校進学時に、多くの者が「高卒後、進学しない、できない」あるいは「進学は考えていない」と思って、消極的にはあっても学校を選び、入学したわけであるが、彼ら・彼女らは高校卒業時にどんなふうに進路を考え、どんな活動をしたのだろうか。この節では、彼ら・彼女らの進路に関する行動を見てみることにする。

将来どういうふうになりたいなって、ほんまに、何時頃っていうのは全然ないっすね。高校行って、まあ「就職はするんだろなー」と思って。それぐらいですね、ほんまに。職種っていうのが、ほんまに全然なかったんで、仕事選ぶということもできない位でしたね。「どれがいい」というのがないんで。こういう情報が得られるとか、そういうこと

も、もう全然ですね、ほんまに。まあ就職できたというくらいですね。(就職試験は)受けた。いや、受かってたんですけどね。入社式の日取りとかの情報がないで、「あったんや」思うんですけど、学校が忘れたのか、僕が忘れたのか分からないんですけど。もう、そのまま。就職するときは、いやもう「近いとこ、金、いいとこ」いう位で、僕が自分で決めた所です。(就職しなかったのはその日取りとかで)わけ分からん会社なんですけど。入社してへんけどみたいな。それっきり連絡ないですね。…何ちゅう会社か、僕もわかってないんですよ。工場の機械の部品を作ってる会社ですね。ネジとか。その会社を見つけたんは、学校の案内見て。「もう、ここでええわ」って、近くて、土・日休みでという感じ、ほんまに楽なことという理由で選びましたけど。入社式、行かへんかったら、1回電話かかって来ましたね、学校から。「あやまりにいこか」とか言われたんですけど、そんな、「あやまって入るぐらいやったら、もう辞めとくわ」って、会社辞めました。「また、一緒に職安行こうか」とか誘ってくれましたけど、さすがに「そんな自分でする」って。職安行ったことありますよ。何回か、顔出すくらいですけど。探してて、何か一応出来る仕事があればって考えておったんですけど。で、探してる時に「一緒にバイトしようや」って誘われて、まあ「とりあえずバイトでええわ」と。

<37cm・19歳・高卒・男性>

僕、一応音楽が趣味でやっているんですけど、音楽関係でできたらいいなと。バンドから始まったんですけど、今はもうユニットとしてとりあえずちょっと、去年、おとしまでは活発に動いていたんですけど、最近はおとしとね、また新しい仕事を見つけないといけないということで。ボーカルで、歌ったりする仕事を、もうそれはできればそれを望むんですけども、まあ、そんな甘くないやろうというので、別にそこまではもう考えてないですね、今は。オーディションとかも受けていたんですけど、もうある程度やってきて自分の中での音楽の道というのが見えてきているというか、そんなんで。

<1am・24歳・中卒・男性>

高校を卒業するというときに、料理関係の専門学校に行きたかったんですよ。でも、親に反対されたんですよ。お金かかるじゃないですか。親に、どうせあんた、専門学校に行っても、今みたいにサボるだけやねんから、そんなんやったら行かんほうがいいみたいに言われたんですよ。ほんまに料理の勉強したいんやったら、どこかに、見習いで就職か何かして、勉強して調理師の免許とりなさいという感じ。それもいいかなって思いましたね。働きながら勉強もできるしお金も稼げるし。専門学校に行けなかったということでがっかりしたとか、別になかったですね。どうせ親に反対されるやろうと思っていましたし。3年の終わりぐらいに、やっと、もうしょうがないかなという感じでしたかね。それ以来、回転寿司で賄いをつくったりするぐらいですね。

<28cf・19歳・高卒・女性>

進路を決めるときに、服屋の店員になりたくて、「学校からの就職はせえへん」と、親にも先生にも卒業の大分前から言っていて、それで何もせえへんかったし、お父さんもそのときは別に。めっちゃあほやったから就職もできへんのちゃうかという感じやったし、就職前とかになったら化粧とか服装とかも学校でめっちゃ言われるじゃないですか。そんなのもうざかったし、就職をする気もなかったし、それは親にも言っていたから特に何をしろとは言われなかった。(服屋は)自分が着るような、そういう系の店で。服が好きやったから、その販売とかを。服屋さんで働くために、別に行動はしていなかった。服屋さんで社員になりたいとかではなくて、服屋さんで働いたらバイトでもいい、若いうちしかできへんしという感じやって。学校からの就職ルートは全く考えなかったです。そんなん、もう見る前から。3年ぐらいになったら、卒業間近でなくても進路のことを聞かれたりするけれども、全然進学する気もなく、就職する気もなく、興味もなかったし。学校から就職するといったら、めっちゃ面倒くさいような感じもあったし、成績が多少関係あるじゃないですか。あまりにもあほやったし、ほんまに。だから。

「後から後悔する」とかは、先生がよく言っていた。それで、就職する気はないとずっと言っていたら、卒業間近になったら短大とかをめっちゃ勧められて、そんなんのほう

がちゃんちゃら行く気はなくて。あとは、勉強にしても身だしなみのことを言われるにしても、「今我慢したらいいねん。卒業したら好きなようにやれんねんから」とか。「やはりちゃんと高校も出て、するんやったら就職したほうがいい」って。服飾関係の専門学校に行くとか、そんなもなかった。とりあえずバイトとかでいいという感じだったから。

<18cf・20歳・高卒・女性>

(専門学校進学は)最初から決めてたわけじゃないです。あんまり覚えていないんですよ。全然ちゃんとやっていなかったの、もうどうでもいいわみたいな。(就職するつもりはなかった?)多分そのときはなかったんでしょうね。建築関係に行きたかったの、そこで大学でもよかったですけど、行かれへんて言われたんで、なら専門学校でという感じで。先生から行かれへんて。テストに受ければ行けたんでしょうけど、無理だからやめとけと。

<51em・22歳・専門学校卒・男性>

1年生のときは、高校を出てすぐ働きたいと。希望の職種なんかはなくて、とりあえず働きたい。正社員で働きたかった。2年生ぐらいでは専門学校。服が好きやったから、専門的にいろいろ。3年で、大学行くかなと。もうちょっと遊びたいな、というか、働いたら遊べないなという。みんなが短大とか行くから、そうすると会うのが難しいから。実際に進路を決めはったのは、ぎりぎりやと思う。願書か何かわかんないですけど。夏ぐらいかな。とりあえず推薦で、テストも面接もない。どんな推薦やったかわからん。一応テストはあるけど、デザイン。服飾系やから、ほとんどはデッサンのテストがある。それに国語がつくかつかんとかで選んでた。(誰かに相談はされました?)ううん。なんか、学校に見るやつあるでしょ。大学の何か。それで、適当に見て。

<29ef・24歳・短大卒・女性>

最初僕ね、高1、高2の途中までは、大学行く気満々やったんですね。で、結構家計的にちょっと苦しかったんで、補助金借りてまで大学行くもんじゃないから、そこまでのことないしって思って、働こうって思ったんですよ。高2の終わりぐらいまでにはもう働こうって決めて、先生にそのこと伝えたんですね。今までは何ていうんですか、進学ばっかと思ってたんで、「それやったらもったいないから、1回公務員受けてみいや」って言われたんです。それで「公務員って何なん」みたいな話を先生として、すごい安定してるとか。そのとき、安定という言葉に弱かったんで、ちょっと乗っちゃったんですね。大学ね、ぶっちゃけ、何ていうんですか、獣医とかそういう関係になりたかったんですけど、学歴的に全然足りないんですけど、でもなりたいのはなりたかったですね。で、それはちょっと家計が苦しいっていうので、就職しよう。高校卒業するときは、公務員、1年間だけ目指してたんですよ。それでその途中で、自分が服好きってことに気づいて、こういう仕事やってみたいと思ひまして、変わったんですけど、途中から。

<23cm・21歳・高卒・男性>

自分は、どっちかに進学派か就職派って行くとしたら、その就職派には行くって、それは前から。だいぶ前から。高校3年の夏休みぐらいに、そのもしかしたら(専門学校の)体験入学いったんかな。でも、その体験入学行って、やっぱり違うって思った時かな。でも、ほんまに結構迷ってて、9月ぐらいにはもう、1社受けたような気が。高校のときは結局2社受けました。1社目、その9月ぐらいに受けたところは落ちて、次12月ぐらいに受けて。1社目は面接と筆記試験。(求人票とか見る時の条件は?)土日休みとか。場所とかも。あんま遠い、遠すぎるとはちょっと。仕事の内容も、そんな時はなんか、ひたすら事務ばっかり探してたような。…結局、学校紹介で、仕事見つけて、就職したんですけど、それはもうやめました。仕事は営業事務でした。

<39cf・19歳・高卒・女性>

2年生の時にバイトして、続けて辞めて、また、えっと学校の求人票を進路指導室に行き、調べて、うん、受けて落ちたから、また再挑戦で自分で探す、自分らで探すっていう、そんな感じです。進学することは、あんまり考えてなかった。専門学校行きたいなと思って、体験入学行ったぐらい。お花が好きだから園芸の専門学校。なんか友達が行って、じゃ私も行こっかなって。フラワーデザイナー、デザインがすごい楽しそう。遠かったんでやめたんです。めっちゃ遠かったんで。お金的にはまあ普通でした。お母さんは行ったらって行ってたけど、場所が実際行ってみて、なんか分かりにくい場所だったので、どうかなーと思って。学校を通した就職の斡旋っていうのは、どういうスケジュールで動いているのかわからないです。

<38cf・18歳・高卒・女性>

卒業してから、だいぶ後に採用が決まった。面接行った時から「働けるの？」って言われて、いきなり採用みたいな感じ。なんかもう働ける？みたいな、「よろしいですか」って、たんたんたんって、うまくいきました。仕事の内容は印刷の点検みたいな。正社員でなく、研修期間があつて様子を見て、できそうかできへんか、を向こうの人が決めるみたいな。続けたかったけど、体が続かなくなつて、どうしても辞めなくてはならなくなつて4日間しかいなかったです。たった4日間。

<38cf・18歳・高卒・女性>

(高校3年のとき)同じクラスの子が看護学校受かったんですよ、推薦枠で受けて。普通より早い時期に看護学校受かって。それで、お尻に火ついて、いろいろ先生に聞きに行ったりとか、いろいろやりだし。秋ぐらい。それでもやりだしたの、めちゃめちゃ遅かったんです。それまでは遊んでたけど、多少は勉強するようになりましたよ。でもまだお尻に火はついてなかった。ほんで〇〇看護学校を受験しました。1月の終わりぐらい。高看はまず無理やと言われてたんですけど、私は。いきなりそんな無理って言われて、まあだめもとでいいやん、受けるだけ受けてくるわ、それで受かったらもうけもんやで、ていうて受けにいったんです。んで、落ちました。(笑)準看、受ける受けへんて言うて、受けるわていうたのに、準看が卒業式のあとやったんですよね、テストが。卒業した瞬間、看護婦ていうのが、あの、今お金がほしいという現実が変わつて。バイトが朝は入ってなかったんですけど、卒業して入れるようになったというんで、毎日働き出して。お金がその時点で初めて自分の手元に10万を越えるお金が入るわけじゃないですか。もうそれで納得してしまったんですよね。

<22cf・19歳・高卒・女性>

高校卒業のとき。やっぱり高校在学中に、最初は大学に行こうだとかいう思いも多少あったんですけども、自分、成績よくなかったし、大学、専門学校、就職って、その3つの進路があるっていうことがわかって、正直、自分、勉強するのが好きじゃなかったから、だから、大学っていっても、どうせ成績よくないし、専門学校っていっても、やっぱり勉強するために行くところだろうし、もう就職しかないと思った。高校卒業する時点で、就職という二文字があったんですけども、やっぱりその時点で自分が何やっていいかわからないっていうことがあって、そもそもそのときに、自分は親にすぎたというか、相談みたいな、ちょっと言ったんですよ。ちょっと就職、仕事といっても、自分は何やっていいかわからないんだけど、どうしたらいいかなみたいな相談を親に持ちかけて、そうしたら、じゃあ、知り合いの土木の会社で仕事あるから、ちょっと行ってみてやってみるかという話になって、最初についたのがこれだったわけです。

<42cm・24歳・高卒・男性>

大学が決まったのが高3の夏の終わりですね。これまた専門に行こうって学校に出したんですけど、短大のほうに急に決めたんですけど、めちゃめちゃびっくりされて大変だったんですけど。自己推薦書、あれがありまして、あれにバーッと書いて書類審査で通りました。一応華道部と園芸科ということを知っていて、さらにこのときの学芸会じゃなくて、農業学校だと学校単位で農業クラブってあるんですよ、全国共通の。その副会長

をやってみて、それが2年ほど響いて。短大自体には興味なかったんです。お花の学校ということで入って。

<9dm・22歳・短大中退・男性>

高校のときにレーシングドライバーになりたくて、でも運転するだけじゃなくて、メカニカルなこともちょっと知りたいからということで、まず、整備士の専門学校に入って、高校を卒業した後ね。そこら辺でいろいろやってみて、車を運転するのもうまくなきゃいけないし、まず一番大事なのはお金がないとだめだということで、うち、サラリーマンだからお金ないから、でもどうしてもそういう車関係の仕事につきたいからということで、じゃ、大学のほうに行って車をつくる側に回ろうと思って、それで大学を受けたんだけど、機械科を落っこっちゃって、短大の電気関係のほうを。(大学に編入したのはどうして?) やっぱり大学に行きたかったというのもあったし、大学のほうは科がちょっと変わっちゃうんでね。入りやすい科に。まだ働きたくないというのもあったし。

<13dm・28歳・大学中退・男性>

関西地区、首都圏では学校的価値を受け入れなかったことが、学校を通した「就職」の方向付けにも「のれない」状況を作り出していたと思われる。なかには「正規雇用」で就職できたものも見られるが、短期間で離職している。それなりに「納得して」社会に適応する姿勢がみられるとは言い難い。これとは対照的に、東北地区では少ないながらも学校に届く(場合によっては職安に行ってみつけた) 求人の中からなんとかして「正規雇用としての就職先を見つけようとする」姿勢が顕著である。後者では、本人の努力不足というよりは明らかに環境的要因が大きいといえる。

就職活動は、夏休みの間に求人票みて、学校推薦をもらって、就職試験に行って…。運送会社、そこだけ受けただけ。試験受けたのは夏休みが終わって9月か10月くらいですね。他にも受けてきている人がいるからと言うそういう話はなかったですね。ここでは俺一人しかいなかったから。(友達同士で情報交換とかしなかったの?) は、いろいろありましたね。あそこはいいとか悪いとか、そんなにもなかったですね。(同じような運送関係行きたい人は?) いなかったです。サービスとかが多かったですね。(運送会社って大変そうだって、その時思わなかった?) 求人票かいてあるのと、ちょっとは違ってくるとは、思っていましたけど。実際やってみるとすごく違ってたんで、ちょっとどころじゃなかったんで。ある程度覚悟はしてたんですけど。

<43cm・20歳・高卒・男性>

3年生になってから「どうするの」って聞かれて、で進学するか就職するか考えた。自分の中ではもう就職してしまいたかったというのが、ありましたね。もう学校これ以上嫌だという、まあそういう部分もありましたけど、やっぱこれ以上、私立に入ったんで、親になんかあんまり経済的負担をかけたくなかったのもあるし。お兄ちゃんにもその時にもう子供いましたから、私が入ってるころには…やっぱ経済的にちょっと余裕がなかったっていうか、親としても就職の方を希望してたというのもあって。親にもはっきり「進学だとお金がかかるから」って、「なるべくなら進学よりも就職の方して欲しい」って言われたんで、自分の中にも就職したいっていう気持ちがあったんで、それには全然反対とか反抗とかしなかったんで。(専門学校に行かなくても美容師になれるっていうのはどうしてわかったの?) 先生とかから話を聞いたりして。高校卒業して見習いとして美容室に入って2~3年かけて取るって人もいるんだって聞いて。でも、もしなんか「途中で挫折してしまったりして免許とれなかったら、その間の期間はフリーターとしてしか見られないから」って言われて「考える」って言われて考えて。それは3年生に入ってわりと早いうちかな。5月とか6月。就職するとしたら、とりあえずは美容師という

のは考えなかったですね。ほかの何が合ってるのか…、いろいろ考えたんですけど、やっぱりよく分からなくて。求人票とかみて「ここ受りたいですけど」っていうと、何かこっちの方がいいっていうか、ここはどういうところとか、条件とか色々聞かされて、多分、女は採らないとこだとか。そういうのがあって。結局はもう全然受けないで。1つも受けてないです。はい。それで2月か3月あたりに先生からインターシップの話聞かされて「じゃ受けてみようか」と思い受けて、去年の4月から1年間いたんですけど。〇〇の商工会議所。県の企画で県内のいろんな所から採ってくれないか募集をかけたみたいで。高校卒業するまでに1つも受けなかったのは、いろいろ条件をみて結局だめだろうなって。(先生はどんなところ薦めてくれたの?) あったです。はい。お菓子の製造とか薬屋さんとか。薬屋さんは製造ではなく販売ですね。条件というか、それは△△市内だったんですよ、その薬屋さんというのが。通勤のことを考えるとちょっと無理かなって思っ

<26cf・20歳・高卒・女性>

始めは専門学校に行きたかったんですけど、3年生になってから就職希望になった。卒業したら就職したいと思ってました。就職活動もしました。応募したり、面接受けたりしました。(面接受けたのは)事務系。2~3社。最初9月に受けて、あとは11月と3月。事務系の求人は少なかったです。サービスでも良かったんですけど、情報処理で検定とかも受けていたのでそのほうがいいかなと。検定は情報処理技能検定・ワープロ検定・簿記とか。(求人を選んだのは?) 先生のほうから。進路指導部の先生から担任の先生。妹が今年この〇〇高校に入学してお金かかるということもあって、お金かかるから就職にしようと考えた。親も「やっぱりお金かかるからもしできれば就職してほしい」って。「残念」とか思いましたけど、やっぱり親の事も考えると、自分で働いて少しずつ入れて、毎月入れたほうがいいかなって。(家に入れてるのは?) 2万円くらい。学校が設定してくれた就職説明会とかには出ました。なんか求人が少ないなって。自分で探すというよりは、進路指導の方が聞いてくれて、みんなに紹介するという手はずだったんで自分の希望はあんまり出しませんでした。先生に言われて「じゃあ」って受けに行く感じだったんですけど、自分で行きい所とかもあるんで、自分で決めたかった。(3月卒業までに就職決まらなくて卒業して、気持ちを入れ替えてアルバイトし始めたんだよね?) これはやっぱり両親を助けたいと。高校卒業して、最初は就職探してたんですけど。20歳からってわかってたんで。

<25cf・18歳・高卒・女性>

高校卒業したら就職するつもりで〇〇高校情報科に入りました。高校1年の時から漠然とだけど、途中で進学も考えたんだけど。これってやりたいことははっきり決まらなくて、中途半端で行ってももう途中で止めちゃいそうだから。夏から秋にかけて、就職が少ないっていうのがわかって、先生から求人票が「今年が一番少ない」って言われて「進学の事も考えとけ」って言われて。全体的にも言われたけど、強く言われたのは担任の先生。9月の試験受けようと思って夏季見学とかも行っただんですけど、仕事ははっきり男性っていうわけではないんですけど、仕事きたらそっちのほうみたいな内容が。履歴書とかも書いてたんですけど途中で止めて。それは印刷会社。印刷オペレーター。でも先生の話だとパソコンでできるっていうことだったんだけど、印刷をするほうで。会社のほうから「事務系だと思ってると思うかもしれないので見学に来ませんか」ということで見学に行ったらちょっと違った。会社見学は9月。結局やめて。その後は(求人が)少ないというのもあるって、みんなで探して、殆どみんな自分の会社決まってるから、他は事務系が少ないっていうのもあるって、なかった。…9月からあと先生からは何個か紹介されたんですけど、事務じゃないっていうのもあるって。そんなに強く「事務じゃなきゃダメ」っていうわけではなかったんだけど、なんか「違う」っていうか「無理かなー」みたいな。ホテルとクリーニングとなんか作るクラスマッチ?なんかで使うTシャツをやっている会社。やっぱり9月に受けた会社が思ったところと違うということなんでなんか、こう、やる気がなくなったというか。9月に止めようとして取り下げて、専門学校に行こうと思った時もあったんですけど、強く行きたいっていうわけではなく「ゆっく

り探せばいいかなー」って。

先生は9月のがダメですぐ探してくれました。卒業する時は、卒業してからのことにあんまり焦りはなくて、自分のやりたいこと見つけようかなって、他に勉強したいの見付けて、「こういう資格がとりたいな」とか思って、卒業する時は、別にそんなに焦っていませんでした。(親は)就職で探して、あまり見つからなかったから、「進学も考えたら」ということで「自分のやりたいことやりなさい」って。

<24cf・19歳・高卒・女性>

(高校時代に何となく就職かなと思っていて何か就きたい仕事はありましたか?) なかったです。進学志望でもなかったです。もう、勉強したいとは思わなかったです。遊んでいたいと思いました。親からは「就職先をちゃんと探してもらえ」と言われました。高校在学中に就職活動は全然しなかったです。最初は何もする気がなかったの。何もなくて卒業を迎えた、何も。4月も何もする気がなくて。高校を卒業して5月に就職しました。仕事は清涼飲料水を自動販売機に入れる配達をしました。うちの親父からの紹介です。これは正社員で、土・日が休みで、8時から5時まで、たまに残業がありました。給料は18万円くらいです。引かれて15万円くらいです。この仕事は12月くらいまでです。辞めた理由は、最初はベテランの人の助手席に乗っていたんですが「一人でトラックの運転をしろ」と言われ、やってみただけどまだ免許を取ったばかりだったので危ないと思って。4トントラックです。「辞める」と言った時に親父は「事故られると危ないから、しょうがないか」と…。

<14cm・19歳・高卒・男性>

なんか、学校に求人が来るじゃないですか。それで、ケーキ屋さんとかあったんですけど、倍率がすごく高くて、推薦とかもとれなくて、で、結局受けたところがホテル関係だったんです、全部。でもやっぱ、ホテル関係より飲食関係をやりたくて。だから結局、バイトもこうやって飲食関係を見つけたんです。ホテルの求人は接客ですね。私、初対面の人と話すことっていうのは苦手な方なんです。だから心配なところがあったんですけど、でもやっぱり挑戦してみるのもいいかなと思ったし、いろんな人と接してみたいとも思ったんで、ホテルを受けました。ホテルは〇〇市と△△市。住み込みですね。自分でも住み込みでもいいと思ってました。(親は住み込みについてはどうですか?) やっぱり朝とか早い仕事だったり、遅くじゃないですか、時間も。だから家から通うよりしっかり住み込みでやったほうがいいかなって。でも、結果的にはホテルは決まらなかったんです。そのあとは、自分で、求人とか見て探そうかと思ったんですけど、なんか結局アルバイトになっちゃって。でもやっぱりできるだけ早めに正社員になりたいと思ってますね。

<27cf・18歳・高卒・女性>

販売とかしたかったんですよ。べつにコンビニじゃなくても、デパートだったりとかスーパーだったりとか。販売の求人は、ちょこっとあったんじゃないですかね、ちょっとよくわかんないんですけど。高校にいる時点でコンビニのほうで働かないかという話が出てたんで、あんまりよくわからないです。就職活動はしていません。会社受けに行っただけです。でも、進学とかを考えるよりも卒業したら働こうと思っていた。

<19cf・18歳・高卒・女性>

[小括]

データから見る限り、東北地方の者を除いて、積極的に就職活動をしたとは言い難い。就職活動に関しては全く何もしなかったか、しても途中で断念したり活動を中止したりして、その時点でしていたアルバイトを当面継続しようと思ったケースが多い。進学した者も、看護師などの職業を念頭に置いた進学のケースも見られるものの、多くの場合、それほど明確

な目的を持って進学しているとは言い難い。都市部では「高校が進学校で大学進学以外の進路が考えにくかったから」「大学進学が当たり前だと思っていたから」といういわば「進学の流れ」によって進学を決めたケースも多い。逆に都市部でも、地方でも家庭の経済的理由で進学を諦めたケースも多い。高卒労働市場が大きければ求人も相当にあり、進学断念→就職に変更という進路選択も可能だったのだろうが、現在ではそれはできない。最初から就職を希望していてさえも、十分な求人がないのである。従って、よほど強い意志を持って就職活動をした者以外は、当然のようにフリーターなど非正規雇用労働に組み込まれていくことになるのである。就職を希望していた者も、進学を希望していた者も十分な進路探索活動をしていない。そのことが現在の仕事に向かう姿勢にも反映されており、積極的に就職活動をしているとはいえない。

2.10 働くことに関する意識

学校を通した社会への移行に関する価値を内在化していないと思われる彼ら・彼女らは「働くこと」に関してどんなふう考えているのだろうか。また、学校生活やアルバイトを通して何を考え、何を見たのだろうか。この節では、彼ら・彼女らの「働くことについての考え」を見てみることにする。

今はバンドばかりなんですよ。だから仕事も今探す気ありませんし。もう今、曲が何曲かできて、もうそろそろかな。ちょっと遅いんですけどね、スタート。今、それが一番楽しいですね。今、バイトやめて正社員なろうかなとは全然思わないです。バイトだけで全然大丈夫なんで。

<37cm・19歳・高卒・男性>

仕事は中学の先生が、「あんた、ほな、どうするのん」みたいな感じで、先生が用意してくれた就職の資料をもとに卒業してガソリンスタンドに入社したんです。卒業式が済んだ後に面接を受けて、通い始めたのは4月の後半ぐらいかもしれないですね。正社員で入ったんですね。6ヵ月ぐらい続いたと思います。給料は16万ぐらいですね。朝の8時から5時ぐらいまでやったと思います。休みは日曜日やったかな。きつかったですね。朝早く起きるということが。でも、半年、休まず、遅刻もなしに続けました。給料は意外と何に使ったんかよく覚えてないですけど、ものすごうれしかったですね。やっぱり社長というか、店舗の上の一番偉いさんの人ともめて辞めたんですけど、やっぱり言い方が結構かちんときて、人間関係が一番難しかったですね。上の人との。そのときの中学卒業しての僕ですから、まだとげとげしい部分もあって、ささいなことでもまともに受けて反発してしまうという時期の自分やったんで、今、言われてもそんなに大したことないことなんやろうけど、あのとき感じたのは、何でそんなに偉そうやねんみたいな感じでしたね。ほかの職場の人とはうまくやりました。やっぱり年が近いというのもありましたし。働きたいというか、おもしろかったと思います。多分通っていて仕事をやって、いろいろ講習とかを受けて、あっ、おもしろいなって多分感じたと思うんです。作業とかしていて、こんなんでお金をもらえるのんという、これぐらいでお金をもらえるのんみたいな。どういうことをやって、えっ、こんなんをやってお金をもらえるんやみたいな。16万円は家には入れてないですね。多分銀行にはずっと貯めていたと思うんですけど。気がついたらなくなりました。(笑)

一番初めは覚えているんですよ。そのインパクトがあるからね、ガソリンスタンドというのは覚えているんですけど、その後、もうぎょうさん面接やら行って、受かったのに

行ってないとかありますから、そういうのを全部含めたらもういっぱいあるんですよ。
<1am・24歳・中卒・男性>

就職という、ずっとやるというイメージがあるから、それはそんなに。全然わからんまますぐにしているものかと。これがやりたいということがなかったら…。結構あったように思います。いっぱい、そういう感じ。

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

今は正職になったほうがちょっと高いけど、このまま続けとったら時給が上がったらバイトのほうが。時間的に考えたら、金は少ないけどバイトのほうが金もらえてるから。今、正社員になっても半日働いて12、3万円くらい。正社員になったら時間が長くなる。正社員になったらというか、バイトもやけど、それはそいつ次第やから。そいつがどんだけできるかやから。店長の話では、今、もし社員になって4、5年勤めたら、そのころには20何万円はいってるって言うけど、それを考えたらそれでいいかもしらんけど、4、5年も続けるかどうかもわからんから、確信できてからのほうがええかなって。やっとして、ちょっとの間続けて続けられそうやったらやってみようかなと。バイトはどこまででも制限あるから。時給は幾ら上がっても1,000円までやから。時間も、バイトやとそんな働かれへんから。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

高校を卒業しても、別にそんな急いで就職することもないかなという感じですね。結構求人とかが少ない時期やったんで、そんな焦って就職しても、自分のやりたくない仕事とかやったら、すぐ辞めちゃうと思うので、それやったら気長に探したほうがいいかなと。

<28cf・19歳・高卒・女性>

バイトをやって明るくはなった。自分の性格。いろんな人と会って話しして。その前はすごい人見知りするし、どっちかというにあんま喋らない子やったから。変わり出したんは、スーパーのレジなんかでやり出してからです。

<29ef・24歳・短大卒・女性>

仕事をやってみて（バイトとして）初めのほうは、失敗ばかりしていたのであまり触れたくないんですけども。仕事になれてきて、それなりにそういうお客さんと接する楽しさというのもありましたけれども、しょせんアルバイトはアルバイトやなという思いがするときは、忙しいときにひしひしと感じましたけれどもね。アルバイトは、ある程度は自分の判断でできますけれども、自分の判断でお客さんをこういうふうに入れてとか、そういうのとか、この料理から持っていくというところまで見えますけれども、やっぱり店長が与える指示とは違うんですよ。店長は店全体を見てそういうふうに関わりますし、外に出ているほうのウエイトレスですと、受け持ち担当が大体決まっていたんです。忙しくなると変動はするんですけども。その大幅な切りかえのところとかは、やっぱりずっとこの仕事を見ている人やねんというようなところがありましたから、そういう判断をしていますと。

<20cf・18歳・高卒・女性>

できるだけ早いうちに正社員として就職したいですね。早ければ早いほどいいんですけど。アルバイトの仕事と正社員、確実に責任感は違います。服飾関係で、バイトと社員って、やってる仕事はほとんど同じなんです。それは前のところ行っててもわかりますし、何が違うかって言われたら、責任感全く違いますから。バイトのミスは社員のミスです。ずっと気楽な立場におけるのも嫌なんで。そんな責任感とか負わされてみたいじゃないですか。自分のミスは自分のミスじゃないですか。他人に押しつけるとかそんなんはしたくないんで。ステップアップもしていきたいんで。バイトやったらバイトどまりじゃないですか。でも正社員やったら、店長になったりバイヤーになったりって、ス

テップアップどんどんしていけるんで。

<23cm・21歳・高卒・男性>

具体的にこんな仕事がいいなとかっていうのは、一応考えてました。販売は、あんまり好きじゃないんでやめとこーって。他にはあんまりわからない、思いつかないです。あまり喋らなくて、なんかこつこつとしていく仕事にしようと思って。なんか事務とか絶対難しいしできへんから。率先力がない。今のところ自分に合ってるバイト先。(見通しは?) わからないです。(就職情報誌は?) 買わないです。雑誌とか。私は家から近い方が、いいんです。

<38cf・18歳・高卒・女性>

(自分に足りないかなと思うことは?) 足りないもの、根性。(それを身につけたいとか、私は変わりたいとかいうのは?) わからへん。(面接は長い間いてないの?) 最近行っていない。電話して行っていないことが多い。面倒くさくなって。行くこと自体がめんどくさい。チラシ見て、月2回くらい電話してる。(普段ひまじゃない?) 暇じゃない。(何している?) 遊んでる。友達も働いてない。暇は嫌い。

<6bf・20歳・定時制高中退・女性>

今年はホームヘルパー2級を取ったんです。資格とか。12万ぐらいかかった。3ヵ月ぐらいで取った。ちょっと秤にかけたんですね。自分の適性とか、自分と合うのか。まあ、合わないなと思って。今の塾の仕事もそうなんですけど、人と関わる事は好きなんですよ。ただ、濃過ぎるとだめなんですよ。要するに眠れなくなったりとか、僕自身が。子供とか、例えば老人ホームに勤めたとして、多分考えちゃうんですね。僕は気に入られているとかね、やっぱり意識しちゃって。そこが、仕事でも結構引きずっちゃうほうなんですよ。だから、そういう人とかもそうだし、例えば何か言われるとしゅんとしたりとか、引きずっちゃうタイプなんで、それで結構寝つきが悪かったり、もともとそうなんですよ。老人ホームとかに行ったりすると、いやあ、これはまずいなど。精神的に逆にこっちが真面目に考え過ぎちゃって、仕事として割り切れない、そういうようなことを自分の中で感じちゃってちょっと苦しいなとか。

<7cm・24歳・中退後定時制高卒・男性>

以前言われたのは、「おまえは今、あれがやりたい、これがやりたいって言っている場合じゃないだろう」とかって言われたんですけども、僕が今、感じているというか、思っているのは、確実にこれはやりたくないっていう仕事は、正直、僕はあるんですよ。それは当然省きたいし、やりたくはないし、勤めたいとは思わないし。でも、自分が何やろうかなって、今、思い悩んでいるというか、考えているとか、そんな感じでは正直ありますね。向いていないというか、やってみようと思わないものはやっぱりあるんです、どうしても。それは絶対やりたくはないし、そこで働こうとも思っていないし。

<42cm・24歳・高卒・男性>

(いろいろなアルバイトを短期で替わっているのは?) お金っていうよりも経験が欲しいので。

<9dm・22歳・短大中退・男性>

(運送会社に正社員就職して一番辛かったのは) やっぱ朝5時とか6時に起きて、夜遅く、またつぎの日も早く起きてということが続くと身体がだんだん持たなくなってくるんです。でも「やっぱりみんなやっていることだから」って我慢してたんですけど、やっぱり辛いなって。…同年代の人は1人いました。18歳の人。でもその人は入って2~3ヵ月ぐらいで辞めちゃって。…8時半から5時半だったはずなのに早出・早出・早出と…。荷物が多いときは少しやっぱり早く来たりしてましたね。店ごとに何時までに来てくれといわれると、こういう周りでやると間に合わないから、やっぱ早く出ないといけないとか。だいたい他の人の意見もやはり聞いて、「早くでたほうがいいんじゃない

か」って、自分で決めて。やっぱりお金が良かったんですね。普通 18 歳でもらえる人の倍以上貰ってたんじゃないかと思います。28 万くらい貰ってました。辞めたのは寝る時間も無くなっちゃったというところが。辞めたのは今年の 1 月です。一応、やっぱり仕事に就かなくちゃとは思ってるんですけど、やっぱり前回のことがあったんで慎重に選んでいると、したい仕事が見つからないんです。今はもう「お金じゃない」みたいな感じ。働いたお金は、半分くらいうちに入れてました。一応自分でも貯金してたし、親にやった分で余ったら「貯金しといて」とか、そういうことしてました。今もまだ残高はある。やりたくないっていうのはもう運送会社、もうやりたくない。特にやってみたくてやってみてもいいなというのは今のところないですね。接客業とかいうのはあんまりしたくないんです。もの作ったりとか、どっちかといったらそうですね。やっぱり 1 年はたたないうちに、やりたいというのがありますね。あんまり長くなると、今度は本当に働きたくなくなったりするとあれなんで。本当に職種選ばなければ一応いっぱいあるんで、企業の方からも。やってみようと思えばあるような気はするんですけど、実際面接とかいったらどうなのかなと言うようなこと考えると、「やっぱり難しいのかな」って、選んでいるのが逆に「贅沢なのかな」とも思います。

<43cm・20 歳・高卒・男性>

(インターンシップの収入は) 一応 8 万～9 万位だったんですが家の方には 3 万円ずつ入れてました。あと残りは自分でガソリン代とか携帯の方とかで殆どは貯金してたようなもんで。あんまり使わないほうですね。目的があって貯めているわけでもないんですけど、一応将来のためっていうか。

(もう、美容師とか看護師とか資格のある仕事に対する憧れなんかはないの?) ないですね。(今、これをなんとかしたいとか、変わりたいとかの気持ちはないの?) そんなにはないですね。今すぐどうにかしなきゃいけないと、いう状況でもないです。(あなたにとって仕事とは何ですか?) 生活していくために、必要なお金が入ってくる為の手段っていうか、なのかな。(仕事で自己実現したいって言う人もいるけど?) そういうことを、特に思ったりもしないですし、会社のためにしなきゃいけないという気持ちもないですし、どっちかという自分のためですかね。食べていく手段です。

<26cf・20 歳・高卒・女性>

今のホテルの宴会サービスって仕事は楽しい。お客様から「有難うございました」と言われたり、あと先輩の人達から「結構、仕事覚えてきたね」とか。結構、若い人が多い。

(アルバイトは) 専門学校の人が多いけど、一緒に遊びに行ったり飲みに行ったりはしなないです。週 6 回のシフト制は、早めに予定書いといてそれで、課長とかが入れてくれる。休みは月曜とか、火曜。土、日は混みますね。日曜は結婚式とかが入ってるんで。

(具体的な仕事はどんなことするの?) 宴会の料理出したりとか、下げたりとか、飲み物の補充とか。(ホテルで働いてるってかっこいい感じ?) はい。(仕事ってどういうものかってイメージがある?) 仕事は働いてお金をもらう。(仕事でこう自己実現したいみたいなこと言う人もいるけど、そういう意見に対して何か思うことある?) ないです。賛成します。

<25cf・18 歳・高卒・女性>

(仕事をするってどんなイメージがあるの?) お金を貰えて、決まりがあるというか、キッチンとしなければいけない。 バイトか正社員かにはこだわらない。仕事を探す時にこだわるのは時間帯。あんまり離れないで、家から。20 歳くらいまでには正社員になりたい。なるべくなら事務職がいいけど、あんまりこだわらない。20 歳までの間に何をやってきたかが問題で、自分のやりたいこと見つけてなんか資格とりたいな。雑誌なんか見ていると、企画なんかであるみたいな「20 歳で考えること」みたいなことがあるからそんなの読んでたり、「こういう仕事してます」みたいなのを読んで「自分に何があうのかな」と思ったりしている。医療事務みたいなのを…。パソコンが使えるのと、医療だったら今から、高齢化だから利用する人も増えるかな。医療事務というのは専門学校もあるし、友達のお姉ちゃんが医療事務の資格を通信でとったって聞いて「通信でやろうか

な」って。

<24cf・19歳・高卒・女性>

これまでに憧れた職業は特にはないです。将来にどういう職業に就こうという夢もないです。仕事はマメに探してはいるのですが、なかなか見つからなくて。職安にはあるにはあるのですが、したいものがなくて。仕事は特には決まっています。(仕事を選ぶポイントはありますか?) 給料と土日が休みがいいです。内容にこだわりは…ちょっとだけありますが、サービス業だけはしたくないです。できないと思う。接客というサービス業は苦手という感じです。サービス業の求人は結構ありましたね。それ以外の求人はあまりない。(仕事をするとするのはどういうイメージでしたか?) お金をもらえていいかなと。(「今、何をしています?」と聞かれたら、「フリーター」と言いますか?)「何もしていない」と。コンビニでアルバイトとかしたくはないです。接客がイヤなんです。

(それで今はお小遣いに困ったりしないですか?) しますね。友達にたまに仕事を紹介してもらってます。(建築現場の) 鳶です。(鳶の仕事そのものというより) 下で材料を運ぶ仕事です。(今の生活をずっと続けていきたい?それとももう止めたい?) 止めたいですね。ずっと家にいるより、仕事をしていた方が面白いかなと思います。

<14cm・19歳・高卒・男性>

(アルバイトをしてよかったこと・イヤだったことは?) やっぱ職場って人間関係すごい大事じゃないですか。入ったときからすごいみんなやさしくしてくれて、で、やっぱり自分の仕事をすごいまかされるじゃないですか。で、自分ができないと、みんなに迷惑をかけてしまうってのがすごい分かったんですよ。で、すごい責任感もでてきて、そういう面ですごいよかったなと思いますね。あんまり、その、お店の店長とかの方が、自分やほかの人たちからあんまり好かれてなくて。どっちかという、嫌われてる。ちょっと態度とかがえらそう、言い方とかがきつかったり。バイトのときも家に3万出してたんですよ。だから正社員で月15万とか稼いでたら、もうちょっと多く出すと思うんですけど。

<27cf・18歳・高卒・女性>

今は、家に3万入れてます。(今のコンビニを辞めることになったのは?) 人間関係。もともとそのお店のオーナーがいるんですけど、その人がすごい人なんです。有名な会社で偉かった人が、その会社からコンビニが独立。そのコンビニ、2店舗もってるんですけど、経営することになって。すごいやっぱり頑張ってきた人なんで、私たちにもすごい求めて、仕事で、すごい求めてくるんですけど、やっぱりそれに私は頑張ったんですけど、それに応えられなかったっていう形なんです。仕事、その人自体は、別に失敗することは、誰にでもあるからいいんですけど、そのあとの考え方だったりして、やっぱりそのあとが問題だっているんですよ。そのほかにもやっぱり、24時間営業だし、自分の任されている仕事がありますし、そういうところにもっと責任をもってほしかったっていうことなので。でもそれに応えられなかったみたいで、シフト、やっぱりまだバイトっていう形で、時給なんですけど、期待はしてたけど、応えられないみたいだからってことで、うん、減らされることになったんですよ、時間を、バイト時間を。だと、給料のほうも半分くらいになっちゃうんで、それではやっぱり家の方もきついし。辞めてもいいって言われたんですけど。やっぱり収入の方もきついただろうから、もしうちで収入が足りないんだったら、ほかのところに行ってくれてもかまわないからってことで。それ言われたとき、なんかちょっと、えーって感じになりましたね。超びっくりしました。

<19cf・18歳・高卒・女性>

[小括]

「働くのがイヤ」という感じではないが、かといって「働いていないと落ち着かない」というほど仕事に積極的になってもいない。イヤじゃないことを「それなりに」、あまり枠をは

められずにやれるなら働こうか…というところだろうか。逆に言えば、働く場がそれなりにあれば働けるのが今回の調査対象者である。意識としては「生活するためのお金を稼ぐために労働する」というのがほとんどである。若者に対して「自分を知り」、「やりたいことをさがせ」ということは結構だが、それを追求すればするほど就職は困難になる。仕事は個人にあわせて存在するわけではないからである。それよりは働く世界をリアルに体験することで「自分にもできることはある」ということに気づかせ、そのできることの中から仕事にすることを選ぶ、あるいは仕事につなげることのほうが大切なのではないだろうか。

2.11 職業観・フリーター観

前節では、働くことについての意識をみたが、現在正規雇用労働に従事していない彼ら・彼女らは雇用形態をどのようにとらえているのだろうか。また、仕事や働くことに関して何らかのこだわりはあるのだろうか。さらに、フリーターであることやフリーターになることをどう考えているのだろうか。この節では、それらに注目して見ていくことにする。

会社ゆうか、特に希望というかこだわり、そんなん全然ないですね。「働く事が、きつから嫌や」とかそんなことは全然ないですね。だから現場仕事でも、全然いいんです。

<37cm・19歳・高卒・男性>

将来、どんな仕事をしようかな、こんなふうになりたくないとか、何かそういうようなものは全然なかったです。

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

(フリーターをやっている男性については)別にいいん違うみたいな感じですね。何となく、仕方なく、フリーターになったという人がいたら、真面目に自分のやりたいことを考えて、そっちに進んだほうがいいんちゃうとかはやっぱり思いますけど。自分のやりたいことがあってフリーターしている人は、いいん違うかなと。

<28cf・19歳・高卒・女性>

正社員は、保証とか。お金の面に対して、決まってる金額をちゃんと貰えるし、ボーナスも貰えるし、そういうところはいいけど、そんなにやりたいことじゃないと、仕事しててもいやいや、やりがいがないさそう。自由、時間もあんまりなさそうな気がする。自分の時間。残業もあるし。アルバイトだったら自分の時間でやりたいこととかできるし。お金は少ないけど。自分のやりたいことが確実にできるし。

<29ef・24歳・短大卒・女性>

(就職の選考に落ちて)自分の将来のことも考えなあかんしなと。事故か病気か何かで早く死んじゃうかもしれへんけれども、長生きもするかもしれんねんからって。そうやって自分でうまいこと人生設計を立てて生活はしていけるんかなと思ったので、やっぱりある程度の型があるところを求めて、ちょっと安定志向で考えて、別に自分の人生やねんから、それでもいいんちゃうとか、別にアウトローというか、自分で会社を立てる人とか、そういうのをつくる人ばかりが偉いわけじゃちゃうねんという感じだったから。自分で考えて…。

<20cf・18歳・高卒・女性>

公務員試験2回落ちてるじゃないですか。もう、これは自分の天職じゃないなあと思っ

てしまったんですよ。

<23cm・21歳・高卒・男性>

別にもとから正社員にこだわってたわけじゃないし、正社員になると余計に受かりにくそうやし。ということで、あんまり。まずはパート・アルバイトでっていう感じやな。

(正社員で働きたいなという希望みたいなのがあります?) あんまりないです、全然かも。(結婚相手の男性がフリーターの人やったらどう?) それなりにフリーターでもそれなりに稼ぎがあったら、全然問題なし。

<39cf・19歳・高卒・女性>

正社員、パートってこだわらないで、とにかく自分がしたい仕事があったら、入れたらラッキーぐらいしか思ってない。はじめから正社員っていったら(仕事が)少なくなるから、あんましそういうのは考えないでパートでもバイトでもいいと。人と接するのは苦手なんで、自分が向いてる仕事があればいいな。特にこれっていうのはないです。正社員っていうのもあんまり考えてないです。

<38cf・18歳・高卒・女性>

働くんやったら、ちゃんと社員になりなさい、ていうか、保険がちゃんとついてるところに行きなさいっていうのは、ずーと、ずーと今までずーとずっと言われてきてたんですけど。社員になって、10万そこらの給料になるんやったら、フリーターで入ってて20万以上もらって保険自分で払っていくほうが、私はいいって言い切ったんです。

<22cf・19歳・高卒・女性>

正職とアルバイトの違いは…お金かな。正職やったら一定してるし。休みもいろいろいっぱいあって。パートやったら週2日ともう1日で、時間給っていうところかな。その違いは。正職に出来ればなりたいたいかな。仕事ももっとやること増えるし。(高卒資格があるんやったら、例えば定時に行って単位をちゃんととるとか?) 半年くらい前までそう思ってたんやけど、やっぱりしんどいかなあっていうのがあるかなあ。親に言うたことあったんやけど、自分が続けられるときに行きって。(資格っていうのかなあ。高卒っていうのもある意味資格やねんけど、こんなことをやってみたいなあってことありますか?) 別にないかなあ。将来的にぜんぜん考えてへんなあ。

<4bf・20歳・高校中退・女性>

(正社員にチャレンジとか考えたこと) ないです。…社員ってどう違うの? 別にアルバイトでもお金もらえるし、そんな大して変わらない。お母さんはずっとパート。

(今したいことがありますか?) パソコン。(パソコンができれば仕事がとれそう?) はい。今、使えるパソコンはない。学校とかで少しさわったことはある。(パソコンの学校に通ってみようかなという気は?) ある。お金かかれへんかったらいい。あるって妹が言ってるから。無料で教える。そういうところあったら、行って見ようと思ってる。(場所とか調べてあるの?) 調べてない。妹に聞いていってって言ってる。(パソコンの資格とったら仕事できるという話は誰かに聞いたのかな?) みんな。事務員ができる。(実際にやってるような人って知ってる?) ない。(事務員が自分に向いてると思うの? とくに思わない?) はい。(自分に向いてると思うことあるかな?) 楽な仕事。ずっと立ってない仕事とか。時間の短い仕事とか。朝早くない仕事とか。(接客とかも向いてると思わない?) うん。(いろいろやってみて、自分にあうものを探してみようという気は?) ある。

(何か仕事やってよかったことはありましたか?) 全部、つらくてしんどかった。(仕事場で友達ができたとかはありましたか?) ない。(働いていて何かよかったという経験は?) ない。(仕事したいと思う?) うん。お金の面。(趣味みたいなのものは?) 趣味、ビリヤード。

<6bf・20歳・定時制高中退・女性>

生活は、今、親に世話になっているけど、それは大体僕の中でも 26歳とか一応区切っ

で、それまでには、とりあえずまあ何とか。お金を入れてその後、家にいるかどうかかわからないけど、安定はさせたいなという。これはどうなることやら。ただ、まだ全然、どこまで続けられるか。やっぱり正社員というか、あるいは食べる額、生活していく、将来が見通せる場所に行ったほうがいいのかなどすごく迷いますね。

<5bm・20歳・定時制高中退・男性>

自分は子供は今、大変だ、持ちたくないなど。そういう気持ちですね。だから、そんなに稼げなくてもいいかなと。そうだと思うんですけど。だから極端な話、いや、一生フリーターで生きていけるんだったらそれもありかなとか思うときもあるから。

<7cm・24歳・中退後定時制高卒・男性>

ちょっと前までは正社員になることが一番だという考えだったんですけども、最近ほんとうに、今やっていることがお金にならなくても、将来自分のためになることだったらやっておいたほうが良いと思う、というのが今の考えです。とりあえず正社員を目指しますが…。でも、ちょっと揺らぎつつありますけれども。やりたいことが見つかってそれが正社員という形だったら、それはそっちのほうが良いと思うんですけども。難しいですね。この間、久しぶりに会った友人が、幼稚園の保育さんをやっていたんですけども、他にやりたいことがあって辞めて、今はアルバイトをしながらそっちの勉強をしているんです。その子がすごく楽しそうで、影響は大きかったですね。

<34ef・24歳・大卒・女性>

正規の職に就いて、就くというよりも、机に向かって鉛筆とか持ってガーッとやる職業は絶対に向いてないんですね。基本的に自分の足で歩いて経験して、人を知って、それで稼ぐ。プラスアルファとしてでも良いんですけど。多分、正規には一生つかないですね。一応的には正規につかないですね。職種的には自営になってしまうんで。(雇用されて働くということとはしないつもり?) はい。雇用して相手を使うことはあると思うけれども、僕はないですね。

<9dm・22歳・短大中退・男性>

やっぱりちゃんと正社員についてほうが良いんだろうとは思うんですけど、でも別にパートとかバイトでも良いかなと思うときも…。正規の職は、やっぱり安定している。パートやアルバイトでは、自分の時間が持てるし…。パートでもフルタイムでも、保険とかちゃんと完備しているんだったら、そんなに正社員と変わらないのかなって気もする。(仕事が見つかれば正社員になりたいですか?) それはまだはっきりわからないんですね。働けばいい、結婚ですとか、おうちにいるほうが良いなって思うんですけど。

<31ef・24歳・短大卒・女性>

通勤時間 30 分までならいいんだけど。もっと近いところがあるんならもっと近いところ。通勤は渋滞に巻き込まれると、動かないとね。もう事故なんかが、あつたりなんかすると全然動かなくて。この前も発砲事件とかがあって、警察とかが検問してたりして動かなくて、もう焦っちゃって。余裕もって出てるはずなんですけど、ギリギリに着いてしまうことが多くて。(他の条件は?) まあフルタイムで、給料はもらえたら手取りで 15 万くらいもらえたらいいなと思いますけど。あとは社会保険。保険がちゃんとしたところに入りたいし。正社員のほうが良い。やっぱ他の仕事って、事務以外の仕事をしたことがないので。自分にそれが合っているかどうかかわからないし。今の仕事だって、まだ期間がはっきりわかんないですよ。いつまでなるか。急にもう「今月まで」とかってふうに、いきなりいわれたりすると「来月からどうしたらいいのか」というのはありますけど。(自分がちょっと努力すればどっか正社員があるかなと言う気持ちありますか?) 探してあるのかな。高卒というので資格とかなんか検定とか持っても、高卒より大卒のほうが良いって企業がいます。企業の試験受けたのはこの 3 月で 2 社ですね。紹介だけです。面接の 3 件目が、今、行ってるところで、そこは受かって、前はだめ。それはホテルだったんですよ。で、なんか売店。事務だと思ったんですよ。それで行っ

たら売店の方の販売だというので。「話、違うんじゃないか」、言われたのと違ったんですよね。もうあっちから「事務では採らないから、他の所探したほうが、いいんじゃないか」と言われて。もう一つは製造だった、やっぱ事務の方がよかったということがあって。(3年後とかちょっと先のことどう思ってます?)あんまり考えていない。やっぱ。東北地区って給料も低いつて聞きましたけど。それ考えたら、なんか「他県に出て仕事探した方がいいのかな」って思ったりするんですけど、住む所とか家賃のこと考えたりすると、地元において自分の家から通ってたほうがまだいいのかなと思ったりもしますし。

<26cf・20歳・高卒・女性>

(20歳になった時にどういう仕事選びたいとか考えてることある?) やっぱり事務かサービス業。(アルバイトと正社員って違う?) 違います。正社員だと上の仕事ができる。放送みたいな、ホテルの中で放送、音楽を流す。バイトはそういうのはあんまり。宴会の中で音楽を流したりとか、話す時は切ったり。(全体の動き見てるという感じかな?) はい。仕事の内容はだいたい同じだけど、ちょっと違います。いろんなことをするって感じ。(正社員のほうが安定しているという人もいるけど、どっちかという仕事の内容のほうが気になる?) はい。やっぱお金のこともありますけど、バイトだと仕事が入るとときと入ってないときと差が出るんで、正社員は安定しているんで、親を安心させるためには正社員になった方がいいかなと思って。宴会がない時とかは入れない。

<25cf・18歳・高卒・女性>

お金は少なくともいい、少なくとも良くないけど、ある程度持ってる、持ってるじゃなくてもいいけど、何にもしてないのは、自分はいえないけど「ダメかな」って思う。今はまだいいと思うけど、もうちょっと20とか23歳になったら働いていたほうが良いと思う。それは女も男も関係なく、今は別に自分がそうだからではないけど、今はまだ遊んでてもいいかなと思うけど、アルバイトでもいいけど、もうちょっと大きくなったらちゃんと仕事したほうが良いと思う。

<24cf・19歳・高卒・女性>

バイトはしたくないです。正社員です。(正社員でなければアルバイトをするより仕事を探して無職でいる方がいい?) はい。バイトすると、そのままずっとバイトでいきそうなので。(アルバイトと正社員のイメージを教えてください?) アルバイトは小遣い稼ぎ、正社員は自分でやっていける。アルバイトは簡単な仕事で、正社員は専門的な仕事だと思います。やはり正社員になりたいですね。(周りの友達に正社員とアルバイトを気にしていない感じですか?) 気にしていません。(正社員にこだわるのは?) 正社員だとずっとそこでやっていけるから。

<14cm・19歳・高卒・男性>

その仕事にすごいやりがいを感じて、自分で続けたいと思ったらやっていきたいですね。やっぱ子どもが小さいうちに、自分が働いて世話できないとかなっちゃうと子どもがかわいそうじゃないですか。やっぱ家に余裕があるんだったら、働かなくてもいい余裕があるんだったら、できるだけ子どもの面倒はある程度子どもが大きくなるまで見たいですね。

<27cf・18歳・高卒・女性>

[小括]

多くの者にとって「こだわり」がない。仕事の内容に多少の好き嫌い、やりたい、やりたくないはあるにしても、本質的なこだわりはない。これは、もともと確固とした職業に対する展望がないためであり、また今までの経験から選択肢は限られているという一種の「諦め」にも似た意識がその背景にあると思われる。就業形態に関しても「正規雇用」は安定してい

て良いとは思ふものの、絶対に正規雇用でなければならないというほどのこだわりももっていない、あるいはもてない。まさに「食うために働く」のであり、その内容は希望としてはそれなりにはあるものの、許容範囲は比較的広い。これは、大卒者などの高等教育機関卒業者のこだわりと対照的である。多くの高校生は進学校以外に在籍しているのであり、こうした意識はむしろ多数派のものである。ここでも必要なのは、たとえ有期でも正規雇用労働をする経験であり、それを通したごく普通の労働者としてのエートスの涵養ではないだろうか。

2.12 学生時代の将来展望

結局、彼ら・彼女らは学校を通じて将来展望を持ち得たのだろうか。この節では回顧データではあるが、学生時代にどんな将来展望を持ったのかを見てみることにする。

何になりたかったんやろうな。あんまり覚えてないですね。何になりたかったとかは。多分警察官とかやっと思ったと思いますけどね。警察官というよりも、多分漫画とかをよく見ていたんで、その主人公というか、ヒーロー的存在になりたかったというのがありますね。全然正義感なかったんですけどね。

<1am・24歳・中卒・男性>

(高卒後は)卒業して2年ぐらいいは適当にバイトをして、2年ぐらいたったら結婚して専業主婦になってと思った。高校のときから思っていた。そのときに彼氏がおったわけでもないからそんなんは考えていないけれども、そのうちに彼氏もできてみたいな、適当にというか。子供も早いうちに産もうと思っていた。2人ぐらいい。高校ぐらいいではこういうイメージがはっきりあった。とりあえず、早くに子供を産んで、若いお母さんになりたくて。今思うんは、若いうちに産んでいたら子供が大きくなってそんなに年が離れていなくて、買い物とかも一緒に行ったりしたいと思う。中学校のときにもそれなりに結婚願望はあった。結婚したら専業主婦って決めてる。結婚してお金に困って生活が苦しいんやったら、多分働かな、パートとかをやると思う。でも、子供がおらんかったら働いていてもいいけれども、子供がおったら家におりたい。別に豊かじゃなくてもいい。人並みでいい。…今のカラオケのバイトが決まる前までは、卒業してから服屋で働いたり、やめたりして、大きい会社で働いているオフィスレディーにあこがれた。多分、結婚はもうできへんやろうなと思ってきたのもある。これはマジバナで結婚はできなそうやし。それで、事務というか、大きい会社で働いている人とかを見たら、やっぱり…。バイトでいいと思っていたのは、そのうち結婚すると思っていたからやし、結婚できへんと思ったら働かなあかんし、いい年してバイトっていややんか。何か、スーツを着た女にあこがれる。

<18cf・20歳・高卒・女性>

年代と家族構成によるんですけれども。若いときは30になる前ぐらいいまでですかね、それぐらいいまでやったら、どっちにしる夢追い型と定職につけないタイプ、正社員になれてもトラブルを起こしてやめてしまうタイプやったら、夢追い型やったら、そろそろもう身を固めなあかんのんちゃうかなとは思うんです。やっぱり人生一人で生きていかなあかんようになるじゃないですか。そうやって生きていくんですけれども、でも、定職についてだめな、これもあかん、これもあかんと、ちょっと嫌やからやめてしまうとかというタイプの人に対しては、構わせえへんから、最後に痛みを見てもそれは自業自得やでという感じのような気がするんですね。そこで何でその人が勤め上げられへんのやというので、それは周りが悪いからやと言うんだけど、じゃあ、その人も自分で食べていく道を探さへんかったらあかんのんちゃうかなと思うんです、どうしても。周りが悪い悪い言うていたって仕方ないんやし。ついていないんやったら、自分で農業のほうに

行ってもいいしみたい。やっぱり食べて、寝て、それはしなあかんからみたい。(結婚相手がフリーター?) 想像つかない? 何となく、定職が続けられへんという人やったとしても、もし好きになった人やったらというのかどうか分からないんですけども、どうしようもなくなったら、じゃあ、私が食べる分もあるしなど。別に、そのかわり結婚するかどうか分かりません。そのままずっと平行線でつかず離れずで暮らしていくかもしれません。この人とやったら一緒にいて気持ちがいいからという感じで、つき合う人の密度が濃い目のつき合う人という感じでずっと続けていくかもしれませんし、子供が生まれたら別なんでしょうけど。子供が生まれたらフリーターはちょっと困る。自分がガツンと働くようになるなどは思いますね。自分一人でも育てられるようにしようと思う、子供を。

<20cf・18歳・高卒・女性>

小学校低学年とかは漫画家になりたいとか言ってましたね。でも、結構小学校とか中学校とかは、あの、夢を聞かれるのがすごく嫌やったんですよ。別になんか、「誰もがこれになりたいって思ってるわけでもないじゃないかい」とか思ってて、結構しらけてた人やったんですよ、私は。で、なんか絶対あるじゃないですか、夢。なんか、将来の夢は? とかね。べつに、普通にただたんに働いてて普通に何になるとかでもなく、やりたい人だっておるしとかって思って、そんな感じだったんですよ。まさにそんな感じになってんのかなあと(笑)。

<39cf・19歳・高卒・女性>

小学校の時は、看護婦。ずっと私は看護婦になりたいって思ってて。小学校の低学年から、幼稚園の時もアルバムに書いてるぐらい。家によく遊び来てた親の友達が看護婦さんやって、その話をずっと聞いていたのも多少あると思うんですけど。産婦人科で働いてたみたいで、その人。すごく赤ちゃん可愛いよ、とか聞いてて。中学生ぐらいになってきたら、給料がいいとか、そういう理由で看護婦になりたいなって思って。

<22cf・19歳・高卒・女性>

(小さい頃、何か夢のようなものはありましたか?) 有名になりたかった。テレビに出たかった。歌手。歌手は最近まで、中学生まで思ってた。(誰か、好きで歌詞を覚えて歌手とかある?) 忘れた。歌好き。(音楽は得意やったん?) 嫌い。(歌手としてデビューしたてみたいなのという夢をもっていた?) 友達にも言われた。歌手の事務所とか紹介するって。一回言われたことある。オーディション受けたりしたらいいねんとか、めっちゃ言われた。それは最近。オーディション受けようかなとは、思えへん。中学校のときは、オーディションとか受けてみたいと思ってたけど…。なんとなんとなんとなん。将来は、主婦をやりたい。(働いてなくて家において、子ども育てているという感じ?) 微妙。

<6bf・20歳・定時制高中退・女性>

一番最初は電車の運転手になりたかったです。その後、プロ野球選手ですかね。小学校の高学年ぐらいかな、プロ野球選手。(中学校では) 勉強オンリー、しましたね。中3のときは特に。僕はやっぱり特殊だったと思いますね。周りから見られてました。優等生。やっぱり家が状態が状態だったし(母親が慢性疾患) うちの父親が高校を出ていわゆる中小企業に勤めているわけで、中学のときなんか、一流大学、一流企業に入れば一生安泰だって、僕はそういう意味で大学に進学したかったんです。あくまでも一流大学、一流企業、その道でした。特に職業とかいうんじゃないで。

<7cm・24歳・中退後定時制高卒・男性>

一応、で、コンピューター関係選んだのが、兄貴が東京でやってるんですよ、コンピューター関係。〇〇区の△△システムズっていう会社でやってるんですけどね。やっぱり兄貴に憧れてっていうか一応兄貴からコンピューター教えてもらって面白いなあって思ったんで。一応8歳離れてるんですけど年が。東京で頑張ってるんですけど。僕自身は地元

にずっといたいと、早くから思ってた。地元がいいと思ったのは中学3年から高校にかけてですね。中学3年の時、高校のビジネス科決めたりする時にもう東京まで行くことを考えずに自分のなかでは、ここで仕事するという気持ちがあった。どうしても出てしまうと、頼れる友達とかずっと仲良かった友達とか、また一から友達になったりしたり、また親からも離れるという親とも電話でしかできないんで、やっぱあつて話さないとダメな部分とかもあると思うんで出たくないなど。地元、親とか友達とかそういう人間関係から離れたくないって…。(お兄さんがいるだけに東京に行こうと思えば行けるよね?) 行きたくないですね。親のことが心配…それもないんですけど、やっぱり地元が一番。親は(東京に)行けとも残れとも言わない。

<43cm・20歳・高卒・男性>

美容師になりたいとか看護婦になりたいとか、そういうのは大体こう、夢としてはありましたけど、具体的にどうしたらいいのかというのは、そういうのまでは全く考えてない、なかったですね。進学とかそういうことは考えてなかったですね。

<26cf・20歳・高卒・女性>

[小括]

客観的には疑問が残るが、学校に通っているころには、多くの者にそれなりの「将来展望」のようなものはあった。男性の場合はバンド活動をしたとか、女性の場合は結婚と関連することが多い。いずれも、将来の「生活」に関わる展望ではあるが、職業や働くこととの関連は薄いと思われる。

2.13 学校に関して思っていること

積極的に学校にかかわった経験がない者が多いせいか、学校に対する思いを聞くことはほとんどできなかった。この節では、学校に関して思っていることを見つめることにする。

もう5年前から思っているんですけど、学校へ行って、もっと遊んだらよかったとか、そういう面が見えてくるじゃないですか。周りは遊んでいるっぽい雰囲気が出てたりとか、学校へ行っていたらまだ甘えられる部分もあるんやろうなというのが。友達が意外と「あしたから休みや」、「何の休みなん」みたいな感じですけどね、「春休み」とか「この間、試験を受けたからちょっと当分休みやねん」とか、「そんなんあるのん」みたいな。中学は中学で休みがありますけど、まさかそんな長い休みが、しかも、僕、働いていて毎日毎日仕事へ行っていて、忘れるじゃないですか、前の仕事の休みとか。学校へ行っている子は、高校へ行っている子は行っている子で、それまで一生懸命学校へ行って、やっと休みやという感覚かもしれないですけど、僕からしたら毎日行って、休みなんかないじゃないですか。そのときにふっと、「ああ、やっと休みや」と言われても「えっ、そうなん」みたいな、「休み、あるのん」みたいな。高校へ行っておけばよかったなというのは、休みがええなということですね。これから高校に入り直す、定時制とかは、ないです。何か今はないですね。この先また、やっぱり行っときゃよかったと思うんですよ、絶対に。でも、今はないです。今、前を振り返って、ああ、行っときゃよかったかなと思う自分がいてるから、やっぱりこの先もいてるやろうなという。

<1am・24歳・中卒・男性>

学校がもっと自由だったらよかった。

<18cf・20歳・高卒・女性>

もっと外から働いている人が来てしゃべるといのも聞かせてあげたほうがいい感じが

する。僕が高校にいるときには思わなかったんですけど、でも、就職するときに、例えばこういう面談のときに、しゃべるのは先生じゃないですか。でも、先生は大学を出て、バイトはしていたかもしれないけど、社会のことを知らないじゃないですか。その人に社会人になったらという話をされても、今考えたらむかつくなど。あんたらは社会を知らんわ、社会に出たことがあるのかと。やっぱり実際に働いている人間と働いていない人間は違うと思う。給料をちゃんとくれへんとか、残業をつけられへんとか、そんな話は先生は知らないわけじゃないですか。就職が来たら、その紙どおりじゃないにせよ、それに近いものやと思って、それしかわからないじゃないですか。でも、卒業生は苦情を言わないじゃないですか、自分の会社のことを。だから、社会に出たらアルバイト気分で残業をいっぱいつけたりもできないし、きれいごとばかりじゃないし、上から押しつけられれば嫌なことでもせなあかんしということを知らずにみんな就職していくわけじゃないですか。こんなに給料くれるんや、残業もこんなにつくんだ、勤務次第…。でも、実際そんなわけじゃないじゃないですか。残業をさせられるし、勤務時間外に働かされたり、休憩時間だというのに働かされたり、そんなんばかりなのに、きれいごとすぎるかな、ちょっと。

<51em・22歳・専門学校卒・男性>

[小括]

「学校がもっと自由だったらよかった。」<18cf・20歳・高卒・女性>に代表されるように、結局は彼ら・彼女らにとって学校は自分たちを容れる窮屈な「器」でしかない。もちろん、積極的に入りたくて入っているわけではない。しかし多くの生徒がそうであるように、彼ら・彼女らもまた「みんなが行くから」学校に行っていたのである。基本的な生活習慣が身につけていなかったり、乱れたりすることに起因する不登校やさまざまな不適応を経験しながらも、多くは高校を卒業しているのである。将来の「夢」の実現のために「学校に行き」、相応の成績を修めてさらに進学するとか、正規雇用労働者として就職するなどといった「学校をひとつのステップとしてとらえ、利用する」という発想を持ち合わせていない。都市部ではこうした傾向が顕著であり、地方では表面的には不適応を起こすケースは少ないものの、その心性には共通のものを感じた。それは言い方を変えれば「学校的価値を受け入れていない」ことであり「学校の存在価値を認識していない」ことである。したがって当然のように「学校に通ったことの恩恵」を受けていない。おそらく、彼ら・彼女らの親や兄弟姉妹たちもその多くは学校に行ったことによる社会的恩恵を享受していない。その多くが「学校があるから行った」「学校に合格したので通ってみた」のであり積極的意味は見いだしていない。高校に進学しなかった者、中退してしまった者の幾人かが、現状の不利益の原因を探したとき、学校的価値を受け入れられなかったことに思い当たり、「もっとちゃんと学校生活を送っておけばよかった」と回想するのである。

3. まとめと提言

彼ら・彼女らにとって「学校とは何だったのか」を考えると、全体からうかがえるのは消極的な「居場所」としての学校のイメージである。とくに行きたくて行っているとはいえない学校、部活動をはじめ何かに没頭することもない学校生活、授業が楽しいわけでもなく、

かといってどうしてもやりたいことがあるという理由で中退するというほどでもない。これは最初から学校の積極的機能を認知していない、できないことの反映である。「学校に行く理由もなく、授業はつまらないものの辞める理由もない」ので、ただ何となく通い、友人と過ごすことで時間をつぶし、夕方からはアルバイト労働に従事する。こうした生活は「進学校」では決してみられないものである。「居場所」を超えた学校の意味があったかと考えると、厳しいものがある。というのは、彼ら・彼女らは家庭や地域といった文化的な背景に裏付けられた価値意識さらにはエートスを持ち、それらは学校が望ましいとして教えようとする価値と相容れない面も多い。学校の重要な機能のひとつに「社会化」があることは繰り返し述べてきたが、少なくとも今回のヒアリング対象者に関しては、この「社会化」の機能を十分に果たしているとは言い難い。その端的な現れが「学校」から「社会」（職業社会・労働社会）へ円滑に移行していない、できていないことであると思われる。要するに、一般的な高校からの進路分化のシステムに乗ることをせずに、あるいはできずに、元々もっていた階層文化に規定された行動が優先されているのである。言い方を換えれば、そうした一般的な生徒、その多くは上層ホワイトカラー的な価値システム、それを反映した学校の社会化の機能にコミットせずに「降りてしまっている」といえるのではないだろうか。

この章では、主に高卒以下の学歴の若者のヒアリングデータを中心にみているが、彼ら・彼女らに共通するのは「とくに目的もなく、将来に希望をつなぐわけでもなく、将来の希望に応じてというよりは学業成績によって規定された」高校に進学して（あるいは進学せず）、都市部では入学直後からアルバイトに従事する生活である。その意味では彼ら・彼女らはすでに中学校卒業直後、多くの場合高校生になったとたんに、非正規雇用労働者としての生活をはじめたということができる。アルバイトに関しては都市部と地方では大きな差がある。これは非正規労働市場の規模の違いを反映している。地方ではアルバイトさえも十分になく、あるいは校則で禁止されていたために、「親に迷惑をかけたくない」と思いながら漠然と高校生活を送っている。「将来に夢を持ち、少しでもそれに近づくために進学し、高校生活を充実させるとともにさらに上級の学校、できれば威信の高い大学等への入学を目指して学業に励む」という、いわばホワイトカラー的な価値意識はうかがえないし、おそらくはもっていない。それよりは、家庭の、その多くは親の生活から好むと好まざるとを問わずに受け継いだ文化に行動が規定されている。それは「いま」を最優先する価値であり、文化である。

「夢」や「希望」という約束されない、不確定な目標よりは、またその実現のために「我慢」したり「努力」したりすることを要求される目標よりは、「いま」目の前にある「リアルな」、「我慢」や「努力」を条件にしない現実コミットするのである。

結局、彼ら・彼女らは「学校」に行き、そこをある時期の（在学期間の）「居場所」にしていたが、学校が教えようとした価値に触れはしたものの、受け入れ内在化できなかったのである。

こうしたことをふまえて相対的に低い学歴の若者の社会への円滑な移行に関して以下の提

言をしたい。

① 公共の職業教育機関の受け入れの拡大

かつての職業訓練校（技術専門校）のような経済的負担の軽い職業訓練機関で、卒業後職に就けない者、職に就こうと迷っている者の教育機会を拡充する。場合によっては中高年者と一緒でも良い。ただ「働け」といっても「何をしたらよいかわからない」という答えが返ってくるだけだから、スキルを身につけ、そこから将来を展望する方向付けを学校、職業紹介機関、職業訓練機関が連携して行うことが求められている。いろいろな意味での自己責任を強調する声は強者の論理であり、生まれたときからの格差を覆い隠す論理になりかねない。就業機会の不平等・不均衡に目を向け、劣位にある者に対して手厚い施策をしない限り社会の安定はあり得ないとさえ思える。

② アルバイト労働の評価～働く世界の認識を深める

1998年の学校教育法および関連法規の改正で「校外での学修」を高校の単位として認めることが可能になった。もちろん手続き的な難しさも承知しているが、日常的に多くの生徒がアルバイトをしている高校では、アルバイトを原則禁止したり黙認するのではなく、学校に取り込む工夫をしても良いのではないかと。インターンシップ（就業体験）も重要ではあるが、アルバイトは生徒たちが日常に行っている真剣でリアルな「労働体験」である。学校では必ずしも十分に教えられない「働く生活」自体を、またそのエートスを、アルバイト先と連携して「教育」するのである。言ってみれば、学校教育をアルバイト労働体験で補うのである。リアルな労働体験を学校教育の視点で再構成して彼ら・彼女らに提示し、その上でより安定した、キャリア形成の展望を持てる職業生活については社会生活への方向付けをすることが必要であると思われる。

③ 若年労働者のワークシェアリングの試み

今、緊急に求められているのは若者を受け入れ、働かせる「場」である。働く「場」があれば、彼ら・彼女らはきちんと働ける。将来展望や生活設計もできるだろう。現にかなり劣悪な労働条件下の労働も経験してきて、それなりの労働に対する見方はあるのである。現在の社会経済状況下では、彼ら・彼女らに働く「場」を十分に用意できないことは容易に想像がつく。しかし、実際に体験してみなければわからないのが彼ら・彼女らであり、その機会は多いほどいい。少数のいわば「勝ち組」にだけそうした機会を与えるのではなく、より多くの人に機会を与えることこそ大切なのではないか。地方でヒアリングしていると、就職に関して特定の「伝統校」「有力校」だけに求人が偏る傾向が顕著に感じられる。そこで、ワークシェアリングの発想が今こそ求められ、実行されるべきだと思う。モデルとなるのは沖縄である。沖縄は伝統的に失業率が高いが、賃金から見ると正規雇用と非正規雇用の格差が相対的に小さい。富が一部の者に重点的に配分されるよりは、多くの者がそこそこに働くことを通して富を得るシステムこそ目指すべきものなのではないだろうか。このシステムの存在を学校教育を通して伝えたとき、大きな夢を描かせることは難しくなるかもしれない。しか

し、逆に学校を通じた成功物語のストーリーから「降りる」ものも少なくなるだろう。なぜなら、「みんながそこそこ」の生活は、現実そのものであるからである。

引用・参考文献

青木紀編著（2003）『現代日本の「見えない」貧困』明石書店

耳塚寛明編（2000）『高卒無業者の教育社会学的研究』文部省科学研究費報告書

耳塚寛明編（2003）『高卒無業者の教育社会学的研究（2）』日本学術振興会科学研究費報告書

長須正明編（2001）『フリーター』学習研究社